

【APPENDIX】

【APPENDIX①】 プログラム実施概要

全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムの全体概要

✓ アントレプレナーシップ教育の裾野拡大に向けて、下記の要領で全国の学生に対してプログラムを提供した

プログラム概要

名称	全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム
概要	<p>新たなウイルスによる感染症の流行や大規模災害、急速なテクノロジーの進展等、大きな課題や困難、急速な社会環境の変化が生じています。また、SDGs目標や脱炭素社会の実現、巨大な富の偏在化への対応等の複雑で一筋縄では解決できないグローバル課題への対応が求められています。</p> <p>このような状況下、様々な困難や変化に対し、与えられた環境のみならず自ら枠を超えて行動を起こし新たな価値を生み出していく精神（アントレプレナーシップ）を育むことが重要です。</p> <p>以上のような背景に踏まえ、文部科学省では、全国の大学生・大学院生を対象としたオンライン形式でのアントレプレナーシップ人材育成プログラムを試行的に実施し、全国の大学生・大学院生のアントレプレナーシップの醸成を目指しています。</p>
募集対象	大学生・大学院生（社会人学生を含む。）
開催形式	オンライン会議ツールZOOM、オンラインコミュニケーションツールTeams （場合によっては一部の大学でオフライン会場も設定する可能性あり）
受講料金	無料（通信費等は自己負担）
申込期間	2021年10月20日～2021年11月24日
受講終了証発行条件	全ての講義、グループワークに参加し、全ての宿題を提出した受講者

全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムのコース概要

- ✓ アントレプレナーシップ教育の裾野拡大に向けて、神戸大学の鶴田先生と東京大学の馬田先生の協力をいただき、全国の学生に対してプログラムを提供した

コース概要 (1/3)

コース名	担当講師	対象者	実施時期
<p>コース1</p> <p>SDGs、地域の社会課題を本気で考えるためのコース</p>	 <p>神戸大学 鶴田宏樹先生</p>	<p>SDGs目標等の社会が抱える問題に関心のある方</p> <p>複雑な社会課題を紐解く力、解決策を考える力を身に着けたい方</p> <p>募集人数：最大250名</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2021年12月27日（月） 13時20分～14時50分 2021年12月27日（月） 15時10分～16時40分 2022年 1月 5日（水） 13時20分～14時50分 2022年 1月 5日（水） 15時10分～16時40分 2022年 1月 8日（土） 13時20分～14時50分 2022年 1月 8日（土） 15時10分～16時40分
<p>コース2</p> <p>新しいチャンスを見つけて課題解決やビジネスに活かす具体的な方法論を学ぶコース</p>	 <p>東京大学 馬田隆明先生</p>	<p>ビジネスに限らず、今後新しいことを始めようという方</p> <p>募集人数：最大800名</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2021年12月 2日（木） 19時00分～20時30分 2021年12月 9日（木） 19時00分～20時30分 2021年12月16日（木） 19時00分～20時30分 2021年12月23日（木） 19時00分～20時30分 2022年 1月 6日（木） 19時00分～20時30分 2022年 1月13日（木） 19時00分～20時30分 2022年 1月20日（木） 19時00分～20時30分 2022年 1月27日（木） 19時00分～20時30分

全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムのコース概要

- ✓ アントレプレナーシップ教育の裾野拡大に向けて、神戸大学の鶴田先生と東京大学の馬田先生の協力をいただき、全国の学生に対してプログラムを提供した

コース概要 (2/3)

コース名	コース概要	コンテンツ	特徴
コース1 SDGs、地域の社会課題を本気で考えるためのコース	私たちの日常生活の中から社会課題を発見し、解決策を模索していくプログラムとなります。いかに課題設定ができるか、社会的価値や経済的価値をどのように創出していくかを学んでいくプログラムとなります。	オンデマンド講義とオンライン講義の組み合わせで、共感・課題設定・アイデアの発想・価値定義を「右往左往」しながら思考を反復するコースです。授業前にオンデマンド講義視聴の事前宿題を出します。	これまで、災害などに対してどのように準備、対策、復興を進めるかについて、震災を経験した東北や神戸、北海道地域の学生と一緒に考えてきました。その中で、単純化できない複雑な社会課題について、多様な視点から問題を整理して認識し、そこから新しい価値を生み出す方法論を開発してきました。複雑で解決が一筋縄ではいかない問題を如何に理解するのか、そこから設定した課題を解決することでいかなる満足度を社会に与えるのか、そのための考え方を体験できます。
コース2 新しいチャンスを見つけて課題解決やビジネスに活かす具体的な方法論を学ぶコース	新しいチャンスを見つけて活かしていくための具体的な方法論を、ビジネスでの起業という文脈に即しながら身に付けることができます。特に今後のキャリアの中で新規事業や起業に携わりたい人や、新しい何かを始めて社会の役に立ちたい人が、そのための基本的な考え方を学ぶことにこの講義を使っただければと思います。	実践的なプロジェクトを通して、ビジネスにおける仮説検証と初期のビジネスの立ち上げ方について学ぶコースです。動画視聴とワークの一部が宿題として出ます。	東京大学では起業家が続々と生まれています。本プログラムの講師は数年にわたり東京大学で起業家の支援をしてきており、優れた起業家が共通して持つ資質や能力を傍で見してきました。本プログラムではその中でも特に重要な仮説検証や実験といったスキルを、グループワークでの実践を通して皆さんにお伝えできればと思います。

全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムのコース概要

- ✓ アントレプレナーシップ教育の裾野拡大に向けて、神戸大学の鶴田先生と東京大学の馬田先生の協力をいただき、全国の学生に対してプログラムを提供した

コース概要 (3/3)

コース名	具体的に何に役立つのか	学生に向けたメッセージ
コース1 SDGs、地域の社会課題を本気で考えるためのコース	起業への挑戦も含め、複雑な社会の課題に立ち向かい、これからの人生を生き抜くためのスキルと考え方として役立ちます。 具体的には、デザイン思考、システム思考、論理的思考、複眼的問題意識を学び、グループワークでの実践で身に着けます。	複雑な社会の課題に立ち向かい、新しい価値を社会に提供する力を身に付け、一緒に新しい時代を創っていきましょう。
コース2 新しいチャンスを見つけて課題解決やビジネスに活かす具体的な方法論を学ぶコース	新しいチャンスを見つけて活かしていくための具体的な方法論を、ビジネスでの起業という文脈に即しながら身に付けることができます。 特に今後のキャリアの中で新規事業や起業に携わりたい人や、新しい何かを始めて社会の役に立ちたい人が、そのための基本的な考え方を学ぶことにこの講義を役立てていただきたいと思います。	本プログラムでお伝えするスキルは、起業に限らず、研究やサークル活動など、新しい何かを始めるときに使えるため、ビジネスに興味のない方もぜひ一度参加してみてください。また、オンラインで実施するため、同じ趣味を持つ他大学の同年代ともつながれる機会ともなります。ぜひ活用してください。

全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムの公式HP

✓ グループワークをメインとした本プログラムであることから、学生間の主体的なチャレンジを訴求するためのデザインとした

プログラム公式HP (1/4)

メインビジュアル



背景・事業紹介 プログラム内容 期待される成果 募集要項 お問い合わせ

文部科学省令和3年度
産学官連携支援事業委託事業

全国アントレプレナーシップ 人材育成プログラム

世界を変える、自分を変える
一歩踏み出す勇気を手に入れてみませんか？
様々な困難や変化に対し、与えられた環境のみならず自ら
枠を超えて行動を起こし新たな価値を生み出していく精神
(アントレプレナーシップ) の醸成を目指すプログラムで
す。

これからの日本の未来を担う、多くの学生のご参加をお待
ちしています。

< 重ねる2コース >

1. SDGs、地域の社会課題を本気で考えるためのコース (冬季休暇中3日間集
中) 2021年12月27日開始
2. 新しいチャンスを見つけて課題解決やビジネスに活かす具体的な方法論を学
ぶコース (毎週木曜日の約8週間) 2021年12月2日開始

ABOUT
背景・事業紹介

新たなウイルスによる感染症の流行や大規模災害、急速なテクノロジー
の進展など、大きな課題や困難、急速な社会環境の変化が生じてい
ます。また、SDGs目標や脱炭素社会の実現、巨大な富の偏在化への
対応等の複雑で一筋縄では解決できないグローバル課題への対応が求
められています。

このような状況下、様々な困難や変化に対し、与えられた環境のみなら
ず自ら枠を超えて行動を起こし新たな価値を生み出していく精神
(アントレプレナーシップ) を育むことが重要です。

以上のような背景に踏まえ、文部科学省では、全国の大学生・大学院
生を対象としたオンライン形式でのアントレプレナーシップ人材育成
プログラムを試行的に実施し、全国の大学生・大学院生のアントレ
プレナーシップの醸成を目指しています。

プログラム内容 応募フォーム

プログラム内容



PROGRAM
プログラム内容

全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム (以下、本プログラム) では下記2
つのコースを開催いたします。

コース1：冬季休暇期間中3日間の集中コース※
私たちの日常生活の中から社会課題を発見し、グループワークを通じて解決策を模索
していくプログラムとなります。いかに課題設定ができるか、社会的価値や経済的価
値をどのように創出していくかを学んでいくプログラムとなります。

※授業前にオンデマンド講義視聴の事前研修 (15分×5本程度を想定)

コース2：毎週木曜日の約8週間のコース
アントレプレナーシップを学び、実際に行動に結びつけていくために重要となる、仮
説立案・検証、プロトタイプ開発や顧客インタビュー、市場調査や競合調査などにつ
いて、グループワークを通じて学んでいくプログラムとなります。

※動画視聴とワークの一部が毎週 (一回当たり30分から50分程度を想定)

全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムの公式HP

- ✓ 各コース、各回の内容を示し、プログラム詳細では講師からのメッセージを掲載し、プログラムのイメージが伝わるようにデザインした

プログラム公式HP (2/4)

コース内容



1 神戸大学 橋田宏樹



2 東京大学 梶田隆博

コース1: SDGs、地域の社会課題を本気で考えるためのコース

コース2: 新しいチャンスを見つけて課題解決やビジネスに活かす具体的な方法論を学ぶコース

■概要
私たちの日常を営む中から社会課題を発見し、解決策を模索していくプログラムとなります。いかに課題設定ができるか、社会的価値や事業の価値をどう生み出すかについて、各学生がいくつプログラムとなります。

■対象: 大学生、大学院生
-SDGs目標などの社会が抱える問題に関心のある方
-地域社会課題を解決し、解決策を考える力を身に付けたい方

■概要
新しいチャンスを見つけて活かしていくための具体的な方法論を、ビジネスでの起業という文脈に即しながら身につけていただきます。特に今後のキャリアの中で新規事業や起業に関わりたい人、新しい何かを始めたい社会に立ちたい人が、そのための基本的な考え方を学ばずには過ごしていただくことが重要です。

■対象: 大学生、大学院生
-ビジネスに前向き、今後新しいことを始めようという方

プログラム詳細

第1回 12/27 (日) 13時00分~14時00分
イントロダクション:問題設定、問題分析チームビルディング

第2回 12/27 (日) 15時10分~16時40分
課題設定とアイデアマップ

第3回 1/5 (木) 12時00分~14時00分
ソリューションアイデア創出
ブレインストーミング

第4回 1/9 (月) 15時10分~16時40分
課題定義

第5回 1/8 (日) 13時00分~14時50分
社会的価値と経済的価値

第6回 1/8 (日) 15時10分~16時40分
再興【一部】課題ローリング

プログラム設計・運営教員

Group Work #1
チームでアイデア共有・決定
(機会によっては一部の大学でオンライン会議も実施する可能性があります)

Group Work #2
ブレインストーミングでのアイデア共有
(機会によっては一部の大学でオンライン会議も実施する可能性があります)



講師からのメッセージ

1 神戸大学・橋田宏樹
SDGs、地域の社会課題を本気で考えるためのコース

- ◆ どのような人を対象としているのか
SDGs目標などの社会が抱える問題に関心のある方
複雑な社会課題を理解し、解決策を考える力を身に付けたい方
- ◆ 具体的な何に役立つのか
起業への挑戦も含め、複雑な社会の課題に立ち向かい、これからの人生を生き抜くためのスキルと考え方として役立ちます。
具体的には、デザイン思考、システム思考、論理的思考、複眼的問題解決を学び、グループワークでの実践で身に付けます。
- ◆ プログラムの特徴
これまで、実務などに対してどのように準備、対策、復興を進めるかについて、震災を経験した東北や神戸、北海道地域の学生と一緒に考えてきました。その中で、単純化できない複雑な社会課題について、多様な視点から問題を整理して認識し、そこから新しい価値を生み出す方法論を開発してきました。複雑で解決が一筋縄ではいかない問題を如何に理解するのか、そこから設定した課題を解決することでいかに満足な社会に与えるのか、そのための考え方を体験できます。
- ◆ 学生に向けたメッセージ
複雑な社会の問題に立ち向かい、新しい価値を社会に提供する力を身に付け、一層に新しい時代を創っていきましょう。
- ◆ プログラムの内容
オンデマンド講義とオンライン講義の組み合わせで、共通・課題設定・アイデアの発想・価値定義を「右往左往」しながら思考を反復するプログラムです。
- ◆ グループワーク
Teamsを用いたオンライングループワークを行います。
- ◆ 宿題
授業前にオンデマンド講義視聴の事前宿題を出します。
1本15分程度、全部で5本程度を想定しています。

2 東京大学・梶田隆博
新しいチャンスを見つけて活かす具体的な方法論を学ぶためのコース

- ◆ どのような人を対象としているのか
ビジネスに限らず、今後新しいことを始めようという方
- ◆ 具体的な何に役立つのか
新しいチャンスを見つけて活かしていくための具体的な方法論を、ビジネスでの起業という文脈に即しながら身に付けることができます。
特に今後のキャリアの中で新規事業や起業に関わりたい人、新しい何かを始めたい社会に立ちたい人が、そのための基本的な考え方を学ぶことにこの講義を役立てていただきたいと思っています。
- ◆ プログラムの特徴
東京大学では起業家が絶えず生まれています。本プログラムの講師は数年にわたり東京大学で起業家の支援をしてきており、優れた起業家が共通して持つ資質や能力を学ばせていただきました。
本プログラムではその中でも特に重要な仮説検証や実験といったスキルを、グループワークでの実践を通して皆さんにお伝えできればと思います。
- ◆ 学生に向けたメッセージ
本プログラムでお伝えするスキルは、起業に限らず、研究やサークル活動など、新しい何かを始めるときに使えるため、ビジネスに興味のない方もぜひ一度参加してみてください。また、オンラインで実施するため、同じ興味を持つ他大学の同年代ともつながれる機会となります。ぜひ活用してください。
- ◆ プログラムの内容
実践的なプロジェクトを通して、ビジネスにおける仮説検証と初期のビジネスの立ち上げ方について学ぶプログラムです。
- ◆ グループワーク
2回行います。1回目は既存のスタートアップのアイデアを使ったワークを行います。2回目は自分たちのアイデアを用いたワークを行います。
- ◆ 宿題
仮説検証とワークの一部が宿題として出ます。一回当たり30分から50分程度を想定しています。

戻る

全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムの公式HP

- ✓ 起業家講演やバブソン大学の教員による特別講演、受講による成果を提示し、学生の受講インセンティブになるような情報を掲載した

プログラム公式HP (3/4)

特別講演

特別スピーカー

◆セッションタイトル

「人生を面白くするキャリアの選択」
12/2 (木) 19時00分～20時30分
(コース2・第1回講義内)



南場 賢子(なんば ともこ)
株式会社ディー・エヌ・エー
代表取締役社長

1988年マッキンゼー・アンド・カンパニーに入社。
1990年ハーバード・ビジネス・スクールにてMBAを取得し、1996年にマッキンゼーパートナー(役員)に昇任。1999年に株式会社ディー・エヌ・エーを設立し、現在は代表取締役社長を務める。2015年より横浜DaNAベイスターズオーナー。著書に「不恰好経営」。

◆セッションタイトル

コオロギの基礎研究から応用研究、
そしてスタートアップ起業へ
1/6 (木) 19時00分～20時30分
(コース2・第5回講義内)



渡邊 康人(わたなべ たかひと)
株式会社グリラス
代表取締役社長

福島県生まれ、36歳。福島大学バイオインベション研究所・助教、博士(工学)。2013年福島大学大学院博士後期課程修了後、福島大学農工食品産業センター・専任助教授を経て、同職。大学4年生から15年連続でコオロギ研究を継続中で、コオロギを社会の役に立てるべく2019年に(株)グリラスを起業。ゲノム情報、ゲノム編集技術を活用し、食用コオロギをメインに有用昆虫の高純度培養の研究を行う。趣味は福島の美味しい食料とお酒を楽しむこと。実家は福島市内で飲食店を営む。

特別講師

◆特別講義タイトル

一歩踏み出せ！一歩踏み出せ！一歩踏み出せ！
1/5 (木) 20時00分～21時00分



山川 昌弘(やまがわ ますひろ)
バブソン大学
アントレプレナーシップ専攻

起業家、失敗学、経営戦略、及び国際ビジネスの分野で執筆をする。ピーター・ドラッカー経営大学院にて経営学修士課程修了(MBA)。テキサス州立大学にて国際経営学博士号取得(PHD)。10年間エンジェル・投資家として新規事業開発やスタートアップ設立の経験を持つ。数々の起業コンサルに從事するとともに、自らもベンチャーのボードメンバーを務める。OIC, Japanアジアカンパニオン・キャピタル代表理事、WENIN社代表取締役。

日本での名言：「全米ナンバーワンビジネススクールで教える起業家の思考と実践は、あなたも世界を変えうる起業家になる」

期待される効果

期待される効果



本プログラム受講を通じて、
以下のようなスキルの獲得・学びを得ることができます。

- ◆自ら課題を認識し、解決しようとする力
- ◆課題設定の手法
- ◆課題解決に向けたアイデア創出法、デザイン思考
- ◆スタートアップに関する理解
- ◆顧客インタビューの手法
- ◆ビジネスプラン作成の手法
- ◆受講修了証を発行 (※それぞれのコースごとに受講修了証が発行されます。)

【発行条件】

コース1・2：全ての講義、グループワークに参加し、全ての宿題を提出した受講者
※本プログラムは令和3年度「アントレプレナーシップ人材の裾野拡大に向けたプラットフォーム形成に係る調査分析等事業」の一環として、全国の大学生を対象とした、オンライン形式でのアントレプレナーシップ人材育成プログラムを統一的に実施し、実地上的課題点や成果を調査・分析し、全国の大学等にフィードバックすることで、大学等におけるアントレプレナーシップ教育の取組の改善等に活用してもらうことを目的としています。

全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムの公式HP

- ✓ 募集要項を掲載し、直接応募フォームにアクセスできるように設計し、問い合わせ窓口やSNSアカウントを記載した

プログラム公式HP (4/4)

募集要項

APPLICATION REQUIREMENTS

募集要項

開催期間	開催期間：2021年12月2日～2022年1月(予定)
募集人数	コース1：最大250名、コース2：最大800名 ※実プログラムの受講も可能です。 ※応募者多数の場合、受講できない場合がございます。お早めに申し込めください。
募集対象	大学生・大学院生（社会人学生を含む。）
受講料金	無料（ただし、通信費等は自己負担となります。）
受講内容	原則、全てのプログラムはオンラインで実施（ただし、大学の協力が得られた場合、一部オフライン実施の会場が設定される場合があります。）
受講資格	特になし。学部・専攻を問わずご応募いただけます。
開催場所	オンライン会議ツールZOOM、 オンラインコミュニケーションツールTeamsを使用予定
受講時間	上記のコース各回の開催時間とは別に、プログラム内容によって個別グループワーク等+αの時間投入が必要
応募受付期間	2021年11月24日（水）17時 （受付を終了いたしました）
選考結果の通知	応募後1週間程度を目処に、受講の可否に関わらず、結果をメールにてお伝えします。

応募フォーム

問い合わせ窓口

CONTACT

お問い合わせ

本プログラムにご関心をお持ちいただきまして、ありがとうございます。

ご意見・ご相談など、お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせの内容確認後、1-2営業日以内に担当者よりご連絡申し上げます。

※内容によっては、ご回答にお時間を頂戴してしまう場合がございます。予めご了承ください。

※数日経過した後に返信がない場合、入力いただいたメールアドレスの誤り/事務局回答メールが迷惑メール等に含まれている場合がございます。

ご確認の上、必要ございましたら再度お問い合わせくださいますようお願い申し上げます。

お問い合わせはこちら

アントレプレナーシップ人材育成プログラム運営事務局

運営委託者：有限責任監査法人トーマツ

entrepreneurship2021@tohmatu.co.jp

受付/回答時間 10:00～17:00（土日祝日・年末年始を除く）



全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムのポスター

✓ プログラム概要や募集要項等を掲載し、QRコードを掲載し、公式HPにアクセスできるようなデザインとした

プログラムポスター (1/2)

文部科学省令和3年度 産学官連携支援事業委託事業

全国アントレプレナーシップ 人材育成プログラム

世界を変える、自分を変える
一歩踏み出す勇気を手に入れてみませんか？
様々な困難や変化に対し、与えられた環境のみならず自ら枠を超えて行動を起こし新たな価値を生み出していく精神（アントレプレナーシップ）の醸成を目指すプログラムです。

選べる2コース

1. SDGs、地域の社会課題を本気で考えるためのコース
(冬季休暇中3日間集中) 2021年12月27日開始
2. 新しいチャンスを見つけて課題解決やビジネスに活かす具体的な方法
論を学ぶコース (毎週木曜日約8週間) 2021年12月2日開始

公式HPはこちら



<https://antropreneurship.2021.mext.go.jp/>

背景・事業紹介

新たなウイルスによる感染症の流行や大規模災害、急速なテクノロジーの進歩など、大きな課題や困難、急速な社会環境の変化が生じています。また、SDGs 目標や持続可能な社会の実現、巨大な蓄の偏在化への対応の複雑で一部では解決できないグローバル課題への対応が求められています。

このような状況下、様々な困難や変化に対し、与えられた環境のみならず自ら枠を超えて行動を起こし新たな価値を生み出していく精神（アントレプレナーシップ）を育むことが重要です。

以上のような背景に踏まえ、文部科学省では、全国の大学生・大学院生を対象としたオンライン形式でのアントレプレナーシップ人材育成プログラムを試行的に実施し、全国の大学生・大学院生のアントレプレナーシップの醸成を目指しています。



期待される成果

本プログラム受講を通じて、以下のようなスキルの獲得・学びを得ることができます。

- ◆ 自ら課題を認識し、解決しようとする力
- ◆ 課題設定の手法
- ◆ 課題解決に向けたアイデア創出法、デザイン思考
- ◆ スタートアップに関する理解
- ◆ 顧客インタビューの手法
- ◆ ビジネスプラン作成の手法



奨励金交付金発行
【コース1】全ての履修、グループワークに参加した受講者 【コース2】全ての履修、グループワークに参加した受講者

※本プログラムは令和3年度「アントレプレナーシップ人材の創出拡大に向けたプラットフォーム創成に係る調査研究（中核事業）」の一環として、全国の大学生を対象とした、オンライン形式でのアントレプレナーシップ人材育成プログラムを試行的に実施し、実施上の課題点での改善・分析し、全国の大学生等にフィードバックすることで、大学等におけるアントレプレナーシップ教育の創出の推進に活用してもらうことを目的としています。

全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムのポスター

✓ プログラム概要や募集要項等を掲載し、QRコードを掲載し、公式HPにアクセスできるようなデザインとした

プログラムポスター (2/2)

プログラム内容

全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム (以下、本プログラム) では下記2つのコースを開催いたします。

1

神戸大学 鶴田 宏樹

コース1：SDGs、地域の社会課題を本気で考えるためのコース

■ 趣旨
 起業への情熱もあふれ、多様な社会の課題に立ち向かい、これからの人生を生き抜くためのスキルと考え方を身に付ける3日間のプログラムです。
 具体的には、デザイン思考、システム思考、醸造的思考、課題解決型学習を学び、グループワークでの実践で身に付けます。
■ 対象：大学生・大学院生
 ・SDGs目標などの社会が抱える課題に関心のある方
 ・課題や社会課題を解決し、解決策を考える力を身に付けたい方
■ 開催
 ・秋学期にオンラインで実施(15分×5本授業を予定)

2

東京大学 馬田 隆明

コース2：新しいチャンスを見つけて課題解決やビジネスに活かす具体的な方法論を学ぶコース

■ 趣旨
 新しいチャンスを見つけて活かしていくための具体的な方法論を、ビジネスでの応用という文脈に置きながら身に付けることができます。特に今後のキャリアの中で新機軸事業や転機に携わりたい人や、新しい何かを始めて社会の役に立ちたい人が、そのための基本的な考え方を学ぶことにこの機会を捉えていただければと思います。
■ 対象：大学生・大学院生
 ・ビジネスに関らず、興味深いことを始めようという方
■ 開催
 ・個別相談とワークの一部が対面
 (一日当たり30分から50分程度を予定)

プログラム設計・運営教員

募集要項

開催期間	2021年12月2日～2022年1月(予定)
募集人数	【コース1】最大200名、【コース2】最大800名 ※尚プログラムの受講も可能です。 ※応募者多数の場合、受講できない場合がございます。お早めに申し込みください。
募集対象	大学生・大学院生(社会人学生を含む。)
受講料金	無料(ただし、通信費等は自己負担となります。)
受講内容	原則、全てのプログラムはオンラインで実施(ただし、大学の協力が得られた場合、一部オフライン実施の会場が設定される場合があります。)
受講資格	特になし。学部・専攻を問わずご応募いただけます。



アントレプレナーシップ人材育成プログラム運営事務局

運営事務局：有限責任監査法人トーマツ
 e-mail: entrepreneurship2021@tohmatsumo.jp 受付/回答時間：10:00～17:00(土日祝日・年末年始を除く)



文部科学省
 MINISTRY OF EDUCATION,
 CULTURE, SPORTS,
 SCIENCE AND TECHNOLOGY JAPAN

全国プログラム実施における工夫（受講前の心構え）

- ✓ プログラム申込者に対して、コースポリシーを示し、プログラムの背景とプログラムを通して得られる能力を示した

コースポリシー

コース1

コース2

全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムレジリエンス・コース（コース1） コースポリシー

■ 対象（募集要項）

- I. SDGs 目標などで表現される社会が抱える問題に関心がある方
- II. 複雑な社会課題を紐解く力と解決策を考える力を身につけたい方

■ 背景

- ・ ビジネスの意義が消費者の抱える問題を解決することにあるという前提において、アントレプレナーにとって問題（現状とあるべき姿のギャップ）の本質を捉えることは非常に重要である。
- ・ 解決すべき「問題」の本質が社会にある場合、捉えるべき問題は社会の現状と社会のあるべき姿のギャップとなる。
- ・ 技術革新のみで社会問題を解決することは難しく、イノベーションと表現されるような価値の創造とそれに伴う社会構造の変革が求められている。
- ・ 災害からの復興は、平時では顕在化していなかった社会問題を解決することである。
- ・ 大災害などの大きなダメージで顕在化した社会問題の解決で実現される「復興」も社会構造の変革であると言える。
- ・ 社会問題に対する解決策（社会的価値）は、事業・ビジネス（経済的価値）と両立してはじめて社会に持続的に実装することができる。
- ・ 社会問題を解決するための事業・ビジネス（ソーシャルビジネス）が創出されるためには、①社会における問題の本質を捉える、②解決策を生み出す、③価値を実装するためのビジネスを考える、というプロセスを行ったり来たりする必要がある。
- ・ 3つのプロセスに関わる「考え方」と「実践スキル」が、ソーシャルアントレプレナーに求められる。

■ 担当

- ・ 鶴田宏樹（Day1）：対象Iの期待に応える①問題の本質を捉える力の醸成
- ・ 祇園景子（Day2）：対象IIの期待に応える②アイデアを考え出す力の醸成
- ・ 三上 淳（Day3）：対象IIの期待に応える③提供すべき価値の定義・実装をする力の醸成

※本コースでは、それぞれの力の発揮に必要な「考え方」を提供する。

■ 育てたい能力（大項目と小項目）

- ① 問題の本質を捉えるためには、問題を複眼的かつ俯瞰的に捉える必要がある。そのために、
 - ・ 問題構造の理解
 - ・ 問題の要因同士のつながりの理解というシステム思考に基づく考え方に焦点を当てる。
- ② 解決策となるアイデアを考え出すためには、
 - ・ 思考の発散と収束と組み合わせの理解
 - ・ 主観で判断する必要がある。そのために、デザイン思考に基づく考え方に焦点を当てる。
- ③ 解決策を実装するための価値（ビジネス）を考えるためには、価値を如何に捉えるか、そして実装モデルを組み上げる必要がある。そのために、
 - ・ 社会的価値と経済価値の理解
 - ・ ビジネスモデルを構想する方法に焦点を当てる。

- これらの3つの力に関わる「考え方」を体験することで実践への動機付けとする

全国プログラム実施における工夫（受講前の心構え）

- ✓ プログラムを円滑に進めるために、受講者に対して受講における行動規範を示した

行動規範

コース1

コース2

この Teams は授業に参加する数百名が使う Teams です。そのため、いくつかのルールを守ってご利用いただくようお願いします。プラットフォームの運営者が用意した使い方のほか、講師からは以下の点をお願いさせていただきます。

■ 行動規範

本授業の行動規範は授業内活動並びに授業外の宿題での両方に適用されます。特定の行為がこの行動規範の範囲内であるかどうかわからない場合は、本 Teams の所定のチャンネルから報告することをお勧めします。

この授業は、年齢、カースト、市民権、障害、教育、民族、性同一性や表現、移民の有無、経験のレベル、神経多様性、身体的外見や体格、国籍、社会経済的地位、性的指向、人種、宗教（またはその欠如）に関わらず、すべての人にポジティブな体験を提供することを目指しています。

本授業の参加者は、思いやり、忍耐力、尊敬、そして親切であること、効果的にコミュニケーションをとること、そしてわからないときは助けを求めることが求められます。

この授業は多様性のある方々が参加しているコミュニティです。多様性についての議論に慣れていない方は、ガイドラインに従うことをお勧めします。たとえば、疎外されたグループの生活体験が有効であることを認識すること。多様性についての激しい感情を友人と一緒に処理すること。疎外されたグループの話に耳を傾けること。より包括的になる方法を学ぶことに前向きになること。差別について話している人の口調を批判しないようにすること。インクルーシブな文化の構築には、時間、エネルギー、リソースが必要であることを理解すること。などです。

本授業では、容認できない特定の種類の行動があります。不適切な行動には以下のようなものがあります。意図的な脅迫、ストーカー行為、尾行、嫌がらせの写真撮影や録音、議論や講演などに対する持続的な妨害、性差別的、人種差別的、同性愛嫌悪的、トランスフォビア、能力差別的な言葉やその他の排除的な言葉、歓迎されない性的注目や性的環境を助長する行為、歓迎されない身体的接触、暴力や暴力の脅迫、不適切な行為への影響や助長などです。

不適切な行動の結果、授業への継続参加や Teams への参加ができなくなることがあります。

（本行動規範は Elastic の [Code of Conduct](#) を参照しました）

■ その他、本 Teams でやってはいけないこと行動規範

- 自分のチームメンバー以外の広範囲にわたるメンション
- 自社やアルバイト先の宣伝

見つけ次第削除するほか、これらの利用が続くようであれば授業から退出いただきます。

全国プログラム実施における工夫（受講前後のフォローアップ）

- ✓ 講義内容の理解促進や受講時における不安や悩みの解消等を目的とし、授業後及び次回授業前にオフィスアワーを実施した

オフィスアワー

コース1

コース2

授業後のフォローアップ （オフィスアワー）

授業後のフォローアップ
講義前後でのオフィスアワーの開催

“みなさんからの質問やざっくばらんな会話をする「オフィスアワー」をオープンしています。

これまでに数人が来てくれ、皆さんの興味の共有や講師の自己紹介などをしました。

先日は、地方創生の話で盛り上がったり、教育のあり方と問題について熱い議論を交わしたり。楽しい時間です。”

- 第1回 12/24 開始前の心構え、受講生のタイプ確認
- 第2回 12/28 Day1の振り返り、受講生の興味関心の理解
- 第3回 1/4 Day2受講の心構え、Day1の振り返り
- 第4回 1/7 Day2の振り返り、受講生の興味関心の理解
- 第5回 1/11 Day3の振り返り、感想
- 第6回 1/14 コースに対する受講生から見た課題



全国プログラム実施における工夫（受講後の評価）

✓ プログラム受講による受講者への教育効果を測定するために、ルーブリックによる自己評価を行った

ルーブリック評価

コース1

コース2

レジリエンスコース1 3つのスキル 自己評価シート

3つのスキル			5	4	3	2	1	
Day1 12/27	問題の本質を捉える力の醸成	1-1	問題認識の仕組みを理解する	問題の概念と、問題の構造を理解して、課題を設定するプロセスについて、完全に理解できた。	問題の概念と、問題の構造を理解して、課題を設定するプロセスについて考えることができた。	問題の概念の重要性を理解できた。	問題認識の概念について、50%程、理解できた。	問題認識の概念について、全く理解できなかった。
		1-2	システム思考で、問題を捉える	システム思考で、問題を捉えることができた。	—	—	—	システム思考で、問題を捉えることが、できなかった。
		1-3	ワークシートを作成する	ワークシートを作成するワークに参加して、完成に十分貢献し、議論し、設定した課題を検証することができた。	ワークシートを作成するワークに参加して、完成に十分貢献し、議論することができた。	ワークシートを作成するワークに参加して、80%まで完成させることに貢献できた。	ワークシートを作成するワークに参加して、50%まで完成させることに貢献できた。	ワークシートを作成するワークに参加できなかった。
Day2 1/5	アイデアを考え出す力の醸成	2-1	思考の発散・収束を理解する	色々な方法を組み合わせ、思考の発散・収束のプロセスを設計できた。	どの方法を組み合わせると、思考の発散・収束ができるのかが理解できた。	どの方法を使うと、思考の発散あるいは収束ができるのかが理解できた。	思考の発散・収束の意味が理解できた。	思考の発散・収束の意味が理解できなかった。
		2-2	アイデアを出す・選ぶ	ブレインストーミング (BS) ・ 親和図法 (KJ法) ・ 強制連想法を使って出したアイデアから、一つのアイデアを選び、その理由を論理的に説明できた。	ブレインストーミング (BS) ・ 親和図法 (KJ法) ・ 強制連想法を使って出したアイデアから、一つのアイデアを選ぶことができた。	ブレインストーミング (BS) ・ 親和図法 (KJ法) ・ 強制連想法を使って、アイデアをたくさん出せた。	ブレインストーミング (BS) ・ 親和図法 (KJ法) ・ 強制連想法を使うことができた。	ブレインストーミング (BS) ・ 親和図法 (KJ法) ・ 強制連想法を使うことができなかった。
		2-3	ワークシートを作成する	Jamboardを作成するワークに参加して、完成させ、議論し、検証することができた。	Jamboardを作成するワークに参加して、完成させ、議論することができた。	Jamboardを作成するワークに参加して、80%まで完成させることができた。	Jamboardを作成するワークに参加して、50%まで完成させることができた。	Jamboardを作成するワークに参加できなかった。
Day3 1/8	提供すべき価値の定義・実装する力の醸成	3-1	ビジネスプランニングの重要性を理解する	ビジネスプランの重要性を深く理解し、実践でも活用できると感じられた。	ビジネスプランの重要性を、深く理解できた。	ビジネスプランの重要性を、概ね理解できた。	ビジネスプランの重要性を、あまり理解できなかった。	ビジネスプランの重要性を、全く理解できなかった。
		3-2	提供価値を定義し、ビジネスプランを考える	提供価値を定義し、実現性の高いビジネスプランを考えることができた。	提供価値を定義し、実現したいビジネスプランを考えることができた。	提供価値を定義し、ビジネスプランを考えることができた。	提供価値を定義できたが、ビジネスプランを考えることができなかった。	ビジネスプランを考えることができなかった。
		3-3	ワークシート作成する	ワークシートを作成するワークに参加して、完成させ、議論し、検証することができた。	ワークシートを作成するワークに参加して、完成させ、議論することができた。	ワークシートを作成するワークに参加して、80%まで完成させることができた。	ワークシートを作成するワークに参加して、50%まで完成させることができた。	ワークシートを作成するワークに参加できなかった。

全国プログラム実施における工夫（学生間の相互評価）

- ✓ 12月に実施した1つ目のプロジェクトのピッチに対する評価として、学生間の相互評価のためのルーブリックを作成した

学生間相互評価ルーブリック（1/2）

コース1

コース2

1つ目のプロジェクトのピッチを評価するための基準表

評価軸	Excellent (4)	Great (3)	Good (2)	Developing (1)
課題の量と質	大勢の顧客がとても大きなお金を払う、目の付け所の良い課題のように見える	それなりの数の顧客がそれなりのお金を払う課題のように見える	少ない顧客が最低限のお金を払う課題のように見える	顧客はお金を払ってまで解決していないように見える
解決策の量と質	その製品やサービスは、今までの類似製品より10倍以上の機能的価値や社会的価値、経済的価値、感情的体験を顧客に提供している	その製品やサービスは、今までの類似製品より数倍の機能的価値や社会的価値、経済的価値、感情的体験を顧客に提供しそうである	その製品やサービスは、今までよりも少し良い機能的価値や社会的価値、経済的価値、感情的体験を顧客に提供しそうである	その製品やサービスには価値が見いだせない（課題自体に価値があっても解決策には価値がない）
トラクションの量と質	短期間（1週間）にも関わらず、優れたトラクションを得ている	今後見込みのありそうなトラクションを得ている	トラクションを得ようと努力はしているが、うまくいっていない	トラクションを得ようとした形跡がない
ピッチの質	ピッチは明確かつ簡潔に構成されており、魅力が十分に伝わった	ピッチとしておおむね理解できる内容だった	ピッチにはなっているが、よく分からない部分もあった	ピッチとしての構成になってない

全国プログラム実施における工夫（学生間の相互評価）

- ✓ 1つ目のプロジェクトの時と同様に、1月に実施した2つ目のプロジェクトのピッチに対する評価においても一部の項目を変更した上で、学生間の相互評価のルーブリックを作成した

学生間相互評価ルーブリック（2/2）

コース1

コース2

2つ目のプロジェクトのピッチを評価するための基準表

評価軸	Excellent (4)	Great (3)	Good (2)	Developing (1)
課題の量と質	大勢の顧客がとても大きなお金を払う、目の付け所の良い課題のように見える	それなりの数の顧客がそれなりのお金を払う課題のように見える	少ない顧客が最低限のお金を払う課題のように見える	顧客はお金を払ってまで解決していないように見える
解決策の量と質	その製品やサービスは、今までの類似製品より10倍以上の機能的価値や社会的価値、経済的価値、感情的体験を顧客に提供している	その製品やサービスは、今までの類似製品より数倍の機能的価値や社会的価値、経済的価値、感情的体験を顧客に提供しそうである	その製品やサービスは、今までよりも少し良い機能的価値や社会的価値、経済的価値、感情的体験を顧客に提供しそうである	その製品やサービスには価値が見いだせない（課題自体に価値があっても解決策には価値がない）
MVPの質	MVPによる検証を、優れた起業家並みにやっている	MVPによる検証を、それなりにやっている	MVPによる検証は行っているが、十分な検証とは言えない	MVPによる検証を行っていない
トラクションの量と質	短期間（1週間）にも関わらず、優れたトラクションを得ている	今後見込みのありそうなトラクションを得ている	トラクションを得ようと努力はしているが、うまくいっていない	トラクションを得ようとした形跡がない
ピッチの質	ピッチは明確かつ簡潔に構成されており、魅力が十分に伝わった	ピッチとしておおむね理解できる内容だった	ピッチにはなっているが、よく分からない部分もあった	ピッチとしての構成になってない

全国プログラム実施における工夫（受講終了時発行の受講終了証）

- ✓ 受講完了した受講者に対しては受講終了証を発行した

受講修了証

コース1

コース2

受講修了証

お名前 殿

あなたは文部科学省令和3年度産学官連携支援事業委託事業「アントレプレナーシップ人材の裾野拡大に向けたプラットフォーム形成に係る調査分析等業務」における下記のプログラムを受講し、下記のプログラムを修了したことを証します

受講プログラム

「全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム」コース1

(SDGs、地域の社会課題を本気で考えるためのコース)

2022年2月1日

アントレプレナーシップ人材育成プログラム運営事務局

(調査受託機関：有限責任監査法人トーマツ)

全国プログラム実施における工夫（受講終了時発行の受講終了証）

- ✓ 受講完了した受講者に対しては受講終了証を発行した

受講修了証

コース1

コース2

受講修了証

お名前 殿

あなたは文部科学省令和3年度産学官連携支援事業委託事業
「アントレプレナーシップ人材の裾野拡大に向けたプラットフォーム形成に係る調査分析等業務」における下記のプログラムを受講し、下記のプログラムを修了したことを証します

受講プログラム

「全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム」コース2

（新しいチャンスを見つけて課題解決やビジネスに活かす具体的な方法論を学ぶコース）

2022年2月1日

アントレプレナーシップ人材育成プログラム運営事務局

（調査受託機関：有限責任監査法人トーマツ）

【APPENDIX②】 有識者委員会の概要

有識者委員会の目的・概要

- ✓ 6名の有識者委員から組成される有識者委員会を開催し、ステークホルダーの参加促進、プログラムの教育的価値の向上についてご議論いただいた

有識者委員会目的・概要

目的

- アントレプレナーシップ教育の推進、エコシステムの構築について以下テーマに関する意見交換を実施した
 - ステークホルダーの参加促進について
 - プログラムの教育的価値の向上について

概要

- ステークホルダーの参加促進に関する討論では、下記論点についてご意見をいただいた
 - 受講機会の創出
 - 各大学間の連携によるノウハウ共有の促進
- プログラムの教育的価値の向上に関する討論では、下記論点についてご意見をいただいた
 - オンライン形式のプログラム開発と運営
 - PDCAサイクルによる検証

委員構成

- 昨年度有識者委員および今年度全国プログラム講師 計6名

実施方法

- 開催時期：2022年3月7日（月） 10：00～12：00
- 開催形式：委員はオンライン参加、文部科学省・トーマツは現地参加によるハイブリッド形式

有識者委員会 参加者一覧

✓ 有識者委員の構成は下記のとおりである

参加者一覧 (1/2)

	氏名	役職	参加方法
有識者 委員	馬田 隆明 様	東京大学 産学協創推進本部スタートアップ推進部 ディレクター FoundX/アントレプレナーシップ教育担当	オンライン
	鶴田 宏樹 様	神戸大学 学術・産業イノベーション創造本部 准教授	オンライン
	藤田 恭嗣 様	株式会社メディアドゥ 代表取締役社長 CEO	オンライン
	牧野 恵美 様	広島大学 学術・社会連携室 産学連携推進部 スタートアップ推進部門 准教授	オンライン
	山川 恭弘 様	バブソン大学 アントレプレナーシップ 准教授	オンライン
	山下 哲也 様	山下計画株式会社 代表取締役 CEO	オンライン

※ 五十音順に記載

有識者委員会 参加者一覧

✓ 文部科学省、事務局の構成は下記のとおりである

参加者一覧 (2/2)

	氏名	役職	参加方法
文部 科学省	下岡 有希子 様	科学技術・学術政策局 産業連携・地域振興課 室長	現地
	和仁 裕之 様	科学技術・学術政策局 産業連携・地域振興課 専門職	現地
	中原 康行 様	科学技術・学術政策局 産業連携・地域振興課 調査員	現地
	井上 睦子 様	科学技術・学術政策局 産業連携・地域振興課 課長	オンライン
	浅井 雅司 様	科学技術・学術政策局 産業連携・地域振興課 課長補佐	オンライン
	加藤 浩介 様	科学技術・学術政策局 産業連携・地域振興課 課長補佐	オンライン
	森高 智弥 様	科学技術・学術政策局 産業連携・地域振興課 係員	オンライン
	杉本 樹信 様	科学技術・学術政策局 産業連携・地域振興課 行政調査員	オンライン
	榮枝 浩志 様	科学技術・学術政策局 産業連携・地域振興課 研修生	オンライン
事務局	森本 陽介	デロイトトーマツ マネジャー	現地

有識者委員のご経歴

✓ 有識者委員のご経歴は下記のとおりである

有識者委員のご経歴

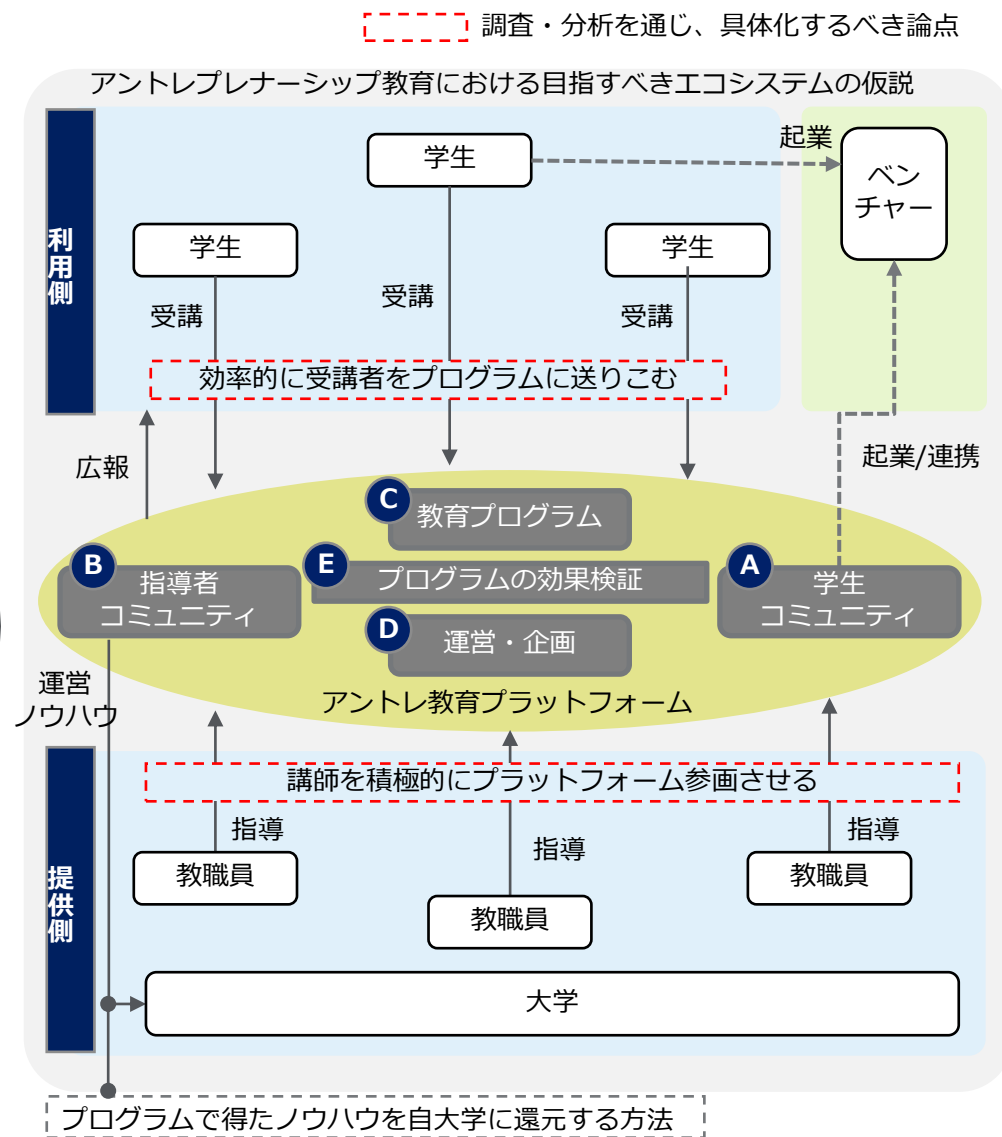
	所属・氏名	ご経歴
大学関係者	東京大学 産学協創推進本部スタートアップ推進部ディレクター：FoundX / アントレプレナーシップ教育担当 馬田 隆明 様	トロント大学卒業後、日本マイクロソフト株式会社に入社し、「Microsoft Visual Studio」のプロジェクトマネージャーやMicrosoftの最新技術を伝えるテクニカルエバンジェリスト等でスタートアップ支援に携わる。2016年6月より現職にて、学生や研究者のスタートアップ支援活動に従事し、学業以外のサイドプロジェクトを行う「東京大学本郷テックガレージ」や卒業生・現役生・研究者向けスタートアップのインセプション（起点）プログラム「東京大学FoundX」のディレクターを務める。著書に『逆説のスタートアップ思考』、『成功する起業家は「居場所」を選ぶ』。
	神戸大学 学術・産業イノベーション創造本部 准教授 鶴田 宏樹 様	神戸大学大学院自然科学研究科博士課程後期課程修了、日本学術振興会特別研究員、2002年神戸大学学術・産業イノベーション創造本部助手を経て、2005年より現職。2016年に神戸大学工学研究科准教授をに就任。「レジリエンス社会を牽引する起業家精神育成プログラム」の開発や神戸大学バリュースクールでは、産業界・社会の課題設定と社会実装を目指す新しい産学官共同研究プロジェクトの設計を担当。新しい学問の創生と新しい教育手法に関する活動を展開。
	広島大学 学術・社会連携室 産学連携推進部 スタートアップ推進部門 准教授 牧野 恵美 様	上智大学法学部、コロンビア大学ジャーナリズムスクール（MS）修了後、日本経済新聞・米州総局の現地採用記者として米国のベンチャー起業を経営家を取材。帰国後は主に会議通訳に従事。その後、クレアモント大学院大学ピーター・F・ドラッカー・アンド・マサトシ・イトウ経営学院（MBA）、PhD（経営学）を取得し、九州大学准教授、東京理科大学准教授を経て現職。現職では、経営学研究に加え、起業家教育プログラムの設計と実施のほか、スタートアップエコシステムの構築支援を担当。2018年1月から2021年11月まで日本ベンチャー学会の理事を務める。
	バブソン大学 アントレプレナーシップ 准教授 山川 恭弘 様	慶応義塾大学法学部、クレアモント大学ピーター・ドラッカー経営大学院にて経営学修士課程（MBA）修了、テキサス州立大学ダラス校国際経営学博士号取得。2009年より現職にて、学部生、MBA、エグゼクティブ向けに起業学を教える。多数の起業コンサルに従事し、ベンチャーのアドバイザー・ボードを務める。2018年CICジャパン・ベンチャーカフェ東京代表理事就任。博士課程就学前に10年間、日本の電力・通信業界での新規事業開発やスタートアップ設立等に従事。著書多数。
支援者	株式会社メディアドゥ 代表取締役社長 CEO 藤田 恭嗣 様	1973年、徳島県旧木頭村出身。1994年大学3年時創業、1996年法人設立。2013年マザーズ、2016年東証一部上場。電子書籍事業を行う全ての出版社及び電子書店と直接口座を開設し、電子書籍業界において流通シェア37%を持つ業界トップのポジションと、全てのシステムを内製していることが強み。一方、人口1,000人の故郷徳島「木頭」で柚子加工場やキャンプ場を開設するなど地方創生事業にも取り組む。2019年8月、徳島大学産業院 教育・経営支援部門の招聘教授に就任。2020年には起業家支援を目的とした一般社団法人徳島イノベーションベースを設立し、代表理事就任。
	山下計画株式会社 代表取締役 CEO 山下 哲也 様	マサチューセッツ工科大学にてMBAを取得。NEC・Motorolaにて携帯電話のシステム研究開発・国際標準化に従事、NTTドコモでは3G・i-mode及びスマートフォン戦略担当として、海外展開・各種戦略提携・スマートフォン導入等に20年以上従事。2012年、ITイノベーションの研究も起業家へのメンタリング・アントレ教育を提供する山下計画株式会社を設立。岡山大にてアントレ教育プログラムを設計・講座開設した実績をもち、2016年より神戸市と米国500Startupsの共同アクセラレーターのLiaison Officerとして設計・統括を務め、神戸市にて117社の起業家に対しメンタリングを提供。現在、兵庫県・神戸市・国連UNOPS共催アクセラレータープログラムの統括を務める。

※ 各区分において五十音順に記載

アントレプレナーシップ教育の目指すべきエコシステムにおける検証論点の全体像

- 各論点について初期仮説を整理し、アントレプレナーシップ教育における目指すべきエコシステムの検証を行うために有識者委員会の論点を整理した

分類	検証すべき論点	初期仮説
ステークホルダーの参加促進	受講機会の創出	A 全国の学生を対象としてアントレ教育の認知・関心を高めるための情報発信および受講意欲を高めるための学生コミュニティの設計・運営
	各大学間の連携によるノウハウ共有の促進	B 指導者の参加を促し、活発な交流を実現
プログラムの教育的価値の向上	全国規模で大人数に提供でき、教育効果の高いプログラムの開発と運営	C 教育的価値の高いプログラムの開発
	PDCAサイクルによる検証	D 円滑かつ効率的な運営手法の確立
		E プログラムの効果測定と改善方法の確立



検証内容を踏まえたディスカッション論点

✓ ステークホルダーの参加促進とプログラムの教育的価値の向上についてディスカッション論点を整理した

ディスカッション論点

分類	検証すべき論点	初期仮説	検証内容	ディスカッション論点
ステークホルダーの参加促進	受講機会の創出	A 全国の学生を対象としてアントレ教育の認知・関心を高めるための情報発信および受講意欲を高めるための学生コミュニティの設計・運営	学生の認知・関心の醸成が不足している課題に対し、 認知拡大・関心醸成の方法について 検証を行う アントレ教育の受講環境が未整備である課題に対し、 全国プログラムを実施し、学生の反応を通して検証を行う	<ul style="list-style-type: none"> アントレ教育の裾野拡大に向けて、学生の認知を高め、参加を促す方法や全国プログラムに参加した学生のコミュニティを活性化させる、受講意欲を高める方法についてディスカッションを行う
	各大学間の連携によるノウハウ共有の促進	B 指導者の参加を促し、活発な交流を実現	全国プログラムへの参加を促し、オンライン上での コミュニティ形成や自大学へのプログラムの還元の可能性に関する教職員の反応について 検証を行う	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の参加を促す方法や全国プログラムに参加した教職員のコミュニティを活性化させるための方法についてディスカッションを行う
プログラムの教育的価値の向上	全国規模で大人数に提供でき、教育効果の高いプログラムの開発	C 教育的価値の高いプログラムの開発	アントレ教育の 裾野拡大に資するプログラムの開発及び各大学への展開の可能性 について検証する	<ul style="list-style-type: none"> 全国プログラムの講師陣（コース1 神戸大学 鶴田宏樹先生、コース2 東京大学 馬田 隆明先生）よりプログラム概要についてご説明をいただいた上で、教育効果の高いプログラムの開発と運営についてディスカッションを行う
	教育効果の高いプログラムの開発と運営	D 円滑かつ効率的な運営手法の確立	オンライン形式のプログラムでの 効率的な運営方法や運営体制 やオンラインならではの インタラクティブな受講環境 について検証する	
	PDCAサイクルによる検証	E プログラムの効果測定と改善方法の確立	個々の学生への教育効果の測定方法やプログラムの在り方の評価方法 について検証する	<ul style="list-style-type: none"> 全国プログラムの有効性を定量的に示す評価方法や全国プログラムと各地域との連携方法等についてディスカッションを行う

- ✓ 課題・本年度検証した内容を踏まえて、今後の施策内容の初期仮説についてご意見をいただいた

A ディスカッション論点まとめ

A
【学生】
受講機会の創出

課題	本年度検証した内容	今後の施策内容（初期仮説）
<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生のアントレ教育受講率は<u>1%</u>しかない <p>【学生側の課題】 認知・関心の醸成が不十分</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生の間で認知が広まっておらず、<u>心理的なハードルが高く</u>、受講の妨げとなっている 社会全体として、重要性の理解が不足しており、<u>学生の受講機会や受講で得た知識や経験の活用する機会が不足している</u> <p>【提供側の課題】 環境が未整備</p> <ul style="list-style-type: none"> アントレ教育を実施している国内の大学は<u>27%</u>ほど 	<p>学生側の課題に対して検証した内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 本プログラムのWebサイトへの訪問者数は約<u>2.4万人</u> 上記の内容から、アントレプレナーシップ教育への<u>潜在的な需要はある</u>といえる 「起業」というメッセージを前端的に使わずに情報発信を行うことで、<u>様々な層の学生の参加を促すことができた</u> <p>提供側の課題に対して検証した内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 本プログラムに全国の学生約<u>1,400名</u>が申し込み、定員1,050名の枠を超えたアントレプレナーシップ教育を実施していない大学の学生も多く参加した 	<p>A-I 認知を広め、関心を持たせる方法について</p> <ul style="list-style-type: none"> アントレ教育の裾野拡大に向け、<u>学生に対してどのような内容を発信すべきか</u> <ul style="list-style-type: none"> ▶ アントレ教育のフェーズによって、発信すべき内容が異なる ▶ 動機付け・意識醸成：→キャッチーさ+心理的安全性 ▶ コンピテンシーの形成：→能力開発+実践の機会 <p>A-II 関心を醸成させ、自分事に捉えさせる方法について</p> <p>受講意欲を高めるインセンティブ創出について</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生の<u>心理的安全性を高め、どのようにコミュニティを活性化させるか</u> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 学生間の横と縦の繋がりを強化 ▶ グローバルの繋がりの形成 ▶ アーティスト等との交流 ▶ 教職員のフォローアップ体制を強化 ▶ 学生TAによるフォローアップ

- ✓ 認知を広め、関心を持たせる方法について、広報対象者の論点と広報内容の論点と広報手法の論点についてのご意見をいただいた

A 認知を広める方法について

A

【学生】
受講機会の創出

有識者委員のご意見まとめ

A- I

認知を広め、関心を持たせる方法について

- アントレ教育の裾野拡大に向け、学生に対してどのような内容を発信すべきか
 - 【広報対象者の論点】
 - **ターゲット学生像の明確化：**
 - ✓ 性別、学年、地域、留学経験有無等を踏まえたターゲット学生像（ペルソナ）を明確にする必要がある
 - **ロールモデルの設定：**
 - ✓ アントレ教育のゴールイメージとして具体的なロールモデルの設定が有効である
 - 【広報内容の論点】
 - **ブランディング戦略の策定：**
 - ✓ 一貫したメッセージ、根底にある提供価値を発信し、ブランドの構築をすべきである
 - **プログラムの目的の多様化：**
 - ✓ ビジネス、就職、ソーシャルイノベーション、クリエイション等の多様な目的や切り口を用意すべきである
 - **具体的な受講イメージを想起させる情報提供：**
 - ✓ 講義内容、得られるベネフィット、受講者の雰囲気等を事前に伝えるべきである
 - 【広報手法の論点】
 - **ペルソナに応じたマーケティング戦略の策定：**
 - ✓ ペルソナに応じて異なる関心テーマや課題感を踏まえたプロモーション施策を検討すべきである
 - **アントレ教育未実施大学を含む各大学への周知協力の依頼：**
 - ✓ 全国の学生に一定の需要があることから、学内の全学生への周知ツールを活用した周知が有効である
 - **メディアとの連携による周知：**
 - ✓ 特に地方においては、メディアとの連携による地盤固めが重要である
 - **インフルエンサーや学生間のネットワークの活用：**
 - ✓ SNS上で発信力のあるインフルエンサーの巻き込みや国内外の学生を巻き込んだ広報プランの策定が重要である

- ✓ 関心を醸成させ、自分事に捉えさせる方法と受講意欲を高めるインセンティブ創出について、学生の心理的安全性向上の論点と実践の機会創出の論点等についてのご意見をいただいた

A 関心を醸成させ、受講意欲を高める方法について

A
**【学生】
受講機会の創出**

有識者委員のご意見まとめ

A-II

関心を醸成させ、自分事に捉えさせる方法について

受講意欲を高めるインセンティブ創出について

- 学生の心理的安全性を高め、どのようにコミュニティを活性化させるか
【学生の心理的安全性向上の論点】
 - 教職員およびTAのサポートやフォロー：
 - ✓ 不安を抱えている学生に対する丁寧なフォローは必要である
 - 事前教育やチームビルディング：
 - ✓ グループワーク時における受講者間のスキルギャップによる学習効果の低下や満足度の低下を防ぐために、事前学習やチームビルディング（横・縦のつながり）を学ぶことは有効である
- 【実践の機会創出の論点】
 - オフラインの交流・実践の場の創出：
 - ✓ アントレ教育の裾野拡大において、オンラインとオフラインの良いところを融合させる必要がある
 - ✓ オフラインでの学生間・教職員間の交流、起業家等とのつながり、リアルな実践の場は重要である
 - コミュニティへの参加の促進：
 - ✓ 中長期的に学生の学習意欲や参加意欲を高めるためには、コミュニティへの参加の促進が重要である
 - Before-Afterの成長の可視化：
 - ✓ 受講後の変化、成長の可能性を提示し、オポチュニティーを伝えるべきである
- 【その他全般的な学生コミュニティの活性化の論点】
 - 自分とプログラムの関係性の認識：
 - ✓ 自分の関心事、自分のキャリア等へのつながりを認識し、当事者意識を持たせる取組が重要である
 - ✓ 民間企業の人事担当者の参画により、就職活動時で意識する学生が増えると考えられる
 - アウトプットとフィードバックの機会創出：
 - ✓ インプットだけでなく、アウトプットとフィードバックの機会を多く創出する工夫が必要である
 - ゲーム性の取り込み：
 - ✓ 学生のスキル・経験値を定量的に評価し、学習に応じてレベルアップしていくゲーム性を取り入れるのも良い

- ✓ 課題・本年度検証した内容を踏まえて、今後の施策内容の初期仮説についてご意見をいただいた

B ディスカッション論点まとめ

B 【教職員】 各大学間の連携による ノウハウ共有の 促進

課題	本年度検証した内容	今後の施策内容（初期仮説）
<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ステージ毎のアントレ教育プログラムの整備状況として、全プログラムのうち実践編の割合は7%程度 <p>【大学の課題】 リソース不足の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 各大学でアントレプレナーシップ教育を実施していくためのリソースが不足している <p>【全大学の課題】 連携の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 民間企業や他大学等、外部機関との連携はほとんどの大学で不十分な状況であり、指導者や支援者のノウハウを共有するための仕組みが存在しない 	<p>大学の課題に対して 検証した内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 文部科学省様の呼びかけにより全国の教職員約100名が傍聴のため、プログラムに参加いただいた 様々な学部、経歴の教職員に参加いただいた 学生と同様にアントレプレナーシップ教育に対して潜在的に興味を持っている教職員は一定数いると考えられる <p>全大学の課題に対して 検証した内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生と同様のツールを使用し交流を促したが、教職員のコミュニティは活性化されなかった 一方で、教職員からは講義のノウハウを自大学に還元できるとフィードバックをいただいた 	<p>B-I 教職員コミュニティの 活性化の方法について</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在アントレ教育に取り組んでいる教職員が参加してもらい、教職員間の連携をどのように促し、活性化させていくべきか <ul style="list-style-type: none"> ➤ 教職員の育成を目的としたアントレ教育のFDプログラム（Faculty Development）の実施 ➤ オンラインとオフラインのハイブリッドの交流機会の創出 ➤ 海外の有名大学との連携を強化

- ✓ 教職員コミュニティの活性化の方法について、協働活動による連携の観点からご意見をいただいた

B 教職員コミュニティ活性化について

B
【教職員】
各大学間の連携による
ノウハウ共有の
促進

有識者委員のご意見まとめ

B-I

教職員コミュニティの活性化の方法について

- 現在アントレ教育に取り組んでいる教職員が参加してもらい、教職員間の連携をどのように促し、活性化させていくべきか
【教職員コミュニティの活性化の論点】
 - **共通の目的下における協働活動による連携：**
 - ✓ 大学内、大学間での共同研究等の協働活動による教職員の連携は持続的なコミュニティが形成されると思われる
 - ✓ コンソーシアムやFDプログラム（Faculty Development）は有効である
 - ✓ 海外の有名なFDプログラムを利用した教職員の集客は有効だと思われる
 - **継続的な連携が取れるプラットフォームの形成：**
 - ✓ オフラインの交流の機会とオンラインのつながりを継続するプラットフォーム（ツール）が必要である
 - ✓ 資料等をアーカイブ化し、提供可能とすることにより、リアルタイムで参加できない教職員が視聴できるようになる

- ✓ 課題・本年度検証した内容を踏まえて、今後の施策内容の初期仮説についてご意見をいただいた

C ディスカッション論点まとめ

C 成果に繋がるプログラムの開発

課題	本年度検証した内容	今後の施策内容（初期仮説）
<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実践的なプログラムの実施率は国内大学の<u>7%</u>程度 <p>フェーズを一貫したプログラム開発の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 動機付けから社会実装フェーズまで受講できる<u>体系的なプログラムが不足している</u> <p>ニーズを踏まえたプログラム設計の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生の<u>多様なニーズを踏まえたプログラム設計</u>が必要 	<p>フェーズを一貫したプログラム開発の課題に対して検証した内容</p> <ul style="list-style-type: none"> アントレ教育のフェーズの中でも導入部分（<u>アントレプレナーシップの醸成</u>）にフォーカスしたプログラムを開発した <u>動機付け・意識醸成段階</u>として、起業家による講演や特別講演を提供し、<u>コンピテンシー形成段階</u>としてより実践に近いプログラムを提供した <p>ニーズを踏まえたプログラム設計の課題に対して検証した内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 汎用的なマインドセット、スキルセットとして、<u>社会課題解決</u>に関するプログラムを提供 全国の大学から<u>多様性に富んだ学生がプログラムに参加した</u> 	<p>C-I 多様なプログラムの設計について</p> <ul style="list-style-type: none"> 裾野拡大の観点で、いかにして間口を広げた多様なプログラムの内容にするべきか <ul style="list-style-type: none"> ➢ 学生、TAを交えたプログラム開発 ➢ 他学部とのコラボレーション ➢ 地域特性を生かしたプログラム開発 ➢ 低学年の学生や中高生でも受講できる汎用性の高いプログラムの開発 ➢ 起業家講演

- ✓ 多様なプログラムの設計について、講義内容の論点、設計者の論点、設計環境の論点についてご意見をいただいた

C 多様なプログラムの設計について

C
成果に繋がる
プログラムの開発

有識者委員のご意見まとめ

C-I

多様なプログラムの設計について

- 裾野拡大の観点で、いかにして間口を広げた多様なプログラムの内容にするべきか

【講義内容の論点】

- 「考え方の考え方」の講義設計：

- ✓ オンラインでは現場の問題を体感しづらいため、本プログラムでは課題を発見し、課題解決を考える力を身につけるための講義を設計した

- 地域における関心事を取り上げた設計：

- ✓ 地域における学生が興味を持つテーマを取り上げることが重要である

- 企業との連携による当事者意識の醸成：

- ✓ 地域の企業と連携し、いま社会的に求められているものを学生に理解させ、当事者意識を持つきっかけを与えるべきである

【設計者の論点】

- 学生による設計：

- ✓ 学生がカリキュラムの設計や改善の場に立ち会い、利益享受者である学生自身の見方や意見を積極的に中に入れ込むべきである

【設計環境の論点】

- 大学トップの姿勢・態度：

- ✓ 各大学の学長・学部長がアントレ教育に肯定的かつ積極的な姿勢や態度を示し、学生に対して“本気度（真剣度）”を訴求するべきである

- 既存学部とのコンテンツとの連携：

- ✓ 工学部、文学部等、既存のカリキュラムの中に少しずつアントレプレナーシップのコンテンツを差し込むべきである

- ✓ 課題・本年度検証した内容を踏まえて、今後の施策内容の初期仮説についてご意見をいただいた

D ディスカッション論点まとめ※

D 円滑かつ効率的な 運営手法

課題	本年度検証した内容	今後の施策内容（初期仮説）
<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導者や協力者や支援者の連携が不足しているため、指導体制と支援体制が整っていない <p>運営体制の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 円滑な講義進行や学生間の交流を活性化させるための体制が構築されていない 学生への丁寧なフォローが不十分である <p>運営方法の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模プログラムを効率的に運営するためのインフラやマニュアル整備が不十分である 	<p>運営体制の課題 に対して検証した内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 大人数での同時受講に対応可能なZoomとTeamsを用いて、受講環境を整備 円滑にグループワークを進行するために、事務局にてチーム組成をサポート <p>運営方法の課題 に対して検証した内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業資料やツールに関するマニュアル等を学生に提供 	<p>D-I 実効性のあるフォローアップ体制の構築方法について</p> <ul style="list-style-type: none"> リソースが不足している中、いかにして学生へのフォローをしていくべきか <ul style="list-style-type: none"> TAやOB/OGを用いた組織編成 <p>D-II 効率的かつ効果的な運営環境の構築方法について</p> <ul style="list-style-type: none"> オンラインプログラムならではの課題の解消を図り、グループワークや学生のパフォーマンスや活動状況をいかにして把握するか <ul style="list-style-type: none"> 専用のプラットフォームの開発

※ 有識者会議においては、本テーマの議論は割愛し、個別に委員へのヒアリングを実施した

✓ 課題・本年度検証した内容を踏まえて、今後の施策内容の初期仮説についてご意見をいただいた

E ディスカッション論点まとめ

プログラムの教育的価値の向上

E

プログラムの教育的効果の改善方法

課題	本年度検証した内容	今後の施策内容（初期仮説）									
<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育効果やプログラムの内容や運営の改善を行う <u>PDCAサイクルが確立されていない</u> 	<p>評価指標の課題に対して検証した内容</p> <ul style="list-style-type: none"> プログラム評価について、学生がプログラムに対する <u>満足度評価</u>を実施 学生の習熟度評価について、<u>ルブリック評価</u>、<u>スキル評価</u>、<u>アントレインテンション</u>、<u>アントレコンピテンシー</u>、<u>アントレパッション</u>を参考に実施 	<p>E-I アントレ教育の有効性を定量的に示す評価方法について</p> <ul style="list-style-type: none"> アントレ教育の全国的な普及促進のため、<u>アントレ教育の有効性を定量的に示す評価方法はどのようなものか</u> <ul style="list-style-type: none"> 学生の行動変容を図る指標はなにか 									
<p>評価指標の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> プログラムの教育的な効果を <u>評価する指標の設計が確立されていない</u> 	<p>評価方法の課題に対して検証した内容</p> <ul style="list-style-type: none"> コース1では、<u>3日間すべての終了時</u>に学生にWebアンケート形式で収集 コース2では、<u>T0</u>（講義初日）、<u>T1</u>（講義最終日）、<u>T2</u>（講義終了後半年後）において、<u>コントロール群とトリートメント群に分け</u>、Webアンケート形式で収集 	<p>E-II 全国規模の事業と各地域でのプログラムの役割・位置づけについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 体系的なプログラムの中、<u>全国規模の事業でどこまでのフェーズを実施していくべきか</u> <ul style="list-style-type: none"> 拠点都市と連携しながら、互いに不足している領域を補い合うプログラム <p>(例) 初期仮説</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>意識醸成</td> <td>実践</td> </tr> <tr> <td>メイン</td> <td>オンライン</td> <td>各地域</td> </tr> <tr> <td>サポート</td> <td>各地域</td> <td>オンライン</td> </tr> </table>		意識醸成	実践	メイン	オンライン	各地域	サポート	各地域	オンライン
	意識醸成	実践									
メイン	オンライン	各地域									
サポート	各地域	オンライン									
<p>評価方法の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 評価指標を測定するための <u>評価方法も確立されていない</u> 											

- ✓ アントレ教育の有効性を定量的に示す評価方法について、評価方法の研究の論点、評価指標の検討についてご意見をいただいた

E 有効性の評価方法について

E

プログラムの
教育的な効果の
改善方法

有識者委員のご意見まとめ

E-I

アントレ教育の有効性を定量的に示す評価方法について

- アントレ教育の全国的な普及促進のため、アントレ教育の有効性を定量的に示す評価方法はどのようなものか
【評価方法の研究の論点】
 - **効果検証研究を促進するためのデータプラットフォームの整備：**
 - ✓ アントレプレナーシップ教育の効果測定をする研究者が日本では不足している中で、それらの研究を促進させるためには、欧米のように研究のために収集したデータを共有し、各自が自由に分析できる仕組みを参考にしながら、日本の独自の内容のものを整備するべきである
 - **国からの研究の支援：**
 - ✓ 研究を推進するために、予算の付与をはじめとする支援を国からしていただきたい
- 【評価指標の論点】
 - **活発性、多様性、自発性の評価：**
 - ✓ 受講生がアクティブに参加しているか、多様な受講生が参加するプログラム（コミュニティ）か、自発的な行動がとれているか等は指標として、捉えてもよいのではないかと考える
 - **その他の評価指標：**
 - ✓ 参加者数や参加率だけで評価するのではなく、教育効果も測る必要があると考える
 - ✓ アントレプレナーシップ教育の評価指標として、マインドセットに加え、行動様式等のマインドの醸成にはつながるが、有効な評価方法は確立が難しいと考えている

- ✓ 全国規模の事業と各地域でのプログラムの役割・位置づけについて、オンラインとオフラインの連携、海外の巻き込みについてご意見をいただいた

E 全国規模の事業と各地域でのプログラムの役割・位置づけについて

E

プログラムの
教育的な効果の
改善方法

有識者委員のご意見まとめ

E-II

全国規模の事業と各地域でのプログラムの役割・位置づけについて

- 体系的なプログラムの内、全国規模の事業でどこまでのフェーズを実施していくべきか
【国と拠点・大学の役割や位置づけの論点】
 - **オンラインとオフラインの連携：**
 - ✓ オンラインでは、実践の知識をある程度パッケージ化し、知識の学習として提供を実施すべき
 - ✓ オフラインでは、クリエイションの発見や実践の機会創出やキャリア教育を目的とし、ソーシャルサポートが必要なプロジェクト型の授業は実施すべき
 - ✓ 「ソーシャル・イノベーション・スクール」のような成功事例を参考に、メイン講義はオンラインで実施し、地域ごとのプロジェクトは各地域の教職員が支援し、実施する形をとれば、地方のリソース不足問題も多少は解消できると思われる
 - ✓ 実際にリアルな企業やソーシャルイノベーションにつなげていくためのプロジェクト資金が必要であり、研究の支援同様に予算の支援を国に依頼する
 - **海外の巻き込み：**
 - ✓ 海外のアントレプレナーシップのプログラムを積極的に学び、プログラムの改善を図るべきである

【APPENDIX③】 教職員座談会の概要

教職員座談会の目的・概要

- ✓ 全国プログラムを傍聴いただいた教職員から、プログラム内容・運営に関する感想、改善に向けた期待・課題等についてご意見をいただいた

教職員座談会の目的・概要

目的

- 本年度の全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムを傍聴した教職員を対象に座談会を開催し、プログラム内容や運営方法、裾野拡大、自大学への取り込みの可能性等について意見交換を実施する

概要

- 座談会のアジェンダは下記のとおりである
 - プログラムの内容・運営について
 - 自大学への還元方法について
 - 学生への認知拡大・裾野拡大の方法について

参加者構成

- 本プログラムを傍聴いただいた教職員

実施方法

- 開催時期：2022年2月21日（月） 11:00-12:00、2022年2月22日（火） 13:30-14:30
- 開催形式：オンライン開催

教職員座談会 参加教職員一覧

✓ 本プログラムを傍聴いただいた教職員の方々を座談会に招集した

参加教職員一覧※

	氏名	役職	参加方法
Day1	岩倉 洋平 様	香川短期大学 経営情報科	オンライン
	河野 廉 様	名古屋大学 学術研究・産学官連携推進本部	オンライン
	北谷 真理 様	関西大学 研究推進・社会連携事務局 研究支援・社会連携グループ 社会連携担当	オンライン
	中武 貞文 様	鹿児島大学 産学・地域共創センター	オンライン
	平田 幹人 様	東京大学 産学協創推進本部スタートアップ推進部 ディレクター	オンライン
Day2	有馬 英俊 様	第一薬科大学 薬学部 教授	オンライン
	椎名 希美 様	北海道大学 産学地域協働推進機構	オンライン
	富岡 清英 様	創価大学 地域産学連携センターリエゾンオフィス	オンライン
	牧野 恵美 様	広島大学学術・社会連携室 産学・地域連携推進部 アントレプレナー教育部門 部門長・准教授	オンライン
	松浦 昌宏 様	滋賀医科大学 研究戦略推進室 産学連携推進部門	オンライン
	山本 恵司 様	科学技術振興機構 プログラム主管	オンライン

※ 各日参加者について五十音順に記載

教職員座談会の討論内容

✓ プログラムの内容・運営、自大学への還元方法、学生への周知についての教職員座談会のアジェンダを設定した

教職員座談会論点

論点	アジェンダ
プログラムの内容・運営について	<ul style="list-style-type: none">• <u>オンライン開催について</u><ul style="list-style-type: none">✓ プログラムの運営• <u>プログラム内容及びグループワークについて</u><ul style="list-style-type: none">✓ 良かった点、悪かった点• <u>今後の方向性について</u><ul style="list-style-type: none">✓ 課題✓ 改善点
自大学への還元方法について	<ul style="list-style-type: none">• <u>受け入れる大学でのリソース確保について</u><ul style="list-style-type: none">✓ 実施上の課題（ヒト、モノ、カネ）• <u>地域や大学毎における学生に対する働きかけと課題認識について</u><ul style="list-style-type: none">✓ アントレ教育実施意向の多寡• <u>自大学の学生に対するフォローアップについて</u><ul style="list-style-type: none">✓ 本プログラムから得られたノウハウ、取り込む運用方法✓ 教職員コミュニティのあり方
学生への認知拡大・裾野拡大の方法について	<ul style="list-style-type: none">• <u>テーマ設定について</u><ul style="list-style-type: none">✓ 学生の関心のあるテーマ• <u>学生への周知方法について</u><ul style="list-style-type: none">✓ 大学からの情報発信の可能性、実施上の課題• <u>プログラムの工夫について</u><ul style="list-style-type: none">✓ 学生に興味関心を持ってもらうための工夫✓ 学生へのフォローアップに関する工夫

教職員座談会の意見概要

✓ プログラムの内容・運営について、教職員から下記の意見を受けた

教職員座談会意見 (1/4)

アジェンダ		意見まとめ
プログラム の内容・ 運営につ いて	オンライン開催について	<ul style="list-style-type: none">Teams、slidoの使い方に興味があったため参加し、実際に自大学で利用し、学生のグループワークが捗り、現業務に学びを活かしたことがよかった使い慣れていないTeamsが使いづらく、慣れるまでは苦勞と思われるZoomとTeamsの行き来が大変であったが、学生には特に問題ないと思われた利用ツールが多いと混乱し、脱落する学生が増加する可能性があるツールに不慣れな学生にはアイスブレイク段階での工夫が必要だと考えるハイブリッド開催の場合、学生をどのように参加させ、巻き込むかが課題である
	プログラムの内容及びグループワークについて	<ul style="list-style-type: none">学生が多いほど脱落者の対応や温度感の違う学生へのファシリテートが大変だと考えるチーム組成において最適な学生の組み合わせを考慮できると良いグループワーク実施後、サポートする教職員等の各グループのグループワークの状況把握や学生へのアドバイスの仕方は課題だと考える学生同士のつながりをサポートするために大学での学びの機会の提供が必要である他大学の学生との交流は非常に重要である次のステップとして、本格的にビジネスプランを作る後続フェーズも用意するべきではないか
	今後の方向性について	<ul style="list-style-type: none">今回に限らず持続的なプログラムの提供をすべきと考える事前に講師を選定していることが良かったと思っており、学生への宣伝にもっと力を入れるとより良くなる本プログラムのアウトカムをどのように捉えるかを検討する必要がある自大学の講義において、今回の体系的な講義設計を取り入れたいと考える
議論の総評		<ul style="list-style-type: none">Zoom、Teams、slido等、オンライン開催における最適なツール、それらの運営方法については今後も継続的な検証が必要である学生へのフォローアップ、学習の状況の管理等については、オンライン形式の大人数規模のプログラムにおいては今後検討していく必要がある持続的なプログラムの提供や、後続のフェーズ・ステップを学生に用意する必要がある

教職員座談会の意見概要

✓ 自大学への還元方法について、教職員から下記の意見を受けた

教職員座談会意見 (2/4)

アジェンダ		意見まとめ
自大学への還元方法について	受け入れる大学でのリソース確保について	<ul style="list-style-type: none"> • アントレ教育が重要との認識はあるが、カリキュラムに協力する教職員が増えない • slidoやMiro等のツールを使っているが、講師一人ですべてのチームをフォローアップできるかが課題である • 大学内での資源が不足しているため、アントレプレナーシップ教育をコーディネートできる人材を外部からどのように獲得できるかが課題である • 起業経験を持つ教職員の体制ができていないため、学生へのサポートが限られている
	地域や大学ごとにおける学生に対する働きかけと課題認識について	<ul style="list-style-type: none"> • 双方向で学生に考える機会を設けることで、学生同士で協力し合って取り組むことの動機づけにつながり、達成感や気づきも多いと考える • 優秀な学生は就職や海外留学をしてしまうので、起業へ繋がらない • ビジネスへの理解を深めるため、多様な視点を持つ人材育成を行う必要がある • 地域、大学ごとにフィールドに根差したアントレ教育を検討する必要がある • 学生間の横の繋がりのみならず、縦のOB/OGの接続が重要である
	自大学の学生に対するフォローアップについて	<ul style="list-style-type: none"> • 個人のフォローアップはアンケートのみでは確認しにくく、大人数の集合プログラムほど評価測定を考えるべきである • 受講前・受講後のみならず、受講完了後しばらく時間が経ってからアントレ教育の評価を学生に対して行う必要があり、そのためには中長期的に学生のモチベーションを継続するための工夫を検討している • 教職員のフォローが必要のため、若手教員がFDとして学生に伴走支援を提供しつつ、学習する体制を構築できるとよい
議論の総評		<ul style="list-style-type: none"> • 学内でのリソース不足を補うための外部連携によるリソースの確保が必要である • 学生間のインタラクティブな交流と学びを促すために、地域や大学ごとにフィールドに根差したアントレ教育が必要である • アントレ教育の評価を行う上では、中長期的な学生の評価が必要であり、継続的な学習を促進させるために学生へのフォローアップを検討していく必要がある

教職員座談会の意見概要

✓ 学生への認知拡大・裾野拡大の方法について、教職員から下記の意見を受けた

教職員座談会意見 (3/4)

アジェンダ		意見まとめ
学生への認知拡大・裾野拡大の方法について	テーマ設定について	<ul style="list-style-type: none"> 学生にとってキャッチーなテーマ設定が必要である 将来的な課題を設定できれば学生の意欲も向上すると考える（廃校、廃屋、人口減少等） 学生が自ら課題を発見し考えるための仕組みが必要である 科目名の工夫で学生の募集人数が増加した実績がある
	学生への周知方法について	<ul style="list-style-type: none"> アントレ教育の認知が醸成していない学生には、“他大学の学生との交流が楽しい”、“就活に有利”といった動機づけが必要と考える 学生は交流体験を重視しているため、他大学との交流は動機付けになると考える 学長による積極的な発信が重要だと考える 大学や学部ごとのSNS、学内Slackでの発信も有効であると考えられる 先輩からの声掛けも重要である 全国の大学におけるネットワークを構築していく必要があると考える
	プログラムの工夫について	<ul style="list-style-type: none"> 学生のアントレプレナーシップ教育へのニーズが多様であるため、学生のニーズや経験の多寡等に応じてステージを設け、それぞれのステージに合わせたプログラムを設けられると良いと思われる 単発のイベントや講義だと、大学のサポートは得づらいため、持続的なプログラムにしていくためには、年間計画に落とし込み、次のフェーズを示すと良いと思われる
議論の総評		<ul style="list-style-type: none"> 学生が興味を持つテーマ設定、課題設定が必要となる 学生にとって身近で伝わりやすいメッセージでプログラムの魅力を伝える必要がある 発信方法として大学の媒体を用いることは有効である 学生のニーズや経験の多寡に合わせたプログラムを設け、年間計画に反映できるように継続的にプログラムを開催していく必要があると思われる

教職員座談会の意見概要

✓ 地方でのアントレ教育のあり方や新たな仕組みづくり等について、教職員から下記の意見を受けた

教職員座談会意見（4/4）

アジェンダ		意見まとめ
その他	地方でのアントレ教育について	<ul style="list-style-type: none"> • 自学部授業を優先してしまうため、「大学・地域独自の取り組み」と「全国プログラム」をどのように地方大学内で融合させるかが課題である • 地方と都市部では評価基準が異なり、アントレ教育に関する地方でのイベントやコミュニティの取組における学生と地元の社会人の交流は、地域に対する問題意識を向上させ、地域と連携することで、課題解決等の体験的な学びができる
	単位化の検討について	<ul style="list-style-type: none"> • 講義設計をシラバスに落とし込み、学生の動機付けを向上させる仕組みを作る必要がある • 単位にならないため学生のモチベーションが低く、アントレプレナーシップの醸成の導入部分だけでも正課授業として取り込めるように力を入れる必要がある • 起業経験のある教職員による講演も実施しているが、単位認定が難しい • 大学内の教育システム、特に単位化との接続が必要である
	新たな仕組みづくりについて	<ul style="list-style-type: none"> • 学生の起業家が少なく、学生がUターンで地元に戻る仕組みを作りたい • イベントを設けて、コンテスト等を実施するとよいと思われる
議論の総評		<ul style="list-style-type: none"> • アントレ教育の裾野拡大に向け、「大学・地域独自の取り組み」と「全国プログラム」をどのように地方大学内で融合させるかについて継続的な検討が必要である • 学生のモチベーション向上のためにも大学内の教育システム、特に単位化との接続が必要である

【APPENDIX④】 学生座談会の概要

学生座談会の目的・概要

- ✓ コース1、コース2の学生座談会を開催し、プログラムを受講した学生からアントレプレナーシップ教育の裾野を拡大するための方法についての意見交換を実施した

学生座談会の目的・概要

目的

- 本年度の全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムを受講した学生を対象に座談会を開催し、今後アントレプレナーシップ教育の裾野拡大に向けての意見交換を実施する

概要

- 座談会のアジェンダは下記のとおりである
 - 学びの共有：
 - プログラム受講前後の印象の変化
 - 全国プログラムを通じて得た学び
 - 全国プログラムで得た学びの活用 等
 - アントレ教育の裾野拡大に向けた文部科学省への提言：
 - 学生の興味関心の醸成、周知の方法
 - 推奨者を増やす方法 等

対象

- 本プログラムの受講生を対象とし、コース1、コース2の受講生からそれぞれ数名選出
- 応募コースの全ての回に出席し、受講後アンケートで積極的に意見を述べた受講生

実施方法

- 開催時期：
 - 鶴田先生コース（コース1）：2022年2月9日（水）10:00～11:00
 - 馬田先生コース（コース2）：2022年2月14日（月）16:00～17:00
- 開催形式：オンライン開催

学生座談会（コース1） 参加学生の概要

- ✓ コース1の学生座談会の参加者を選定する上で、授業への出席率が高く、主体的に講義に参加し、グループワーク中でも積極的に発言されているメンバーを中心に招待をしている

学生座談会（コース1）の参加学生の概況

コース1

コース2

✓ 性別による内訳

計 6名	男性 2名	<ul style="list-style-type: none"> ・武蔵野美術大学 大学学部1年生 ・京都工芸繊維大学大学院 大学院修士課程1年生
	女性 4名	<ul style="list-style-type: none"> ・甲南大学 大学学部3年生 ・千葉大学 大学院博士課程1年生 ・兵庫県立大学大学院 大学院博士課程3年生 ・東京薬科大学 大学院博士課程3年生

✓ 文系・理系による内訳

計 6名	文系 2名	経営学部・経営学科、視覚伝達デザイン学科
	理系 4名	看護学研究科、薬学部、環境人間学研究科、工芸科学研究科応用生物学

✓ その他属性情報

部活動・ サークル・ アルバイト の活動状況	活動中 5名	海外留学の 有無	2週間未満 3名	アントレ教育 受講経験の 有無	有り 0名
	未活動 1名		無し 3名		無し 6名

学生座談会（コース2） 参加学生の概要

- ✓ コース2の学生座談会の参加者を選定する上で、授業への出席率が高く、主体的に講義に参加し、グループワーク中でも積極的に発言されているメンバーを中心に招待をしている

学生座談会（コース2）の参加学生の概況

コース1

コース2

✓ 性別による内訳

計 6名	男性 4名	<ul style="list-style-type: none"> ・大和大学 大学学部4年生 ・北海道大学 大学院修士課程1年生 ・県立広島大学 大学院修士課程1年生 ・大阪大学 大学院博士課程1年生
	女性 2名	<ul style="list-style-type: none"> ・東京農業大学 大学学部1年生 ・お茶の水女子大学 大学学部2年生

✓ 文系・理系による内訳

計 6名	文系 2名	教育学部教育学科初等幼児教育、経営管理研究科
	理系 4名	生物産業学部食香粧化学科、生活科学部心理学科、総合化学院総合化学、連合小児発達学研究科認知行動療法学

✓ その他属性情報

部活動・サークル・アルバイトの活動状況	活動中 4名
	未活動 2名

海外留学の有無	半年程度 1名
	2週間未満 1名
	無し 4名

アントレ教育受講経験の有無	有り 3名
	無し 3名

学生座談会の討論内容

- ✓ プログラムを通じて学んだこと、アントレ教育の裾野拡大に向けた文部科学省に対する提言について意見交換をした

学生座談会論点

論点	アジェンダ
今回の学びの共有	<ul style="list-style-type: none">• 文部科学省アントレプレナーシップ人材育成プログラムを受講した感想について議論 【検討事項】<ul style="list-style-type: none">✓ プログラム受講前後で、アントレ教育に対する印象はどのように変化したか✓ プログラムを通じて、どのようなことを学んだか✓ グループワーク等、他の学生との交流はどうだったか✓ 学んだことや得た知識をこの先どのようなことに活用できるか✓ 運営に提案したいことは何か
アントレ教育の裾野拡大に向けた文科省への提言	<ul style="list-style-type: none">• アントレプレナーシップ教育のあるべき姿、現状の課題と解決策について議論 【検討事項】<ul style="list-style-type: none">✓ アントレプレナーシップ人材育成プログラムをより多くの学生に知ってもらうにはどのような方法が有効か✓ アントレプレナーシップ人材育成プログラムの参加者を増やすにはどのような工夫を行うべきか✓ プログラムの質を向上させるために、改善すべきことは何か✓ プログラム終了後にアントレ教育を継続させるために必要なことは何か✓ アントレ教育を普及させるためにはどのような施策を行うべきか

学生座談会の意見概要

- ✓ プログラムを通じて、学生はアントレプレナーシップ教育を理解できるようになり、課題解決手法や新しいアイデアの獲得ができたとの意見を得た

学生座談会意見 (1/3)

アジェンダ		コース1	コース2
今回の学びの共有	アントレ教育への理解	<ul style="list-style-type: none"> 起業するかどうかに関わらず、複雑な課題を解決するためのマインドを育む教育だと理解した 堅苦しい課題を解決するものだと考えていたが、実際には身近な課題について考えるものだった 	<ul style="list-style-type: none"> アントレ教育は、AI時代において、人間にとって必要なものだと考える 受講前はアントレ教育について知らず、ハードルが高いものだと考えていたが、グループワーク等を通じて、自分にもできるものだと感じた
	課題解決のための知識や手法	<ul style="list-style-type: none"> 課題設定、課題解決の手法を学んだ チームワーク力、議論を活性化する能力を身に付けることができた ブレインストーミングやKJ法等は社会経験として生かすことができると考える 	<ul style="list-style-type: none"> オンラインで実践的な内容を勉強することに対して疑問だったが、実際にインタビューを行う等、実践的な手法を学ぶことができた 起業や今後取り組むプログラムに生かせるようなことを学ぶことができた
	多様な学生の参加により得られた学び	<ul style="list-style-type: none"> オンラインのため全国の学生と関わることができ、専門性や背景が異なる学生からの斬新なアイデアを得られた 先生から直接アドバイスをもらう機会があり、参考になった 	<ul style="list-style-type: none"> グループワークの時間内に意見をまとめることは難しかったが、様々なアイデアが出たことはよかった 他大学の異なった背景を持つ学生と交流でき、勉強になった
議論の総評		<ul style="list-style-type: none"> アントレ教育に対する心理的なハードルは学生にとっては高く、起業の意向に関わらず、自分にとって身近なテーマであることを理解し、これからの時代に必要な課題解決のマインドや手法を学ぶことができるということを訴求していくことが重要である 全国プログラムに集まる出身や専門が異なる様々なバックグラウンドを持つ学生や先生と交流することは学生の参加のインセンティブとなる 	

学生座談会の意見概要

- ✓ アントレプレナーシップ教育の裾野を拡大するために、プログラムの周知、受講ハードルの軽減、教育受講機会の提供が必要との意見を得た

学生座談会意見 (2/3)

アジェンダ		コース1	コース2
アントレ教育の裾野拡大に向けた文科省への提言	アントレ教育の周知	<ul style="list-style-type: none"> • 中学や高校の政治経済科目等の義務教育の段階でアントレ教育を盛り込むと良いのではないか • グループでは、半数の学生がインスタを通じて参加していたので、SNSで宣伝すると効果的だと考える 	<ul style="list-style-type: none"> • 受講成果や参加者の声を発信すると良い • Facebookを通じて参加したので、SNSは有効だと考える • 実際にプログラムで手を動かせることがよかったので、それをHPに記載するとより興味を持ちやすくなるのではないか
	プログラム受講のハードルを下げる	<ul style="list-style-type: none"> • 「起業」は難しいイメージがあり、学生にとって身近ではないので、代わりに「課題解決」等の表現を用いたほうが良いのではないか • 講義を10分ほどに短縮し、お試しコンテンツとして配信してはどうか 	<ul style="list-style-type: none"> • 最初に案内を受け取り戸惑ったので、文部科学省主催であることをアピールすると安心できる • 試験の時期と被る時間帯があったので、休みのときに開催できるともっと良いと考える
	アントレ教育受講機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> • 問題解決の方法は日ごろから習慣化した方が良いと思う • 大学の講義として設定してはどうか • 入門・応用・実践編等のプログラムを用意し、持続的な教育を行うことが重要だと考える 	<ul style="list-style-type: none"> • アントレ教育を大学のプログラムに組み込み、学内起業、地域や教育機関との連携するのはどうか • アントレ教育を行える教職員がいないことが課題であり、教職員からフィードバックをもらえる環境がほしい
議論の総評		<ul style="list-style-type: none"> • アントレ教育の周知については、学内からのアプローチと、SNSのように学生の生活に密着しているツールを通じた広報が有効であると考えられる • プログラム受講のハードルとして、プログラムの内容のイメージが掴みづらいことや、プログラムと大学の両立する難しさ等が挙げられており、受講しやすい環境を整備について今後も検討していく必要がある 	

学生座談会の意見概要

- ✓ プログラム内容や運営についての工夫、受講率を向上させるための仕組み、受講終了後の受講生コミュニティ形成等について意見をいただいた

学生座談会意見 (3/3)

アジェンダ		コース1	コース2
その他	プログラムの質の向上	<ul style="list-style-type: none"> 1グループあたりの人数を増やし、少人数で意見が出せないという事態を防ぐべきではないか 先生のファシリテーションの時間を長くし、グループワークの議論を活性化させてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 受講前に、ツールの使い方等をフォローしてほしい 様々な層の学生を広く集め、プログラムを受講してもらった趣旨は理解できるが、学生間の知識や経験の差が大きすぎるとグループワークの進行が難しいと感じた
	受講率向上のための仕組み	<ul style="list-style-type: none"> 参加希望者を増やすことができれば、学内選考等を通じて、意欲の高い学生を選出する方法が考えられる 無料で参加できる仕組みだと、申し込みやすく、離脱しやすいため、有料のプログラムを用意するのも良いのではないかと 	<ul style="list-style-type: none"> プログラムの途中離脱防止のためにも、参加者の選考を通じて、意欲の高い学生を募集すると良いのではないかと 学生のモチベーションを向上させるため、最後まで参加することによるインセンティブを付与すると良いのではないかと
	プログラム受講後のコミュニティ形成	<ul style="list-style-type: none"> 知識は繰り返しがないと定着しないので、定期的な報告や大学またはオンラインでの共有の機会があると良い 全国の学生と楽しみながら勉強できたので、オンラインを通じて、この輪が広がるようになってほしい 	<ul style="list-style-type: none"> プログラム終了後に解散ではなく、学生の繋がりを維持できるようにしてもらえると良い 起業をする上で、信頼できる仲間づくりをサポートしてほしい
議論の総評		<ul style="list-style-type: none"> プログラムの質を向上させるために、グループワーク時の人数やグループワークの経験値等をどのように最適化していくか今後継続して検討していく必要がある プログラムの途中離脱を防止し、受講率を向上させるために、選考の実施や受講することへのインセンティブを付与する等の意見が上がった 受講終了後にもつながりを持てるコミュニティの形成のニーズは高いといえる 	

【APPENDIX⑤】 学生向けアンケート実施概要

プログラム申込時のアンケート

プログラム申込時のアンケート

- ✓ 全国の大学生・大学院生を対象にプログラム受講者を募集し、申込時にアンケートを実施した

プログラム申込時のアンケートの目的・概要

目的

- 全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムの受講者を募集し、申込者に学生の属性や流入経路や申込動機を把握するためのアンケートを実施した

アンケート対象

- プログラムに申込をした全国の大学生・大学院生

アンケート概要

- プログラムの募集を行い、申込時に右図のようなアンケートを実施した
- 受講者の属性、流入経路、志望動機を把握するために下記項目を設定した
 - 性別、学部・学科、学年
 - プログラムを知ったきっかけ
 - プログラムの志望理由

文部科学省 令和3年度産学官連携支援事業委託事業
全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム
申し込みフォーム

このフォームは、文部科学省 令和3年度産学官連携支援事業委託事業 全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムにご応募いただいた方、お申し込み用です。

※本アンケートは、申込者の属性、流入経路、志望動機を把握するために設定した項目を記載していただくためのものです。申込者の個人情報は、本アンケートを通じて収集されません。また、本アンケートの結果は、本プログラムの運営にのみ利用され、他の目的には使用いたしません。なお、本アンケートの結果は、本プログラムの運営にのみ利用され、他の目的には使用いたしません。また、本アンケートの結果は、本プログラムの運営にのみ利用され、他の目的には使用いたしません。

このアンケートは、申込者の属性、流入経路、志望動機を把握するために設定した項目を記載していただくためのものです。

※このアンケートは、申込者の属性、流入経路、志望動機を把握するために設定した項目を記載していただくためのものです。

申込者：全国大学・大学院生、学部・学科、学年、性別、年齢、出身地、所属機関
実施者：全国大学・大学院生、学部・学科、学年、性別、年齢、出身地、所属機関、パブリックセンター
お問い合わせ：03-5561-3111（受付時間：平日10:00～17:00）
お問い合わせ先：03-5561-3111（受付時間：平日10:00～17:00）

* 必須

1.お名前*

2.フリガナ*

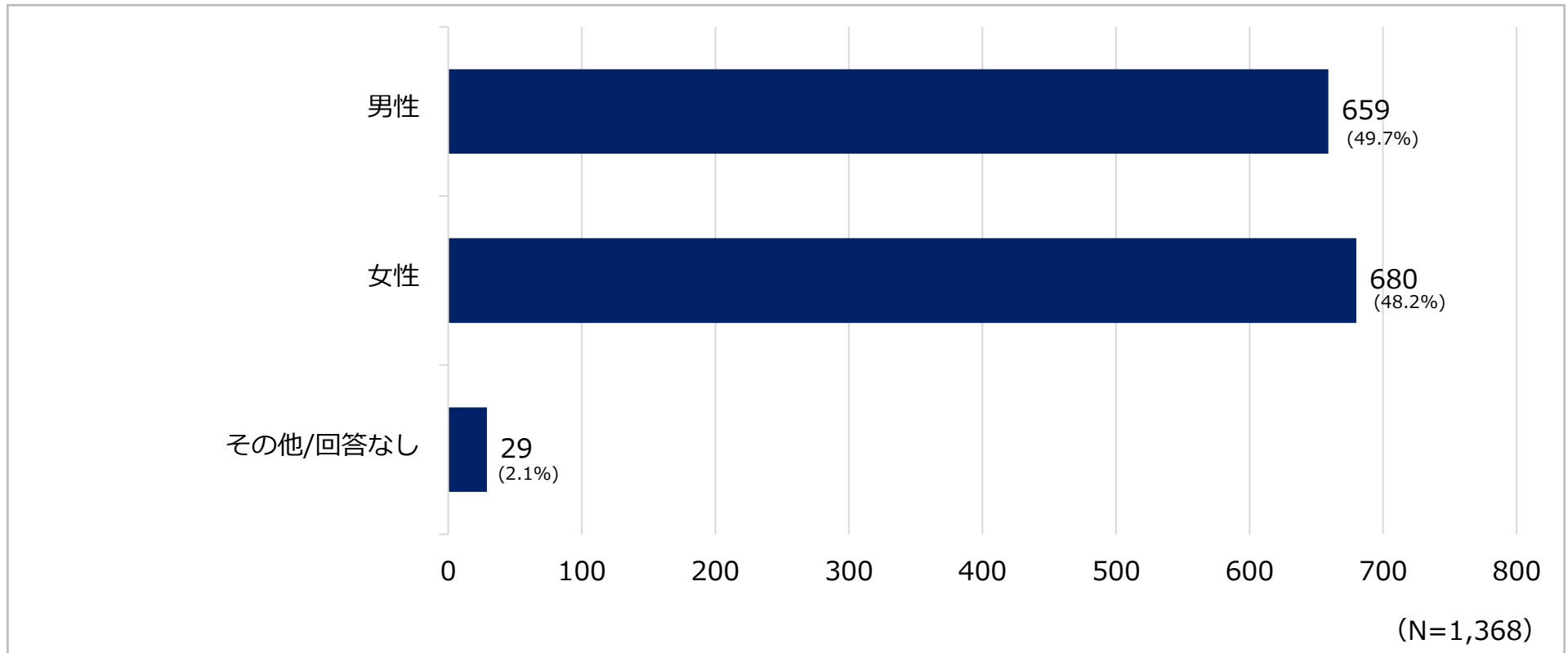
プログラム申込時のアンケート

✓ 申込者の男女人数差は大きくないが、女性の方が男性よりも若干多い

アンケート回答 (1/9)

設問

Q3. 当プログラム申込者 性別



Nは回答者数

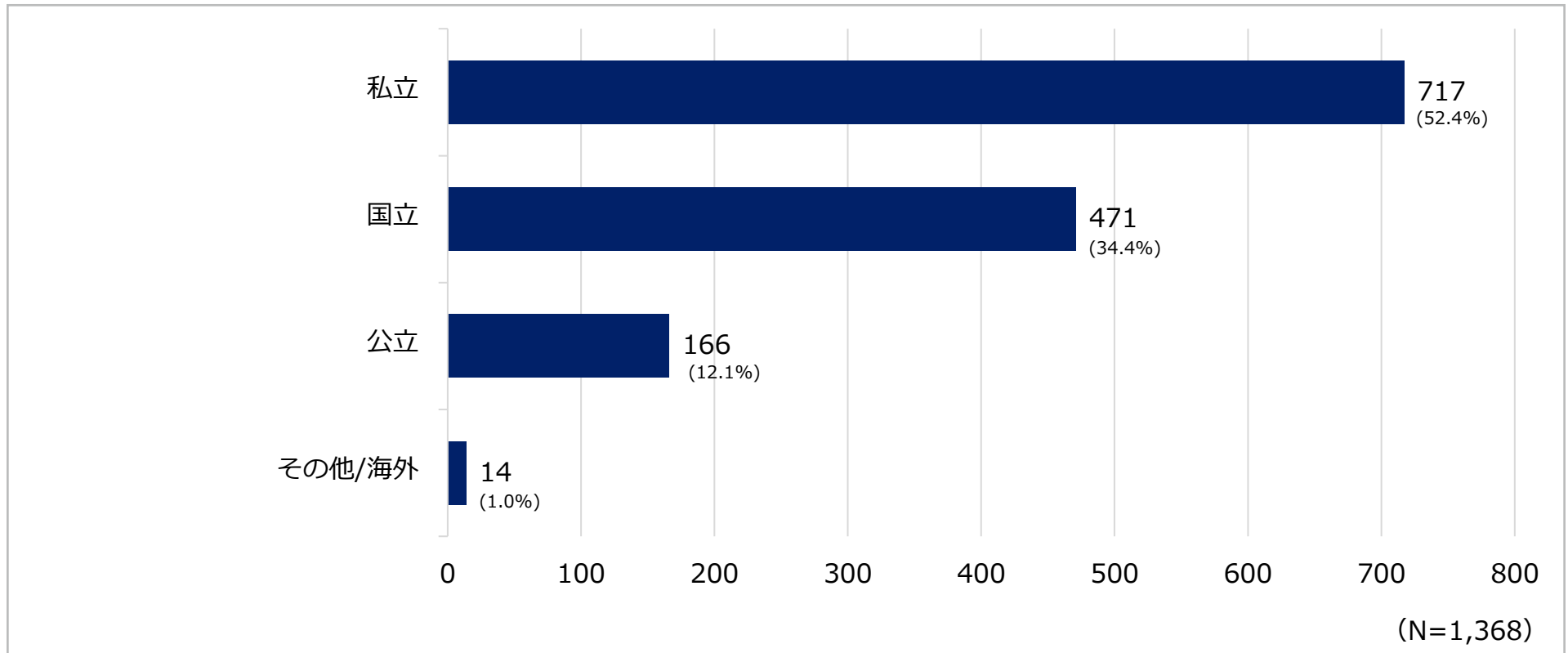
プログラム申込時のアンケート

✓ 申込者の出身大学について、私立大学出身者が5割強、国立大学出身者3割強を占めており、海外からの参加者もみられる

アンケート回答 (2/9)

設問

Q4. 当プログラム申込者 国公私立別



Nは回答者数

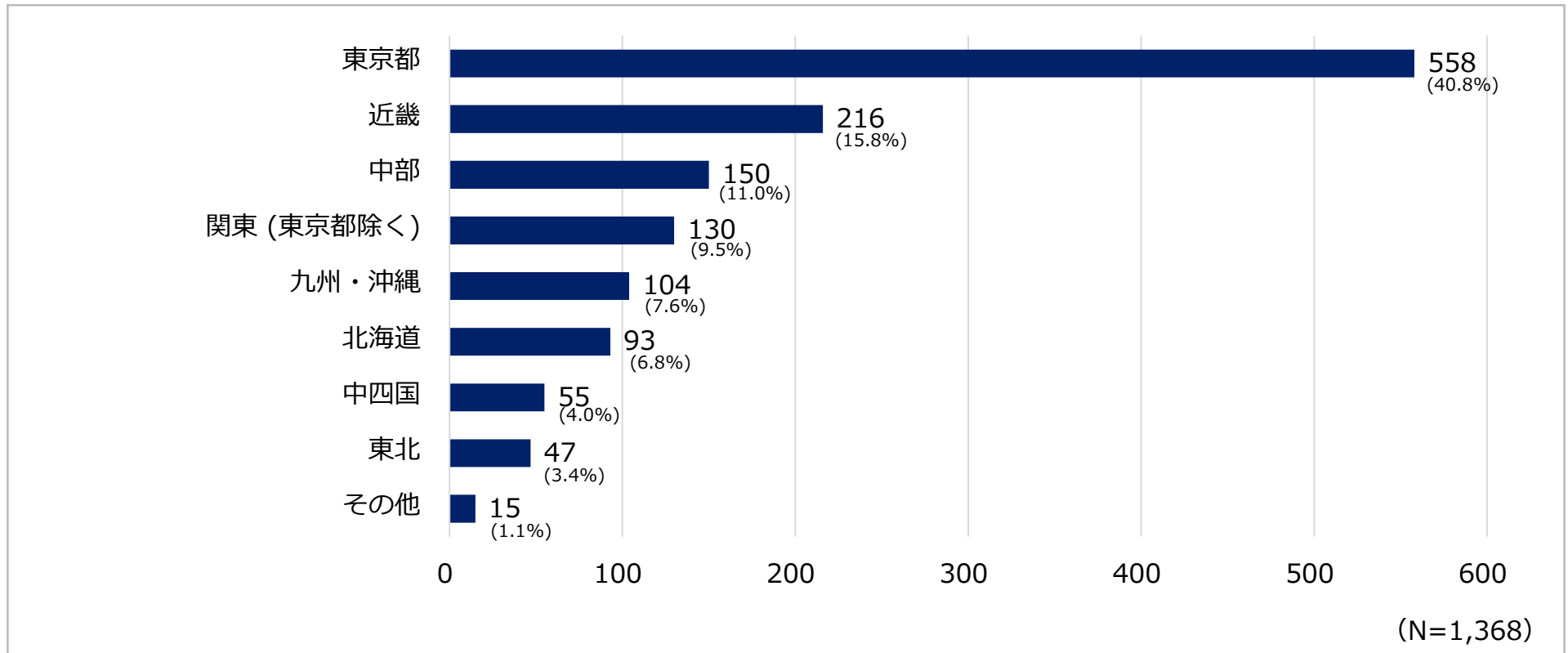
プログラム申込時のアンケート

✓ 全国から学生による申込があり、そのうち東京都からの参加者が最も多く、4割を占めている

アンケート回答 (3/9)

設問

Q5. 当プログラム申込者 エリア別



Nは回答者数

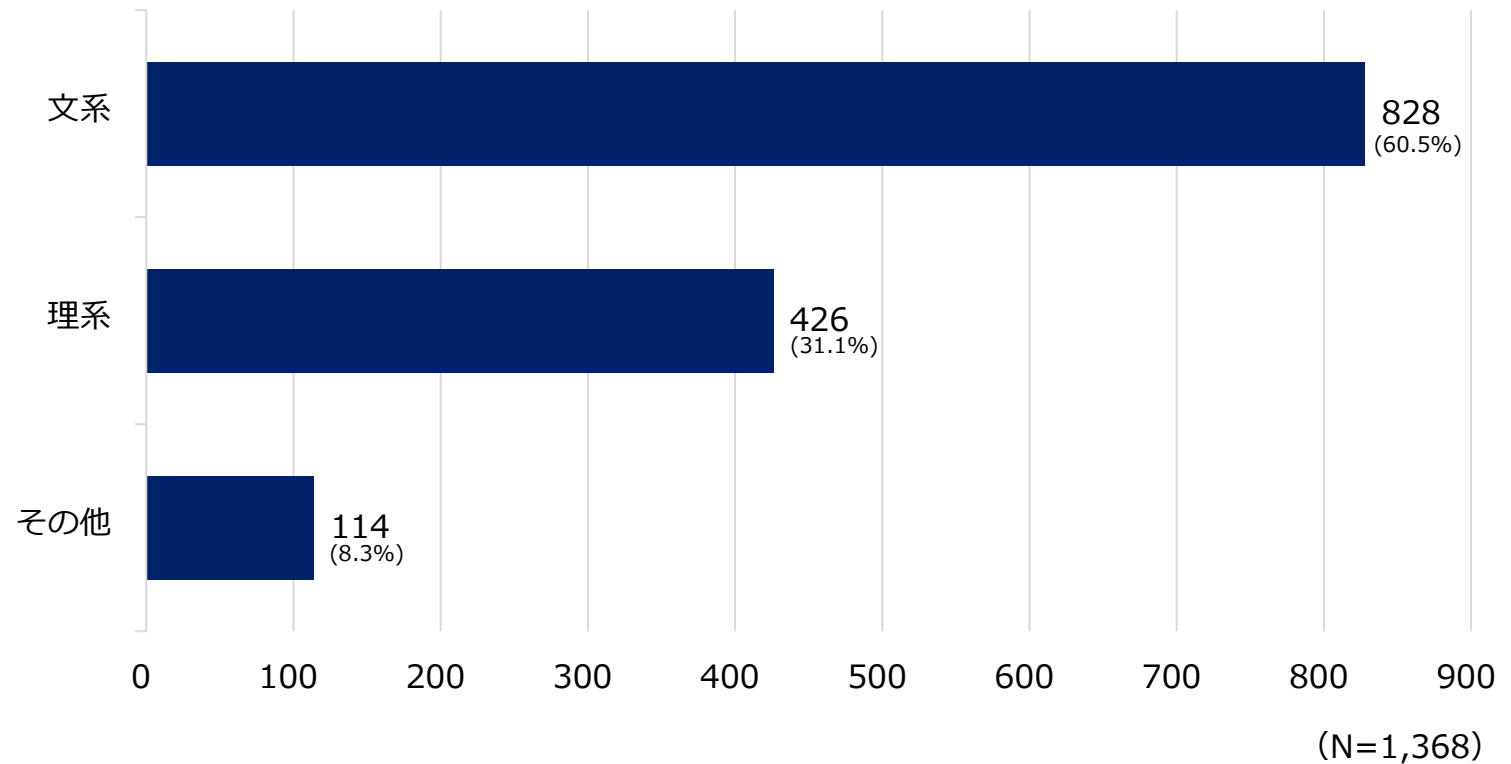
プログラム申込時のアンケート

✓ 申込者のうち、文系学生が6割以上を占め、理系申込者の約2倍である

アンケート回答 (4/9)

設問

Q8. 当プログラム申込者 文理分類別



Nは回答者数

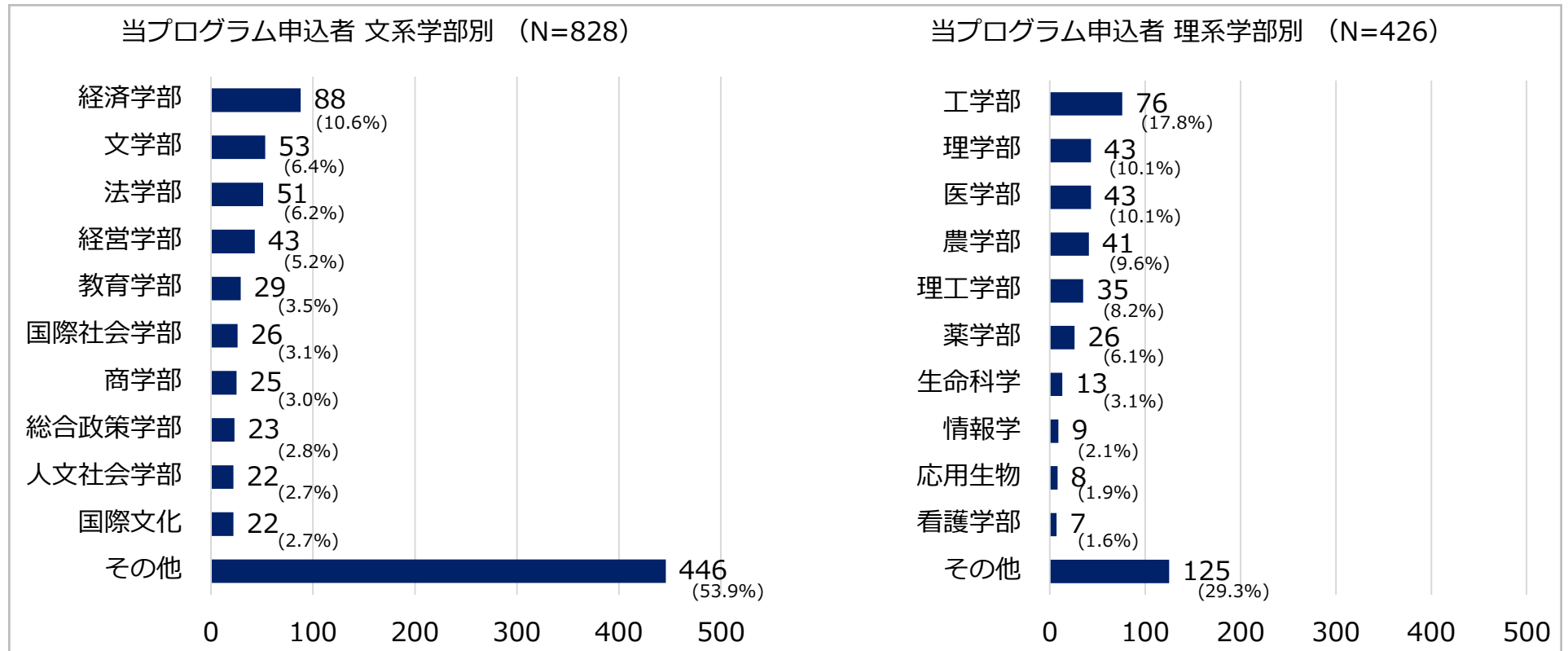
プログラム申込時のアンケート

✓ 申込者の所属学部について、文系の中では経済学部が最も多く、理系の中では工学部が最も多い

アンケート回答 (5/9)

設問

Q8. 当プログラム申込者 学部別



Nは回答者数

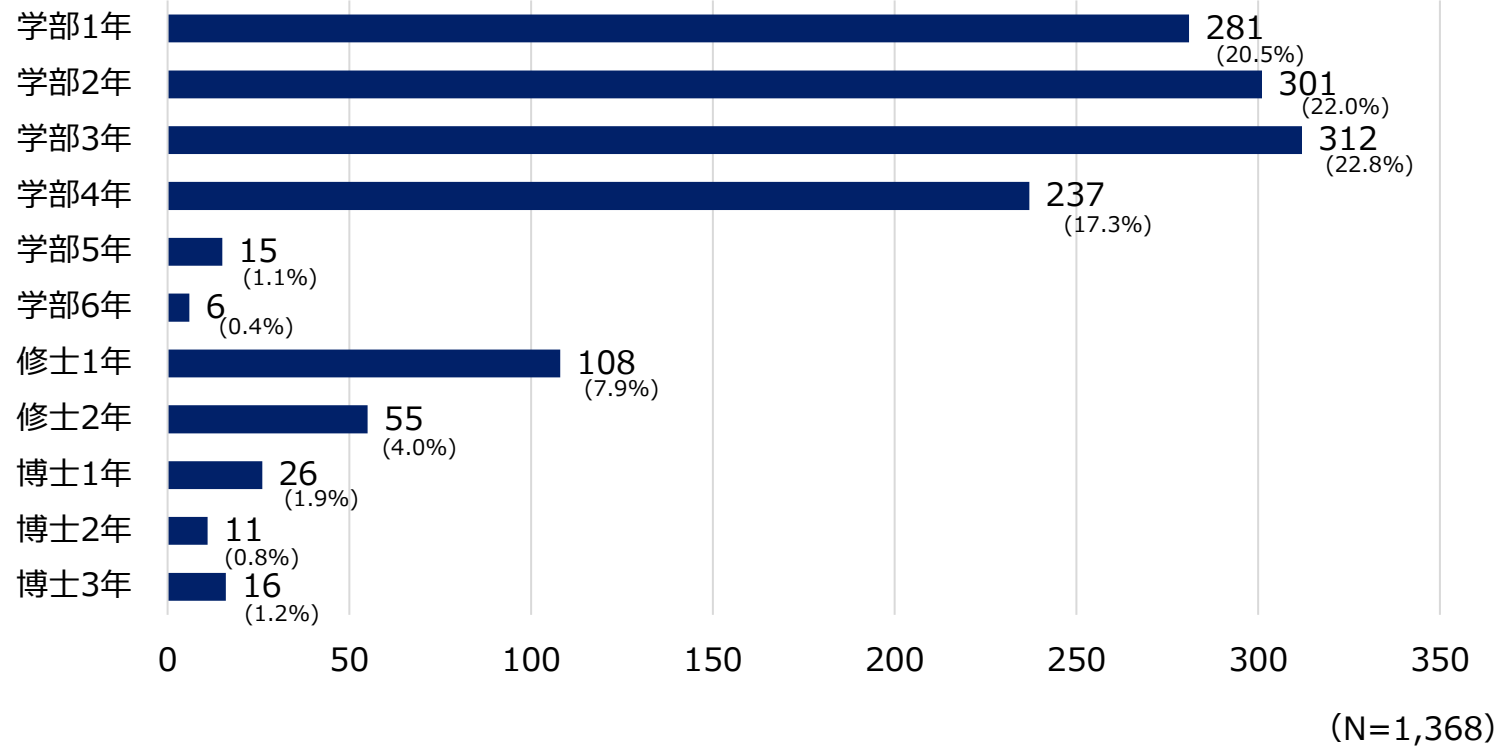
プログラム申込時のアンケート

✓ 申込者の学年について、学部では大学1年～4年生、大学院では修士1年生の参加が比較的に多い

アンケート回答 (6/9)

設問

Q9. 当プログラム申込者 学年別



Nは回答者数

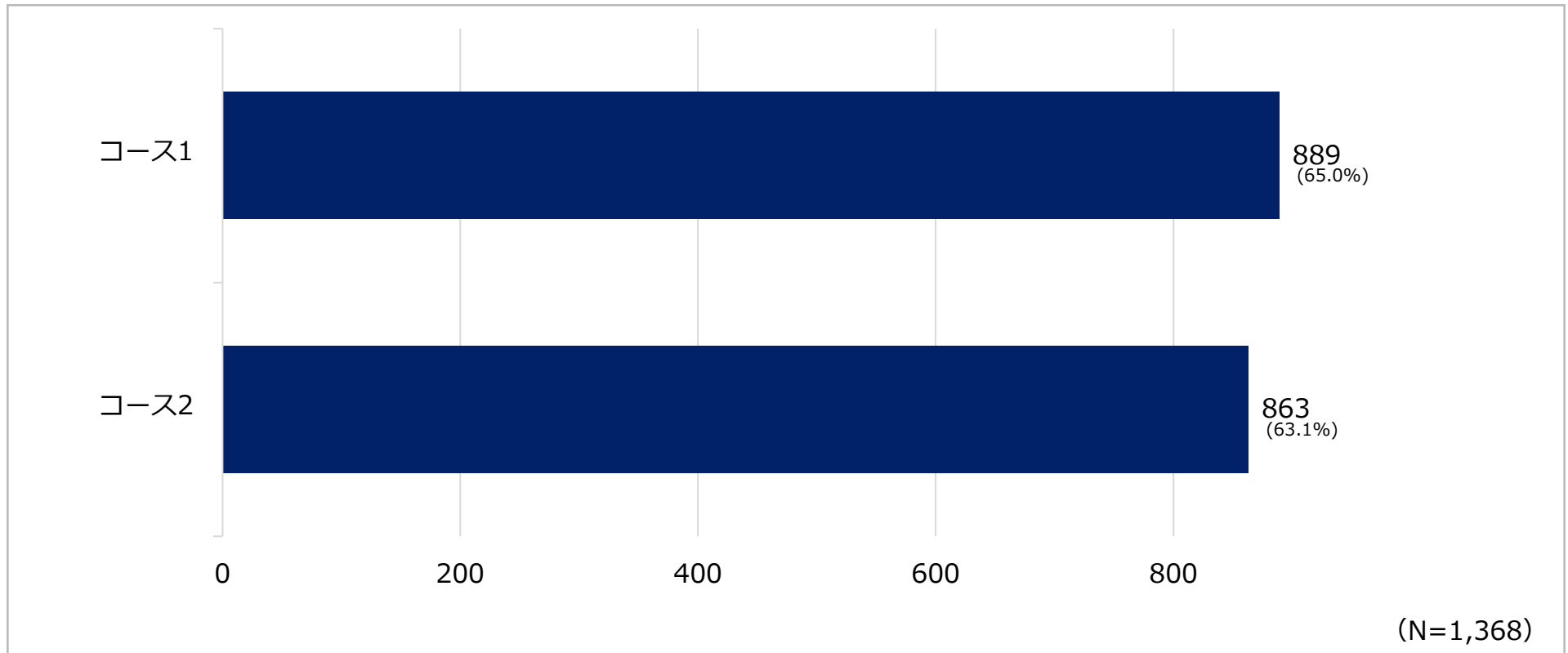
プログラム申込時のアンケート

✓ 申込者の応募プログラムに多くの差が見られず、2コースに同程度の申込者がいる

アンケート回答 (7/9)

設問

Q10. 当プログラム申込者 受講プログラム別 (複数回答)



Nは回答者数

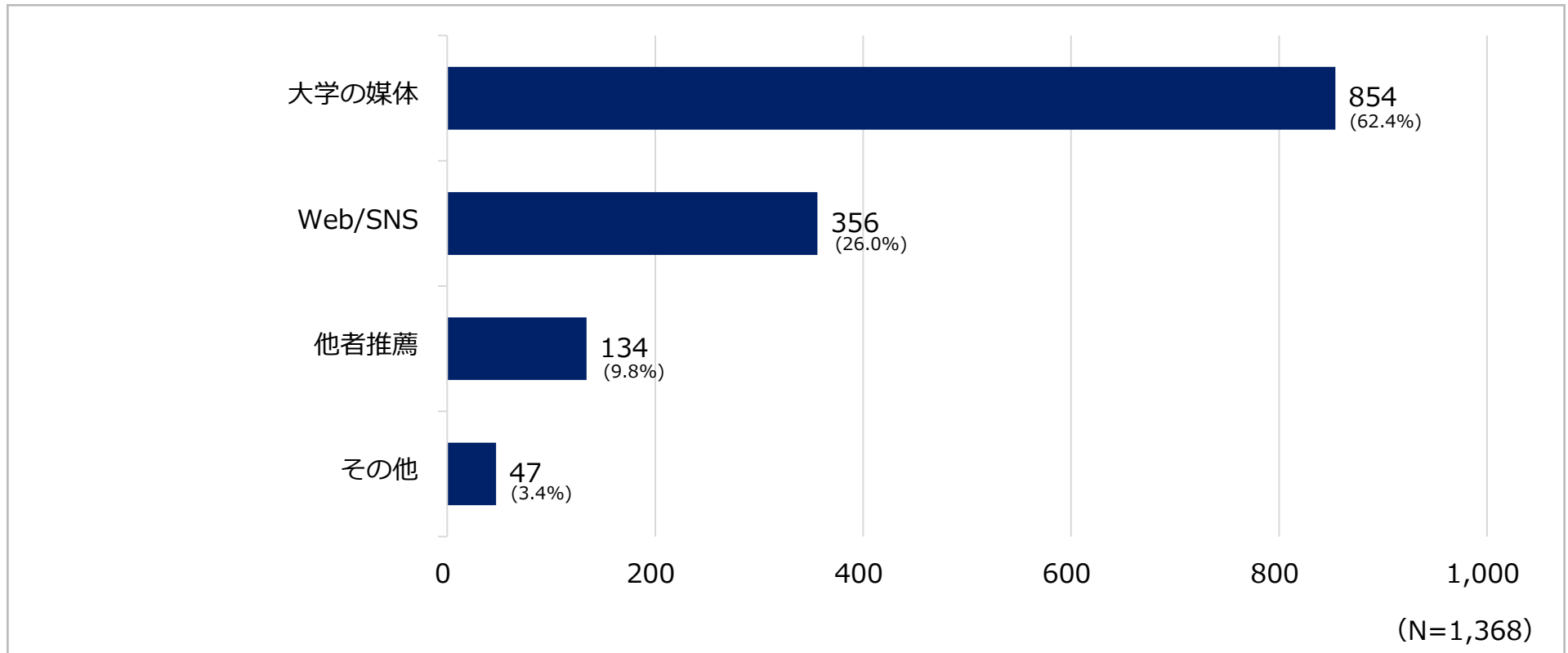
プログラム申込時のアンケート

✓ プログラムを知ったきっかけについて、大学の媒体経由が6割と最も多く、Web/SNS経由の申込者も3割近くいる

アンケート回答 (8/9)

設問

Q12. 当プログラム申込者 知ったきっかけ別 (複数回答)



Nは回答者数

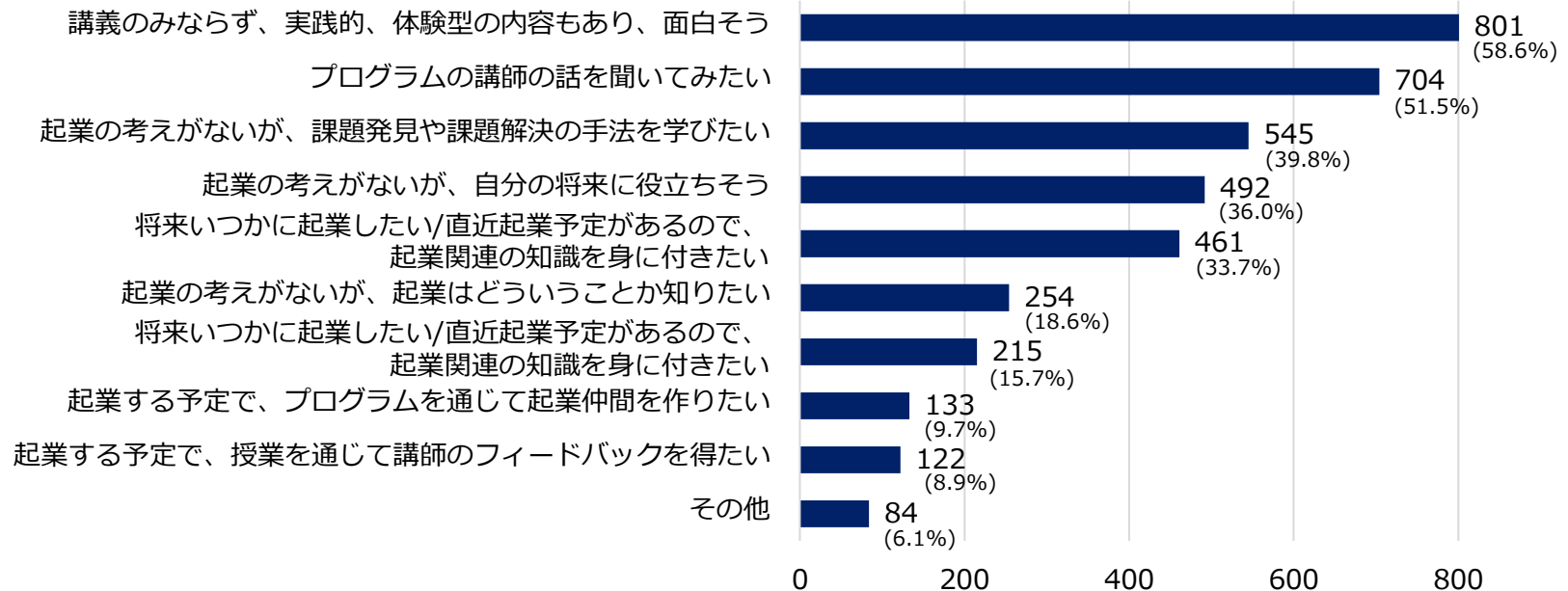
プログラム申込時のアンケート

✓ プログラム志望理由について、実践的・体験型の内容に興味を持つ学生が最も多い

アンケート回答 (9/9)

設問

Q13. 当プログラム申込者 参加動機別 (複数回答)



(N=1,368)

Nは回答者数

プログラム申込時のアンケート

✓ 申込者の所属大学より、グローバル拠点都市における大学ごとの申込者数を整理した

グローバル拠点都市 大学別申込者数（東京コンソ）

□ EDGE/EDGE-NEXT大学
★ 説明会参加大学

東京コンソ（全20校）

1	千葉大学★	37人	11	中央大学★	11人
2	お茶の水女子大学★	30人	12	東京都立大学★	9人
3	慶應義塾大学★	28人	13	東京工業大学	4人
4	東京理科大学★	27人	14	横浜国立大学	4人
5	筑波大学★	23人	15	順天堂大学	2人
6	横浜市立大学	22人	16	東京医科歯科大学	1人
7	東京大学★	18人	-	神奈川県立保健福祉大学	0人
8	早稲田大学	17人	-	関東学院大学	0人
9	東京農工大学★	14人	-	産業技術大学院大学	0人
10	神奈川大学★	11人	-	多摩美術大学	0人

申込者数合計	258人
申込学校数合計	16校/20校
EDGE/EDGE-NEXT大学からの申込学校数	7校/8校
説明会参加大学からの申込学校数	10校/10校

1大学平均申込者数 16.1人/校

プログラム申込時のアンケート

✓ 申込者の所属大学より、グローバル拠点都市における大学ごとの申込者数を整理した

グローバル拠点都市 大学別申込者数（関西コンソ）

□ EDGE/EDGE-NEXT大学
★ 説明会参加大学

関西コンソ（全20校）

1	関西学院大学★	28人	11	神戸大学	3人
2	立命館大学★	22人	12	大阪工業大学★	2人
3	兵庫県立大学★	18人	13	大阪府立大学	2人
4	同志社大学	17人	14	龍谷大学★	2人
5	関西大学★	8人	15	大阪市立大学	1人
6	京都大学★	8人	16	京都芸術大学	1人
7	甲南大学★	7人	17	京都工芸繊維大学★	1人
8	大阪大学★	5人	-	京都府立医科大学	0人
9	近畿大学	4人	-	京都府立大学	0人
10	奈良先端科学技術大学院大学	4人	-	神戸情報大学院大学	0人

申込者数合計	133人
申込学校数合計	17校/20校
EDGE/EDGE-NEXT大学からの申込学校数	6校/6校
説明会参加大学からの申込学校数	10校/10校

1大学平均申込者数 7.8人/校

プログラム申込時のアンケート

✓ 申込者の所属大学より、グローバル拠点都市における大学ごとの申込者数を整理した

グローバル拠点都市 大学別申込者数（東海浜松コンソ）

EDGE/EDGE-NEXT大学
★ 説明会参加大学

東海浜松コンソ（全20校）

1	静岡大学	35人	11	三重大学	1人
2	中京大学	18人	-	愛知県立芸術大学	0人
3	名古屋市立大学 ★	8人	-	岐阜大学 ★	0人
4	名古屋大学 ★	6人	-	椛山女学園大学	0人
5	名城大学	4人	-	豊田工業大学 ★	0人
6	愛知県立大学	3人	-	豊橋技術科学大学	0人
7	藤田医科大学	3人	-	名古屋工業大学	0人
8	南山大学	2人	-	名古屋産業大学	0人
9	岐阜薬科大学 ★	1人	-	名古屋商科大学	0人
10	浜松医科大学	1人	-	光産業創成大学院大学	0人

申込者数合計	82人
申込学校数合計	11校/20校
EDGE/EDGE-NEXT大学からの申込学校数	3校/6校
説明会参加大学からの申込学校数	3校/5校

1大学平均申込者数 7.5人/校

プログラム申込時のアンケート

✓ 申込者の所属大学より、グローバル拠点都市における大学ごとの申込者数を整理した

グローバル拠点都市 大学別申込者数 (福岡コンソ)

□ EDGE/EDGE-NEXT大学
★ 説明会参加大学

福岡コンソ (全16校)

1	サイバー大学★	32人	-	第一薬科大学★	0人
2	九州産業大学	12人	-	筑紫女学園大学★	0人
3	久留米大学	8人	-	中村学園大学	0人
4	立命館アジア太平洋大学	6人	-	日本経済大学	0人
5	九州大学★	5人	-	日本赤十字九州国際看護大学	0人
6	福岡女子大学★	5人	-	福岡歯科大学	0人
7	西南学院大学	5人			
8	福岡工業大学	1人			
9	福岡大学	1人			
-	純真学園大学	0人			

申込者数合計	75人
申込学校数合計	9校/16校
EDGE/EDGE-NEXT大学からの申込学校数	3校/3校
説明会参加大学からの申込学校数	3校/5校

1大学平均申込者数 8.3人/校

プログラム申込時のアンケート

✓ 申込者の所属大学より、推進拠点都市における大学ごとの申込者数を整理した

推進拠点都市 大学別申込者数（北海道コンソ）

□ EDGE/EDGE-NEXT大学
★ 説明会参加大学

北海道コンソ（全8校）※

1	北海道大学 ★	73人
2	小樽商科大学	2人
3	室蘭工業大学	1人
-	公立はこだて未来大学	0人
-	札幌市立大学	0人
-	藤女子大学	0人
-	北海学園大学	0人
-	北海道情報大学	0人

申込者数合計	76人
申込学校数合計	3校/8校
EDGE/EDGE-NEXT大学からの申込学校数	2校/2校
説明会参加大学からの申込学校数	1校/1校

1大学平均申込者数

25.3人/校

※ プログラムの対象者が大学生及び大学院生であるため、北海道コンソでは苫小牧工業高等専門学校を除く

プログラム申込時のアンケート

✓ 申込者の所属大学より、推進拠点都市における大学ごとの申込者数を整理した

推進拠点都市 大学別申込者数（東北コンソ）

■ EDGE/EDGE-NEXT大学
★ 説明会参加大学

東北コンソ（全9校）

1	東北大学★	9人
2	岩手大学	5人
3	宮城大学	4人
4	山形大学	4人
5	新潟大学	2人
6	弘前大学	1人
7	福島大学	1人
-	秋田大学	0人
-	長岡技術科学大学	0人

申込者数合計	26人
申込学校数合計	7校/9校
EDGE/EDGE-NEXT大学からの申込学校数	2校/2校
説明会参加大学からの申込学校数	1校/1校

1大学平均申込者数 3.7人/校

プログラム申込時のアンケート

✓ 申込者の所属大学より、推進拠点都市における大学ごとの申込者数を整理した

推進拠点都市 大学別申込者数（広島コンソ）

□ EDGE/EDGE-NEXT大学
★ 説明会参加大学

広島コンソ（全8校）

1	山口大学★	10人
2	広島大学	5人
3	叡啓大学★	4人
4	愛媛大学★	3人
4	広島市立大学★	3人
6	岡山大学	2人
6	県立広島大学	2人
8	島根大学	1人

申込者数合計	30人
申込学校数合計	8校/8校
EDGE/EDGE-NEXT大学からの申込学校数	1校/1校
説明会参加大学からの申込学校数	4校/4校

1大学平均申込者数

3.8人/校

プログラム申込時のアンケート

✓ 申込者の所属大学より、推進拠点都市における大学ごとの申込者数を整理した

推進拠点都市 大学別申込者数（北九州コンソ）

□ EDGE/EDGE-NEXT大学
★ 説明会参加大学

北九州コンソ（全4校）※

-	北九州市立大学★	0人
-	九州工業大学	0人
-	熊本大学	0人
-	長崎大学	0人

申込者数合計	0人
申込学校数合計	0校/4校
EDGE/EDGE-NEXT大学からの申込学校数	0校/1校
説明会参加大学からの申込学校数	0校/1校

1大学平均申込者数

0人/校

※ プログラムの対象者が大学生及び大学院生であるため、北九州コンソでは北九州工業高等専門学校を除く

プログラム申込時のアンケート

✓ 申込者の所属大学より、申込者数上位大学の申込者数を整理した

その他 大学別申込者数

★ 説明会参加大学

その他大学 ※申込者数上位21大学を掲載

1	東京外国語大学	44人	12	昭和女子大学	12人
2	東京農業大学	35人	12	立正大学	12人
3	東洋大学★	23人	14	国際基督教大学	11人
4	創価大学★	18人	15	一橋大学	10人
5	学習院女子大学	17人	16	武庫川女子大学	9人
6	東京薬科大学★	16人	16	立教大学	9人
7	上智大学★	15人	18	下関市立大学★	8人
8	信州大学	14人	18	帝京大学	8人
8	武蔵野美術大学	14人	18	福島県立医科大学	8人
10	東京都市大学★	13人	18	法政大学	8人
10	長崎県立大学★	13人			

⋮

申込者数合計	688人
申込学校数合計	202校
EDGE/EDGE-NEXT大学からの申込学校数	0校
説明会参加大学からの申込学校数	32校/52校
1大学平均申込者数	3.4人/校

プログラム終了後のアンケート

プログラム終了後のアンケート

- ✓ 全国プログラムを受講した学生を対象に、プログラム終了後にアンケートを実施した
- ✓ アンケート結果から全国プログラムの課題を導出し、今後の方向性について検討を行うことを目的としている

プログラム終了後のアンケートの目的・概要

目的

- 全国プログラムを受講した学生を対象に、プログラム終了後にアンケートを行い、全国プログラムの課題を導出する
- アントレプレナーシップ教育の裾野拡大に資する学生の関心・行動変容や、プログラムの内容・運営等の課題やニーズについてアンケート調査を行う

アンケート対象

- プログラムを受講した受講生全員

アンケート概要

- 下記のような方針に基づき、右図のようなアンケートを設計した
- 受講者の意識・行動に関する指標を定め、プログラムに対する受講者の体験（ユーザーエクスペリエンス）を計測し、各指標の分析を実施する

全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム
受講後アンケート (受講生向け)

この度は、「全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム」を受講いただき、ありがとうございます。学生の皆様のご協力により、当オンラインプログラムに関する調査・ご意見を拝見し、今後アントレプレナーシップ人材育成プログラムの改善や、全国的なオンラインプログラムを構築するための施策の検討にあたっての参考にさせていただきます。ぜひご協力をお願いします。

※ 対象：受講終了後1週間以内（コース1：2022年1月20日まで、コース2：2022年2月15日まで）
※ 回答がコースを受講している方は、すべてのコースを終了した時点でご回答ください。（回答の履歴を導きません）

発行：立派科予彦、村野洋輔、宇崎尚輝、長尾美穂、柳川麻理恵
実施：和歌山大学学生センター・マツ・リスクアドバイザー・事務局本部 / パブリックセンター
印刷：無償
お問い合わせ：info@wpu.ac.jp

* 必須

1. 受講番号*
受講生コース（2-1-1）、受講生コース（2-1-2）を登録する際に入力された受講番号を入力してください。なお、受講生番号は、この調査票を、受講生コースの受講番号を入力してください。
例：1000、0000

2. お名前*

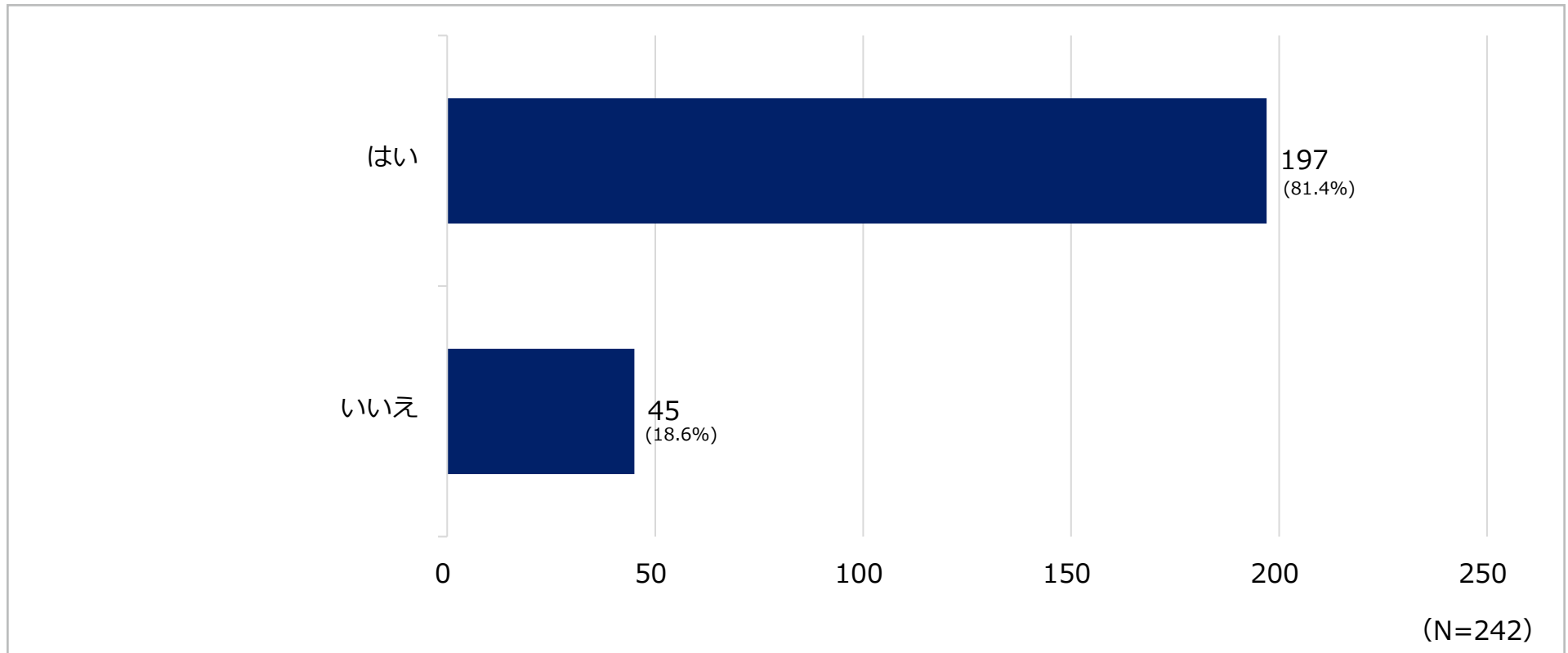
プログラム終了後のアンケート

✓ 回答者のうち、部活・サークル、アルバイト等をしている学生は8割であった

アンケート結果 (1/20)

設問

Q4. 部活・サークル、アルバイトなどをしていきますか



Nは回答者数

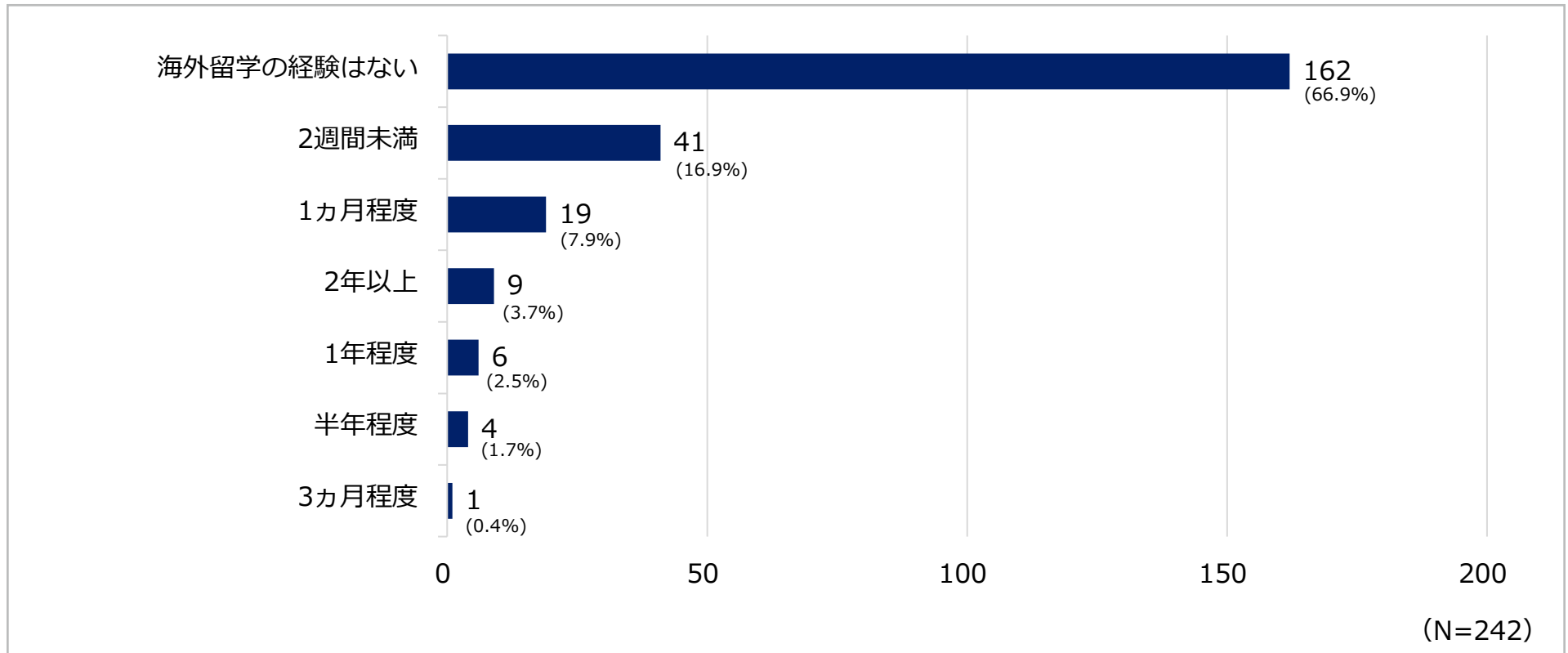
プログラム終了後のアンケート

✓ 海外留学経験のない学生が7割近くと最も多く、2週間未満の留学経験のある学生は2割近くである

アンケート結果 (2/20)

設問

Q5. 海外留学の経験はありますか。ある場合、どのくらいの期間ですか



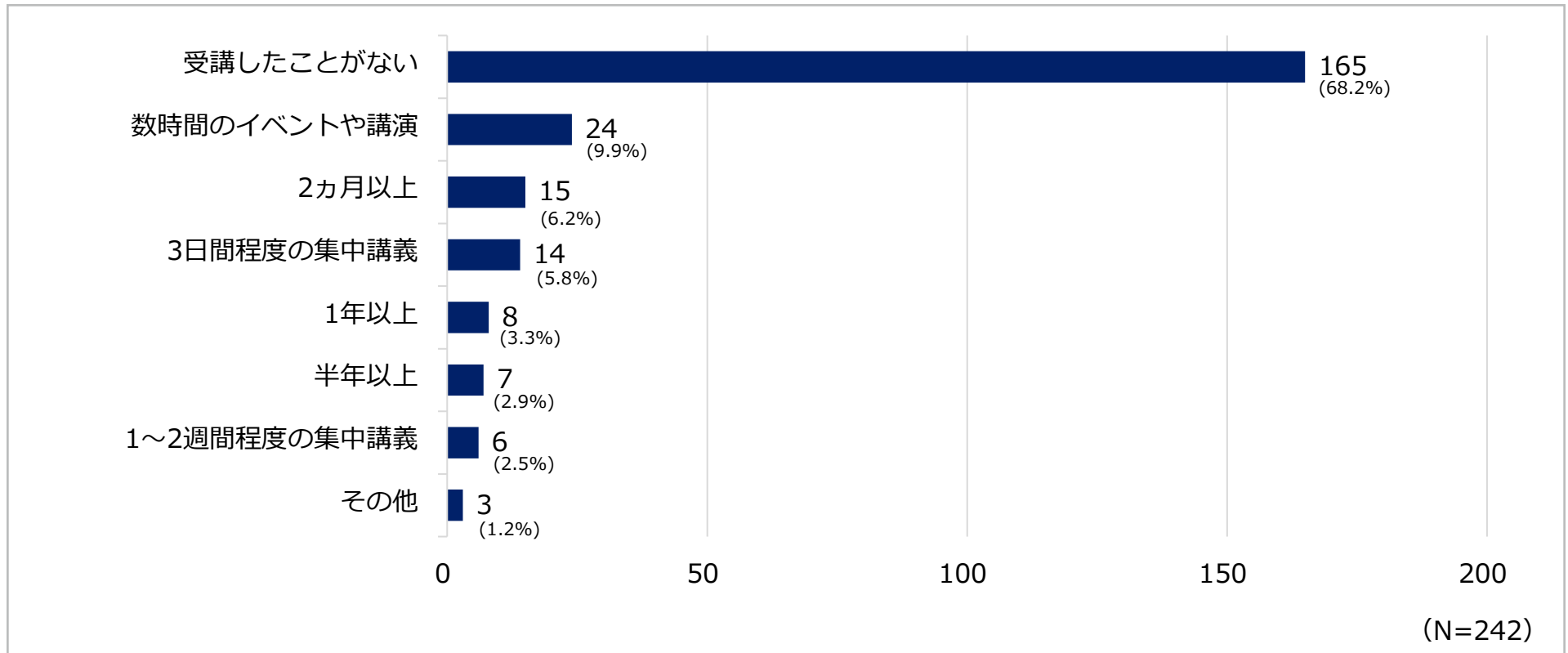
プログラム終了後のアンケート

✓ アントレ教育を受講したことのない学生が7割近くであり、未経験の学生が多い

アンケート結果 (3/20)

設問

Q6. 今までアントレ教育をどれぐらいの期間、受講されましたか



Nは回答者数

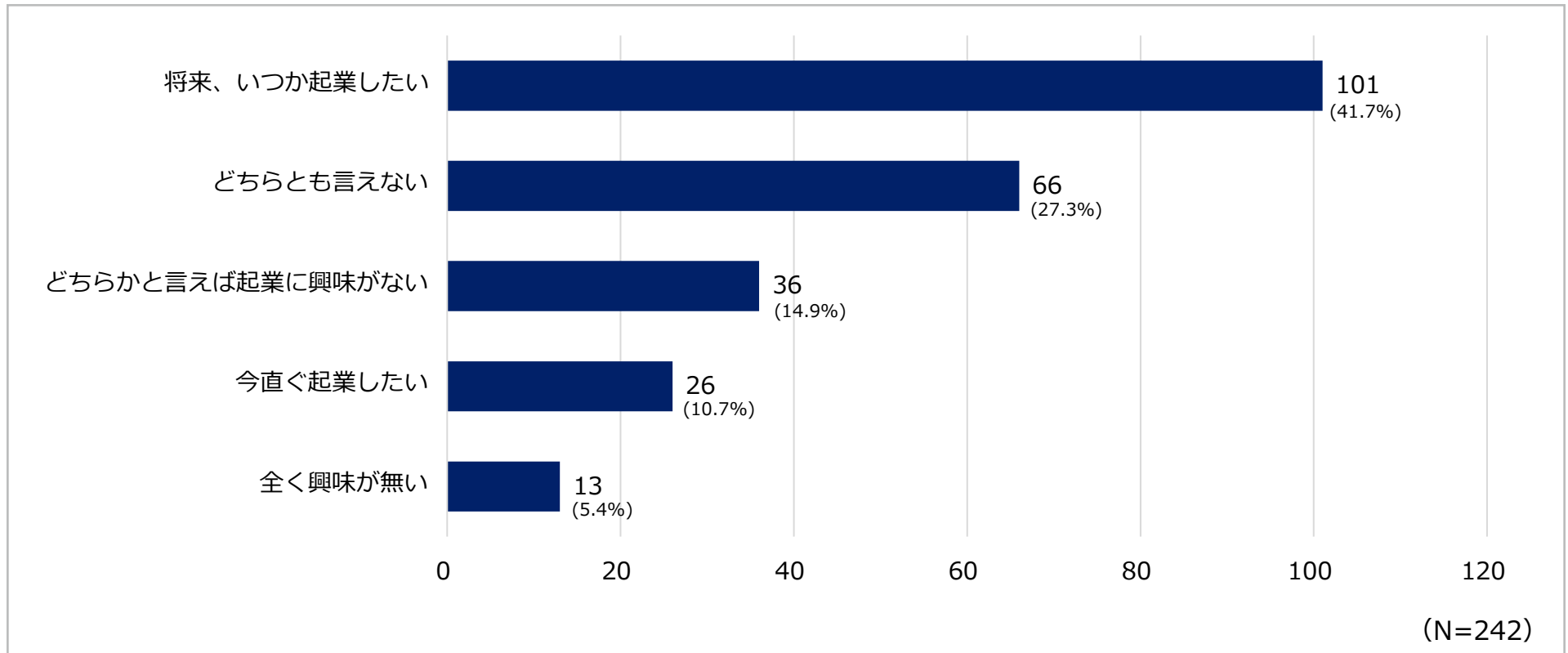
プログラム終了後のアンケート

✓ 将来起業したいと考えている学生が最も多い

アンケート結果 (4/20)

設問

Q7. 起業についてどの程度の興味関心を持っていますか



Nは回答者数

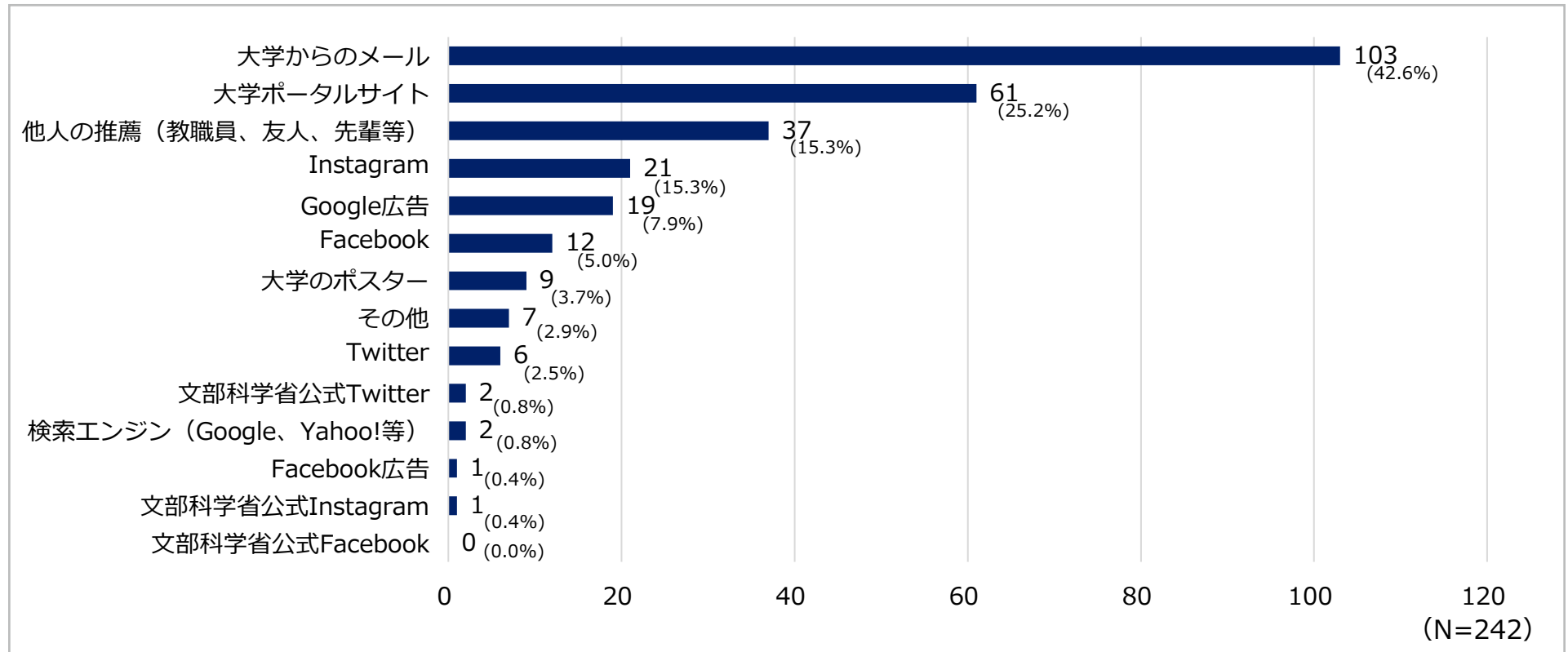
プログラム終了後のアンケート

✓ 大学からのメールを経由してプログラムを知った学生が最も多く、全体の4割程度である

アンケート結果 (5/20)

設問

Q8. 当プログラムを知ったきっかけを教えてください (複数回答)



Nは回答者数

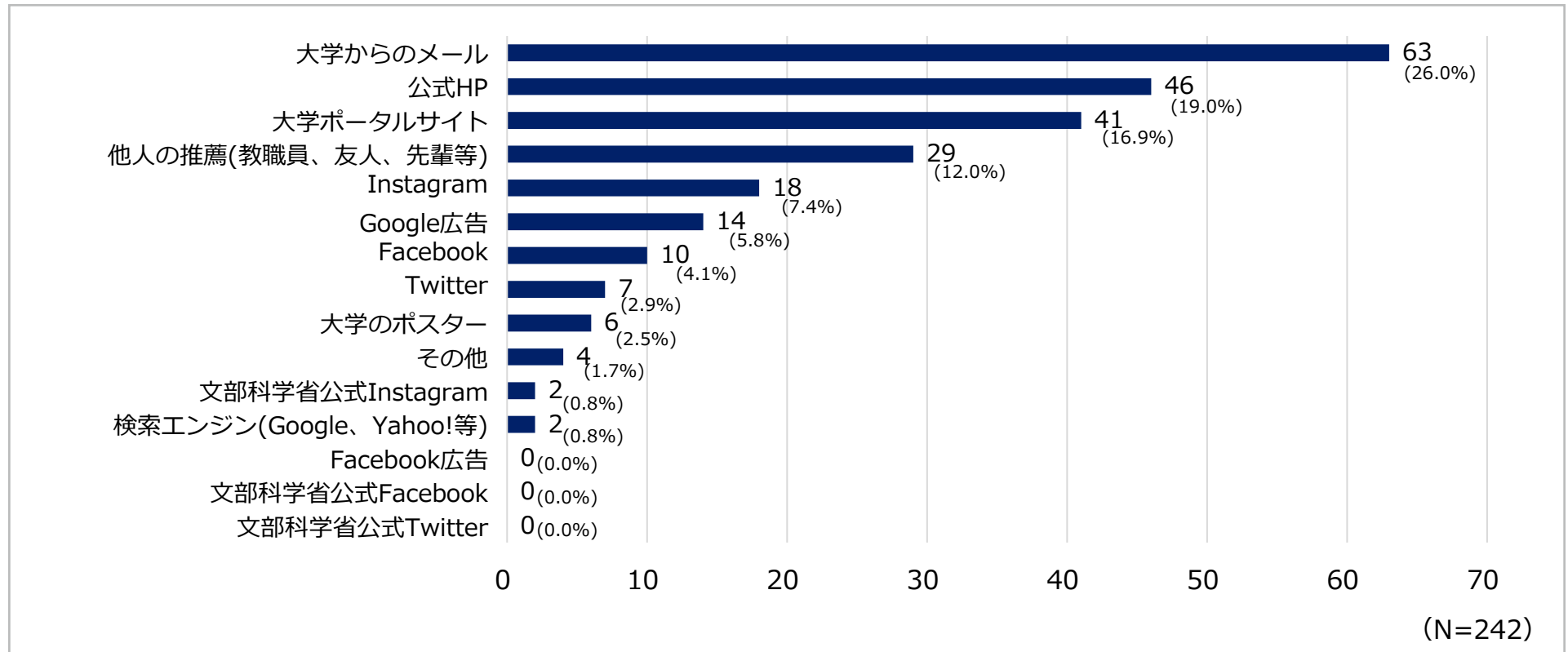
プログラム終了後のアンケート

✓ 影響力のある媒体として、大学メール、公式HP、大学のポータルサイト等が挙げられた

アンケート結果 (6/20)

設問

Q9. 当プログラムの申込に至った上で最も影響力のあった媒体について教えてください (複数回答)



Nは回答者数

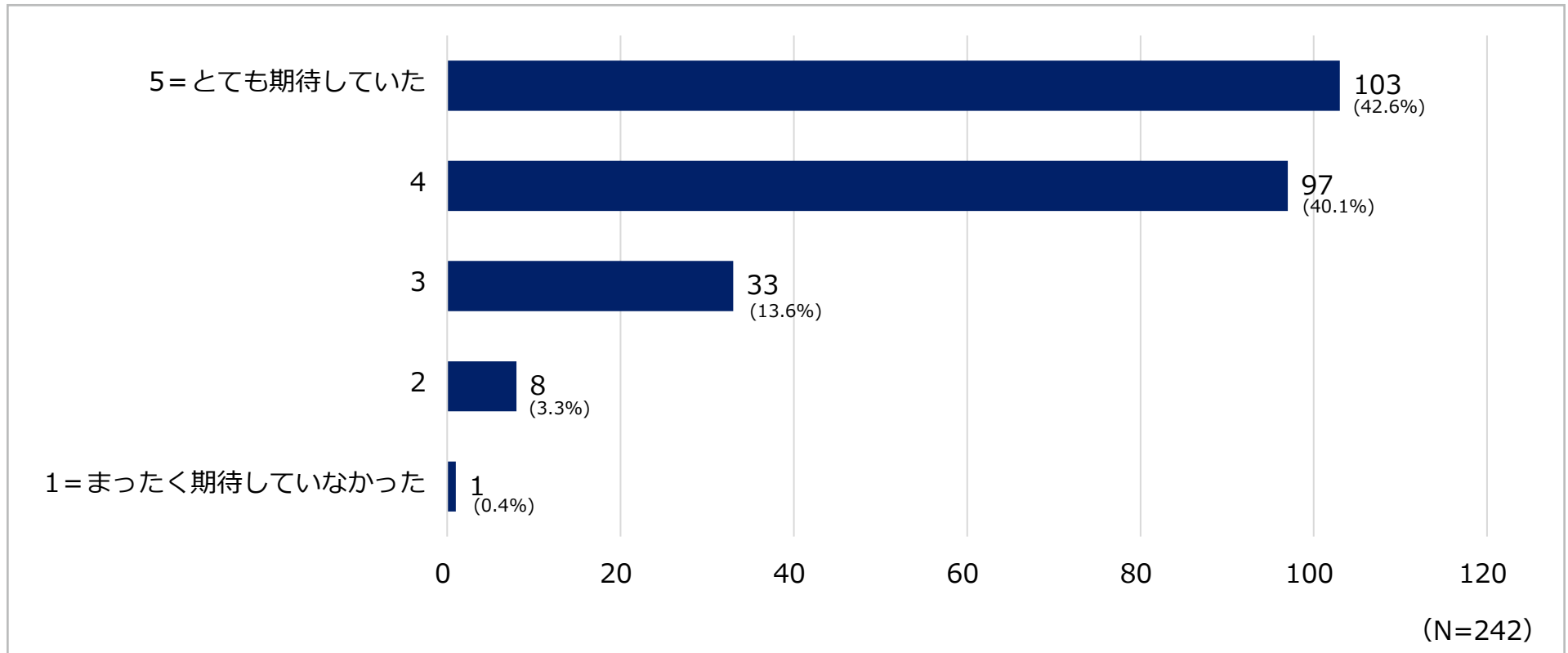
プログラム終了後のアンケート

✓ プログラムへの期待度について、ほとんどの回答者は高い期待を持っていた

アンケート結果 (7/20)

設問

Q11. 当プログラムにどの程度期待していましたか



Nは回答者数

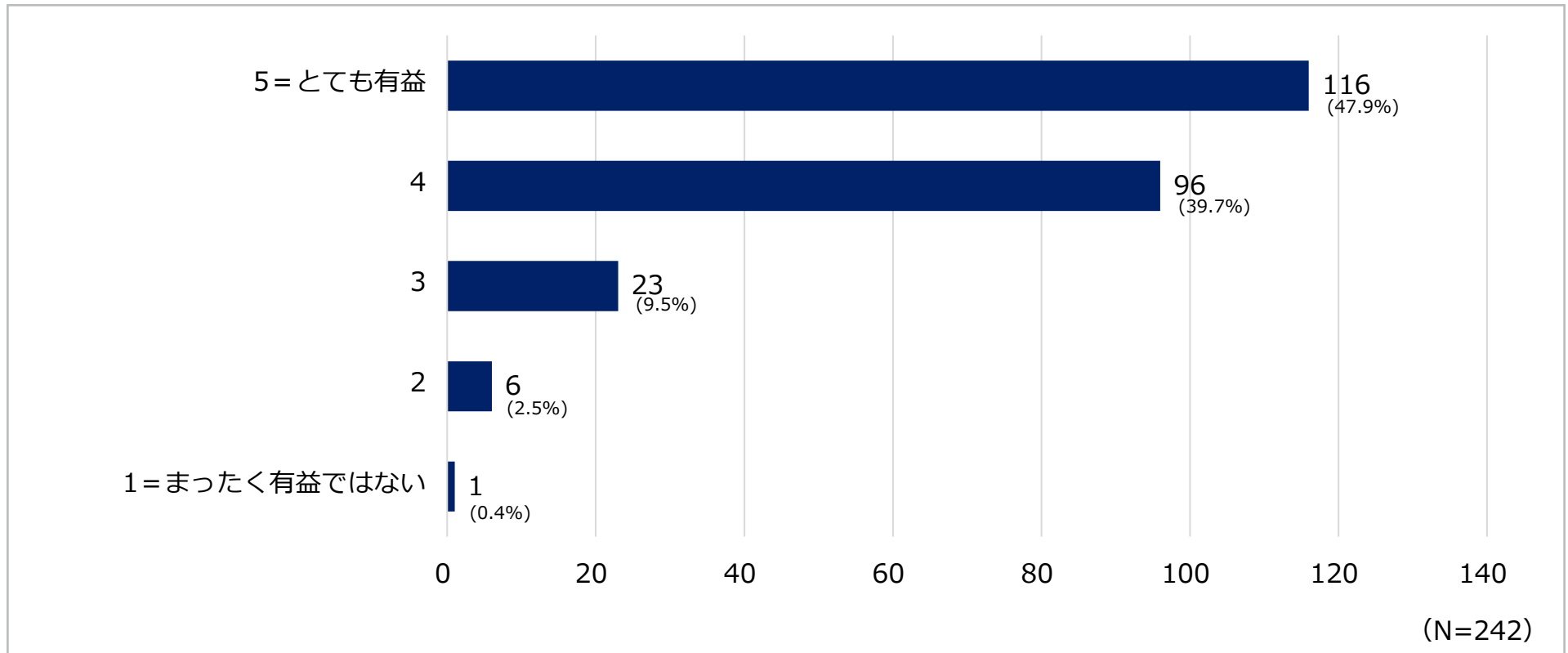
プログラム終了後のアンケート

✓ プログラムの品質について、ほとんどの学生は為になったと回答した

アンケート結果 (8/20)

設問

Q13. 当プログラムはどの程度高品質で有益だと思いますか（当プログラムはどの程度為になりましたか）



Nは回答者数

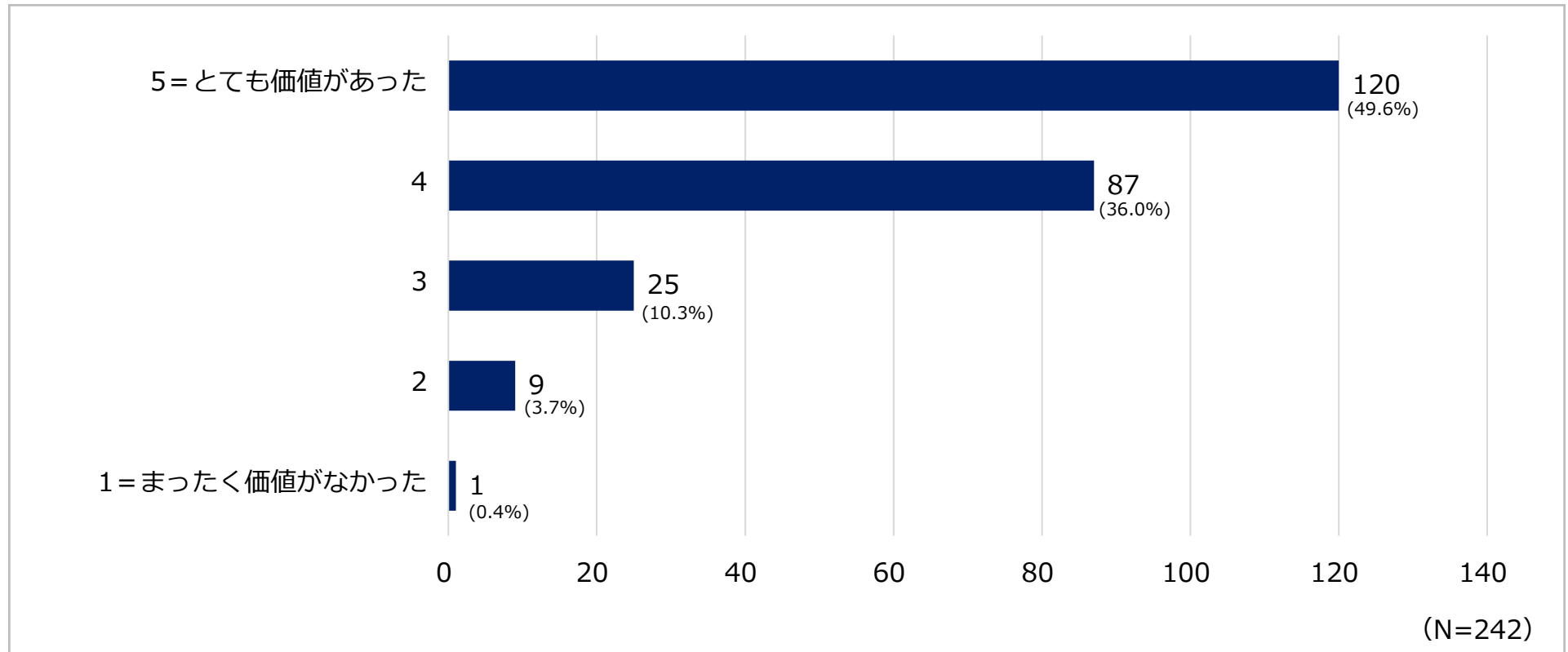
プログラム終了後のアンケート

✓ プログラムの価値について、8割強の学生は費やした時間に見合うリターンがあったと回答した

アンケート結果 (9/20)

設問

Q14. 当プログラムを受講するために必要な時間、労力等を費やすだけの価値（リターン）はあったと思いますか



Nは回答者数

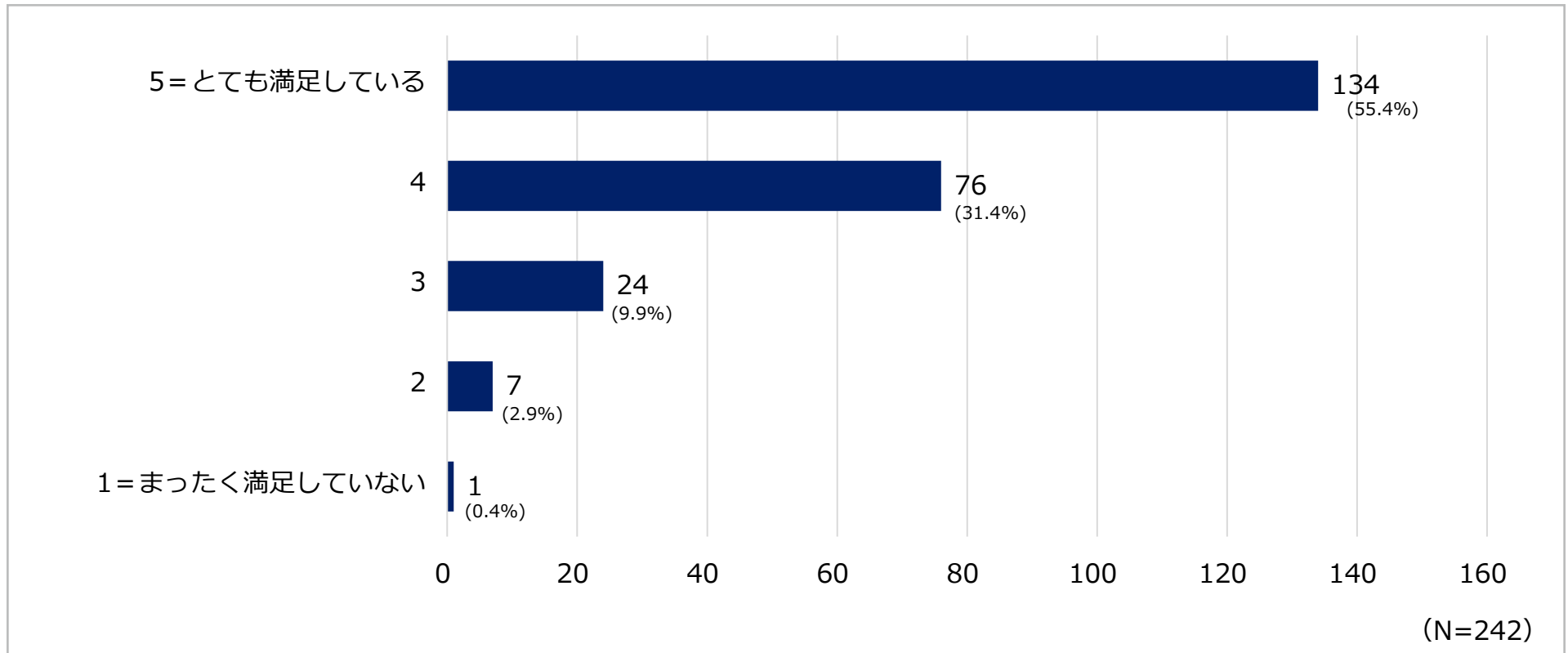
プログラム終了後のアンケート

✓ プログラムへの満足度について、ほとんどの学生は高い満足度を持っている

アンケート結果 (10/20)

設問

Q15. 当プログラムに満足していますか



Nは回答者数

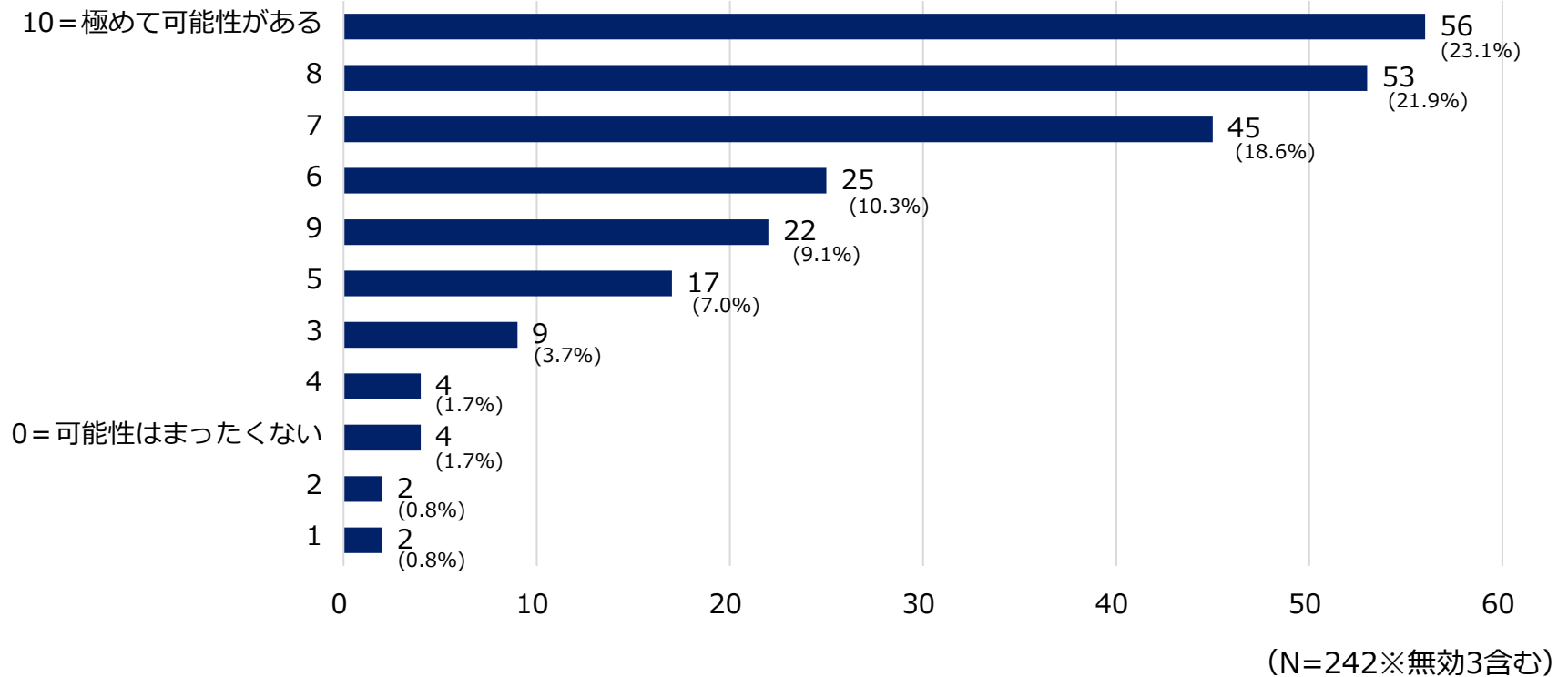
プログラム終了後のアンケート

✓ 回答者のうち、推奨者（評価10～9）は3割強、中立者（評価8～7）は4割、批判者（評価6～0）は3割弱である

アンケート結果（11/20）

設問

Q17. 本プログラムを友人/知人に勧める可能性はありますか



Nは回答者数

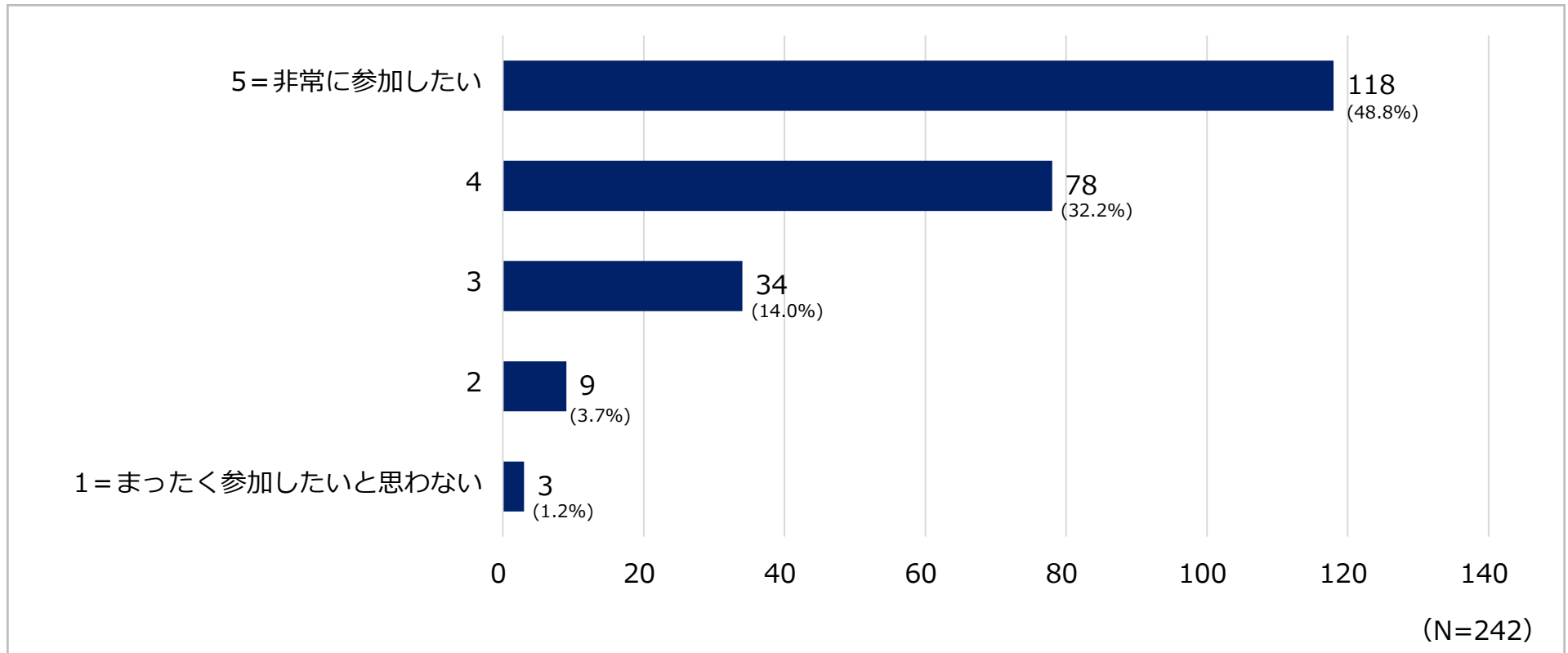
プログラム終了後のアンケート

✓ 今後プログラムが開催される場合、8割の学生は参加したいと回答した

アンケート結果 (12/20)

設問

Q19. 今後もこのようなプログラムが開催される場合、参加しますか



Nは回答者数

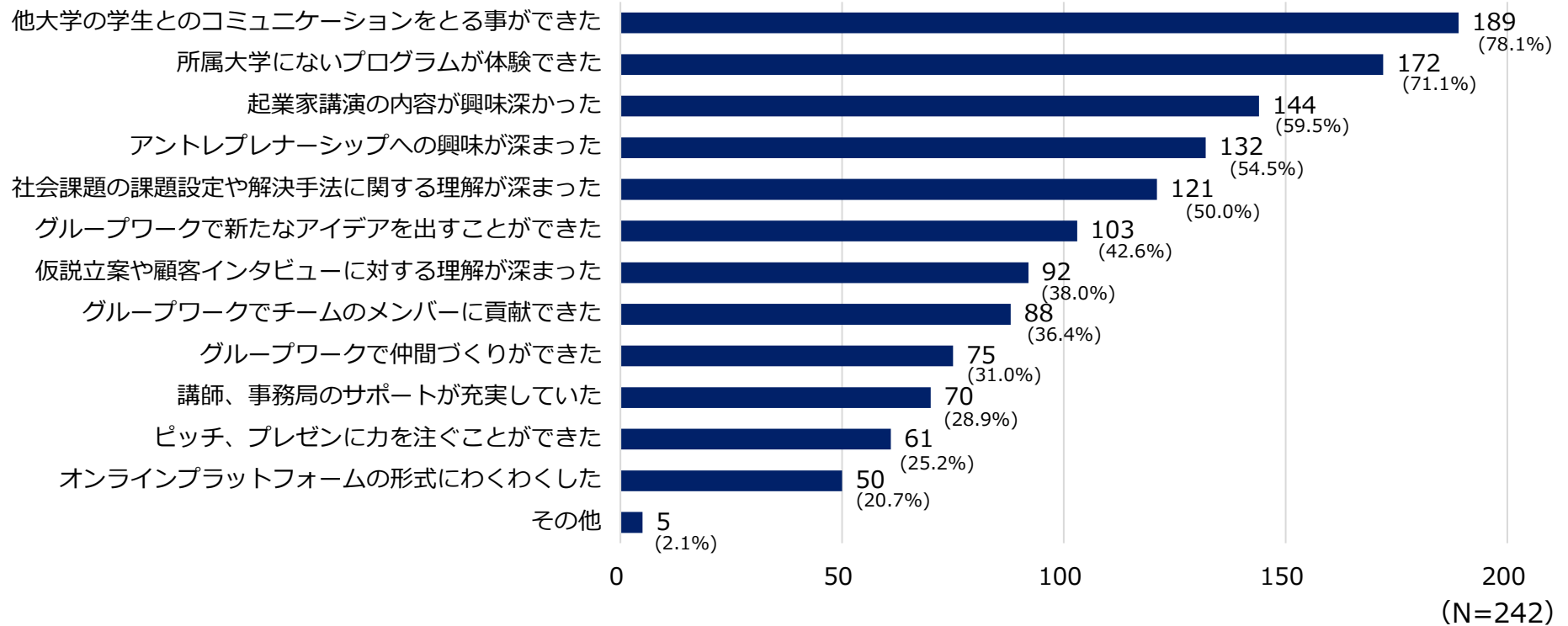
プログラム終了後のアンケート

✓ プログラムの感動体験として、学生同士のコミュニケーション、所属大学にない体験、起業家講演に関する回答が多かった

アンケート結果 (13/20)

設問

Q21. 本プログラムを通して、感動するような体験はありましたか（複数回答）



Nは回答者数

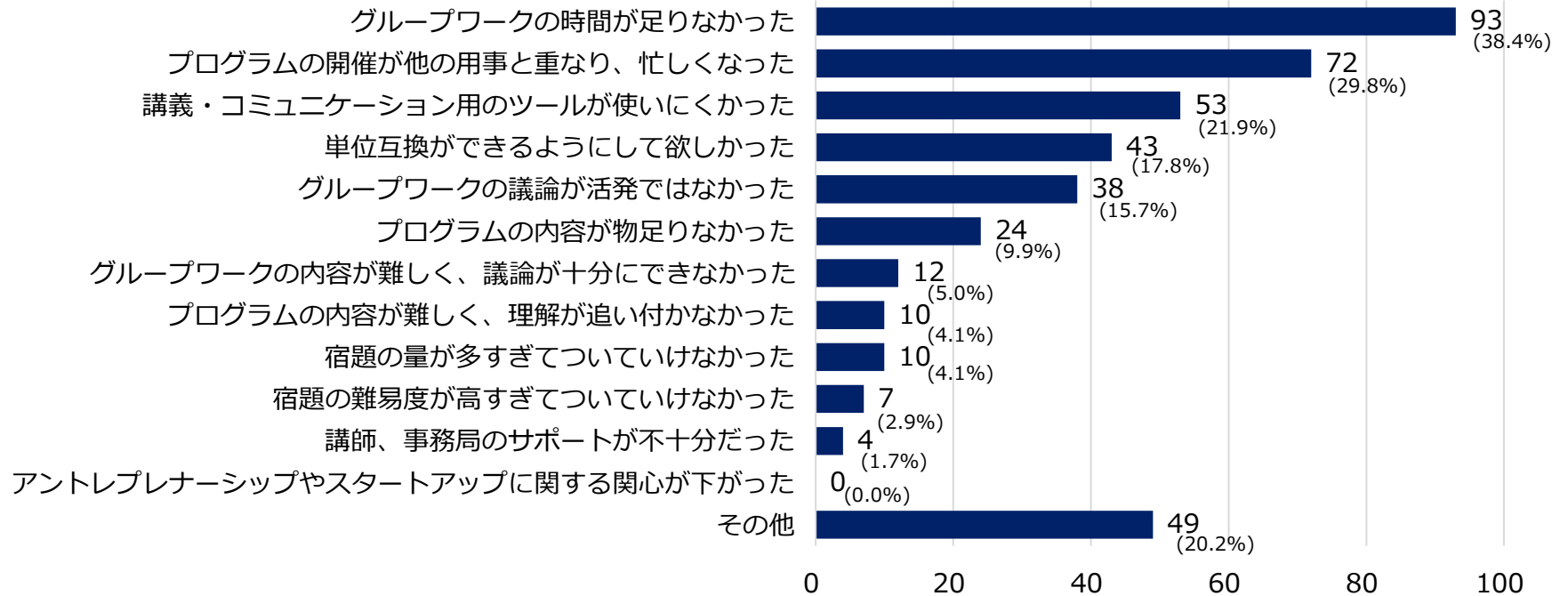
プログラム終了後のアンケート

✓ プログラムの失望体験について、グループワーク時間の不足、開催時期と用事の重複に関する回答が多かった

アンケート結果 (14/20)

設問

Q22. 本プログラムを通して、失望するような体験はありましたか（複数回答）



(N=242)

Nは回答者数

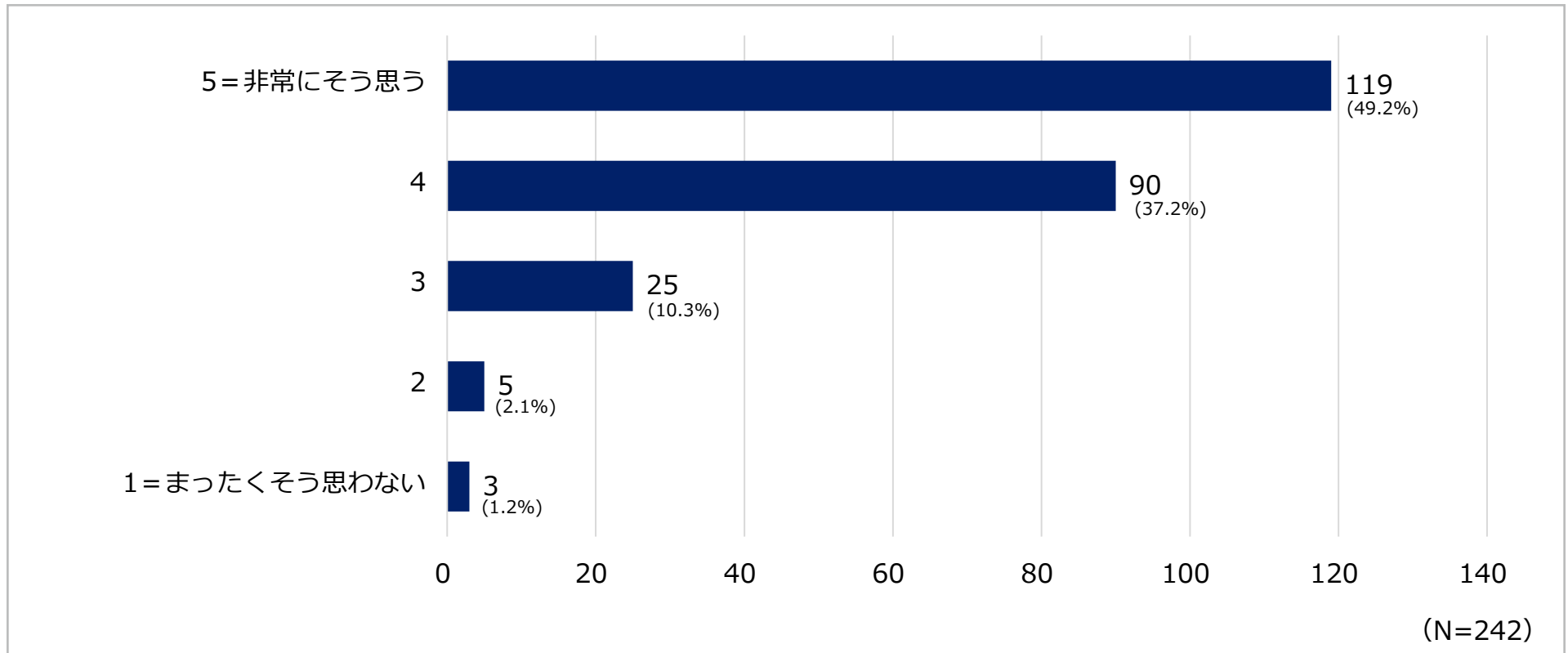
プログラム終了後のアンケート

✓ プログラムの必要性について、ほとんどの学生は肯定的な回答をした

アンケート結果 (15/20)

設問

Q23. 当プログラムがご自身の学校生活、キャリア、人生において、必要なものだったと感じますか



Nは回答者数

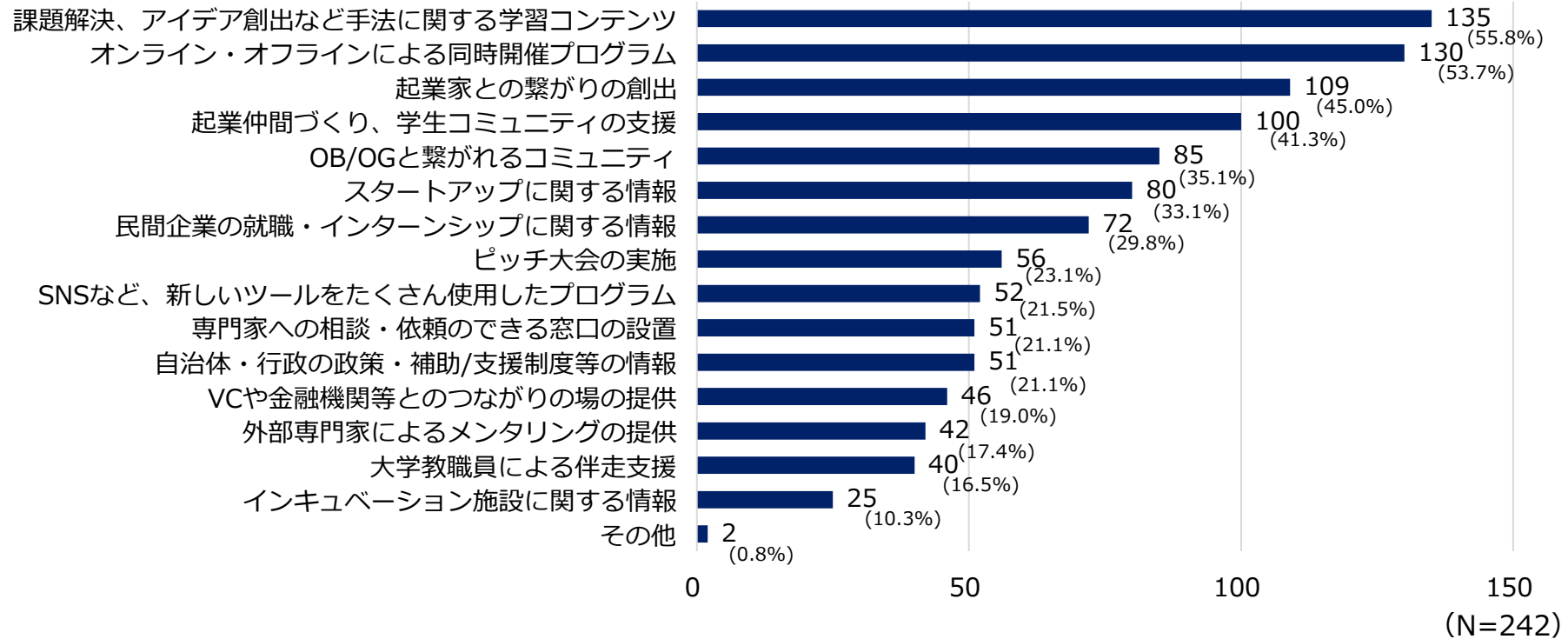
プログラム終了後のアンケート

- ✓ 回答者のうち、課題解決・アイデア創出等の実践的な手法、オンライン・オフライン同時開催、起業家とのつながりといった内容・形式が望ましいと回答した

アンケート結果 (16/20)

設問

Q24.アントレプレナーシップの教育を受ける上で、どのような内容・形式が望ましいと思いますか（複数回答）



Nは回答者数

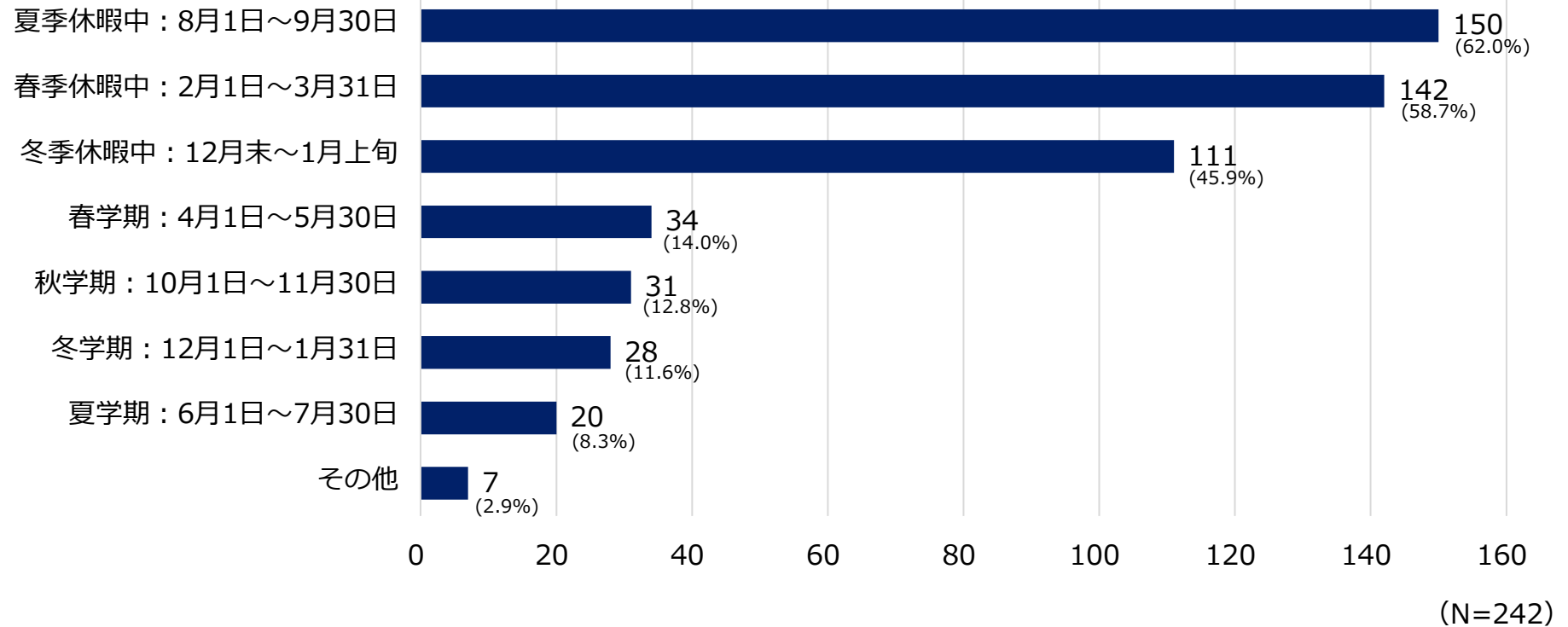
プログラム終了後のアンケート

✓ プログラムの実施時期について、各学期の休暇中がもっとも望ましいと回答した

アンケート結果 (17/20)

設問

Q25. プログラム実施時期について、下記のどちらが望ましいですか（複数回答）



Nは回答者数

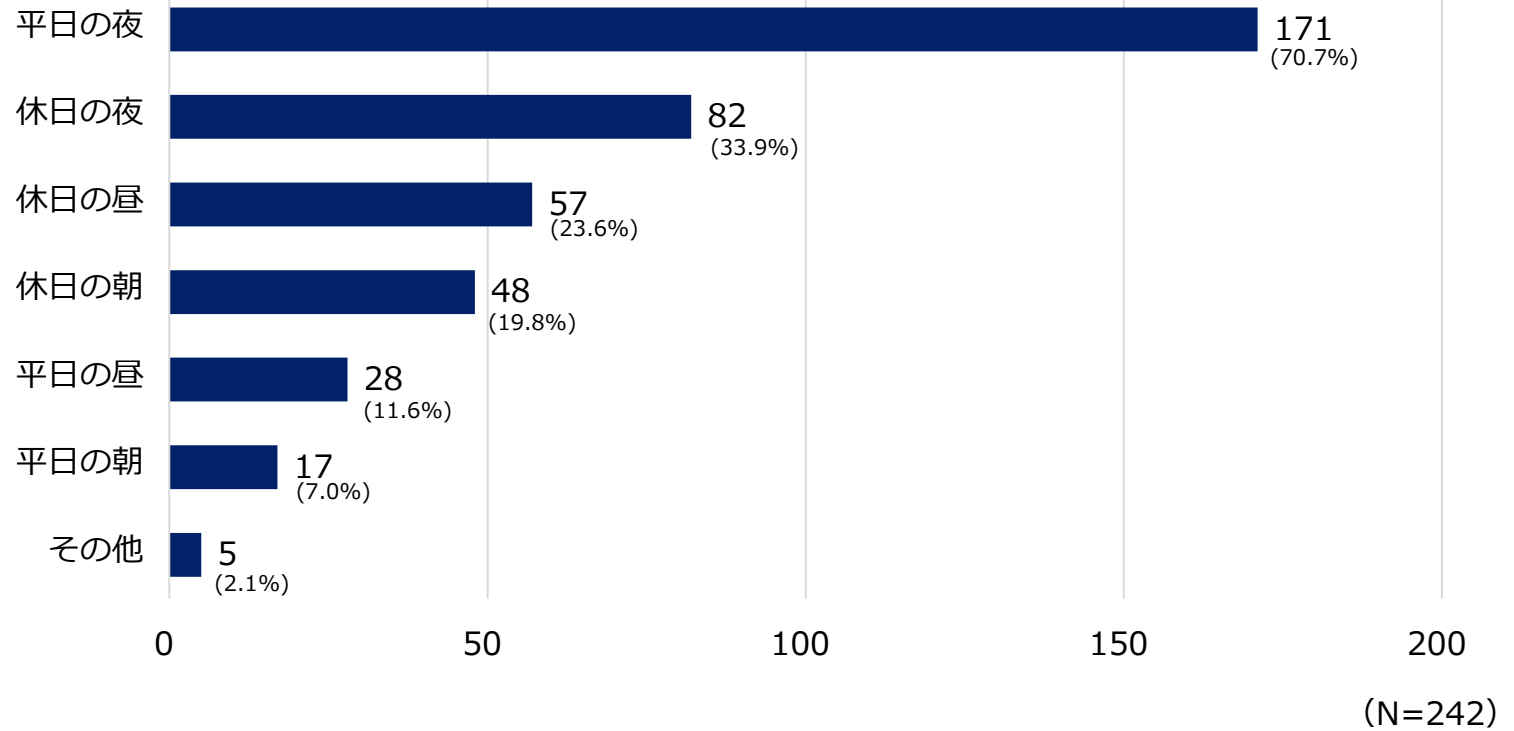
プログラム終了後のアンケート

✓ プログラムの実施時間について、平日の夜が最も望ましいと回答した

アンケート結果 (18/20)

設問

Q26. プログラム実施時間について、下記どちらが望ましいですか（複数回答）



Nは回答者数

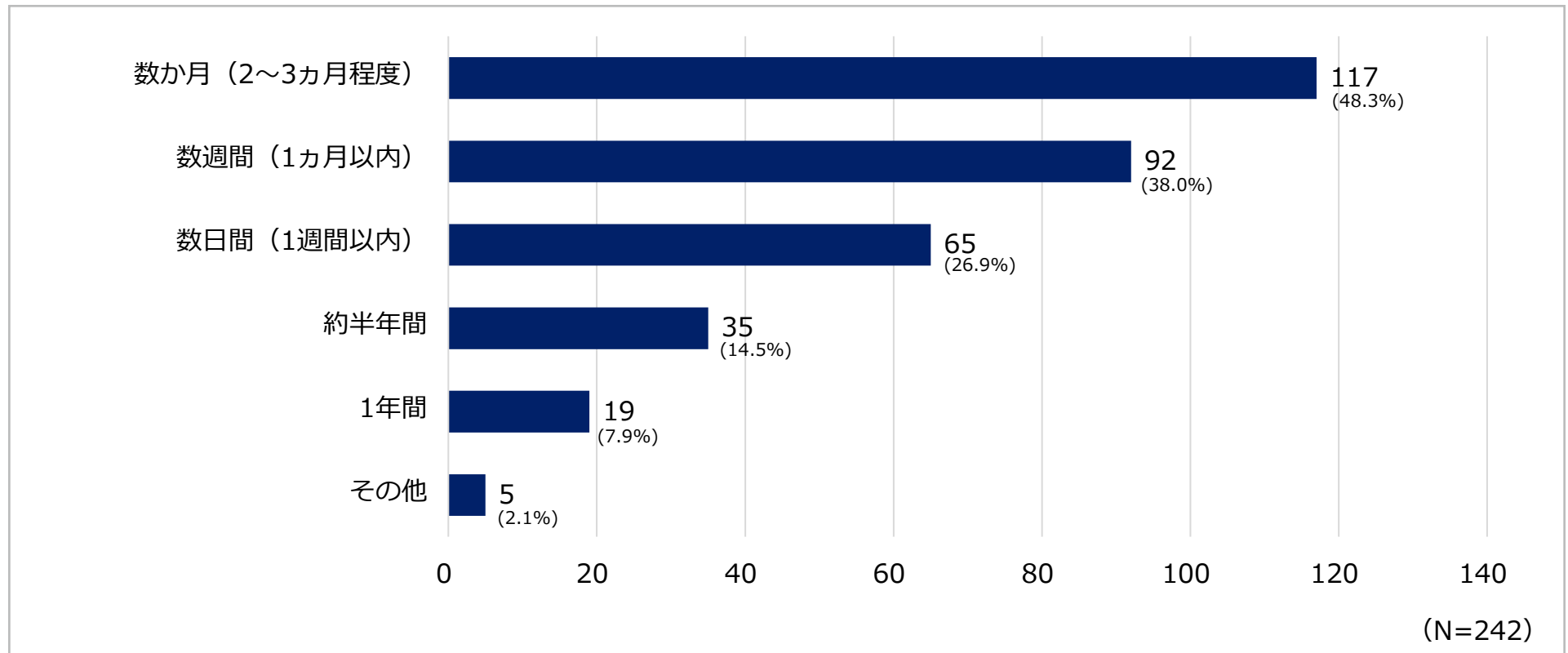
プログラム終了後のアンケート

✓ プログラムの実施期間について、2~3か月程度、1か月以内が望ましいと回答した

アンケート結果 (19/20)

設問

Q27. プログラム実施期間について、下記どちらが望ましいですか（複数回答）



Nは回答者数

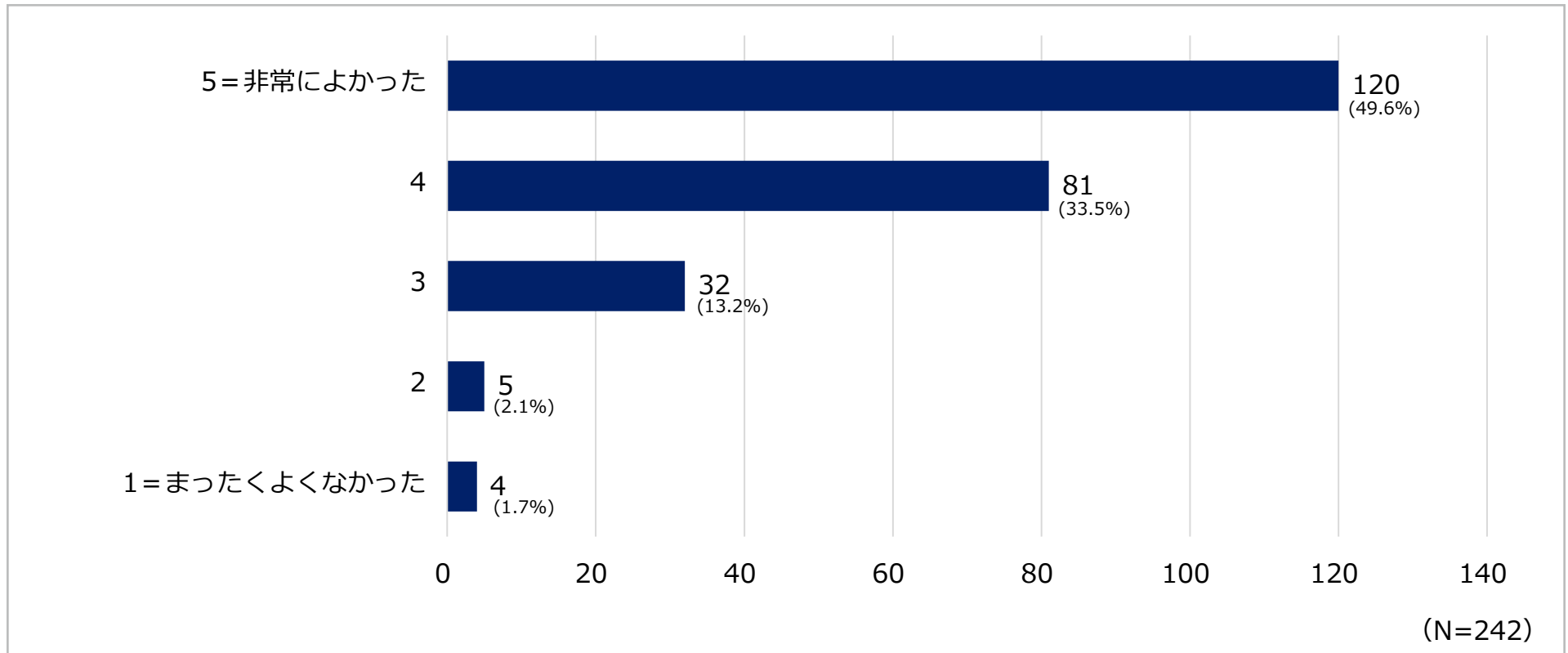
プログラム終了後のアンケート

✓ 事務局サポートについて、8割強の回答者は肯定的な回答をした

アンケート結果 (20/20)

設問

Q28. 当プログラムの事務局サポートはどうでしたか



Nは回答者数

【APPENDIX⑥】 教職員向けアンケート実施概要

プログラム傍聴申込時のアンケート

プログラム傍聴申込時のアンケート

- ✓ 全国の教職員を対象にプログラム傍聴者を募集し、申込時にアンケートを実施した

プログラム傍聴申込時のアンケートの目的・概要

目的

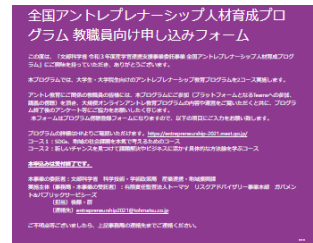
- 全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムの傍聴者を募集し、申込時に教職員の属性やアントレ教育の経験等を把握するためのアンケートを実施した

アンケート対象

- プログラムに申込をした全国の教職員

アンケート概要

- プログラムの傍聴の募集を行い、申込時に右図のようなアンケートを実施した
- 傍聴教職員の属性、アントレ教育の経験等を把握するために下記項目を設定した
 - 教職員歴
 - アントレ教育に関わったご経験
 - オフライン会場設置の可否、会場詳細※ など



※ プログラムの一部をオフライン会場での開催を検討していたが、COVID-19の影響を踏まえて見送りとなった

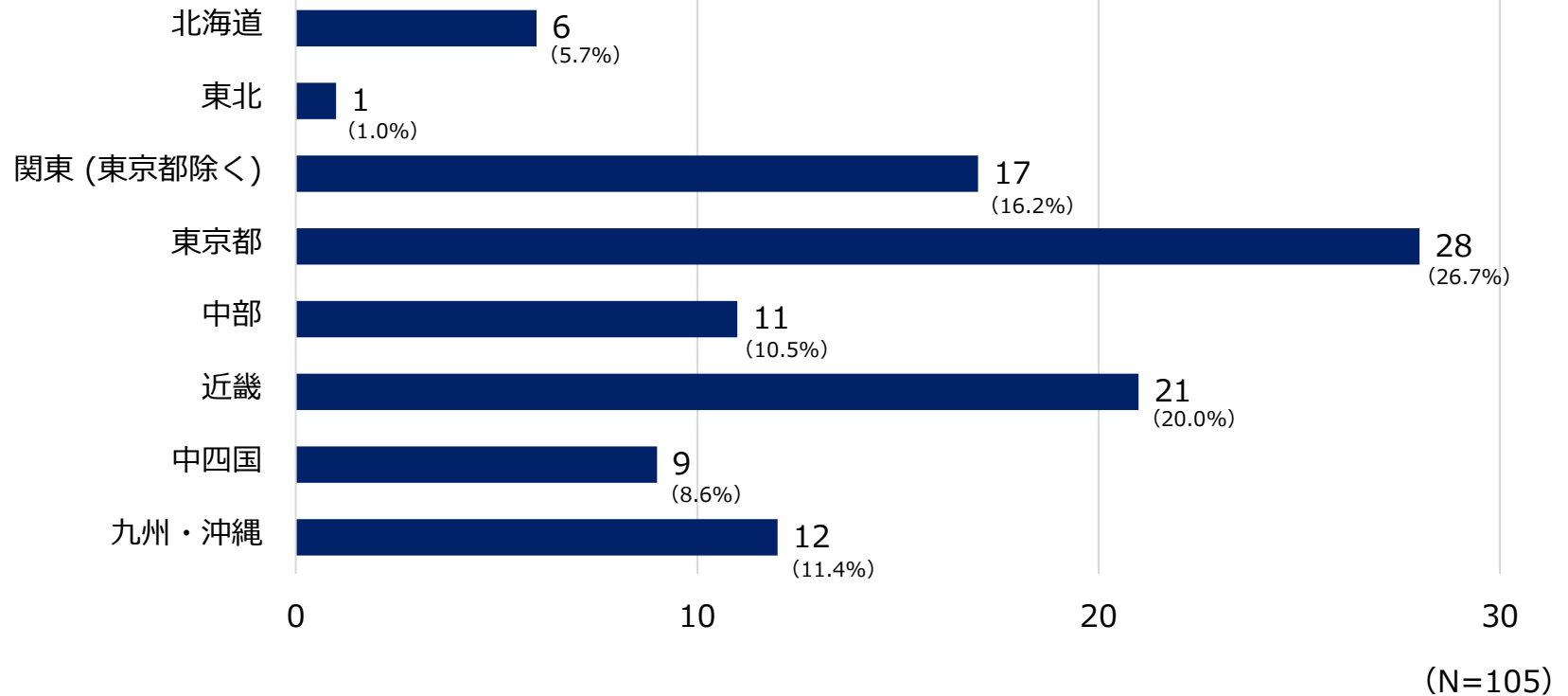
プログラム傍聴申込時のアンケート

✓ 全国から教職員の申込があり、そのうち東京都からの申込が最も多く、3割弱を占めている

アンケート結果 (1/4)

設問

Q2. 所属大学（所属大学の所在地ごとの分布）



Nは回答者数

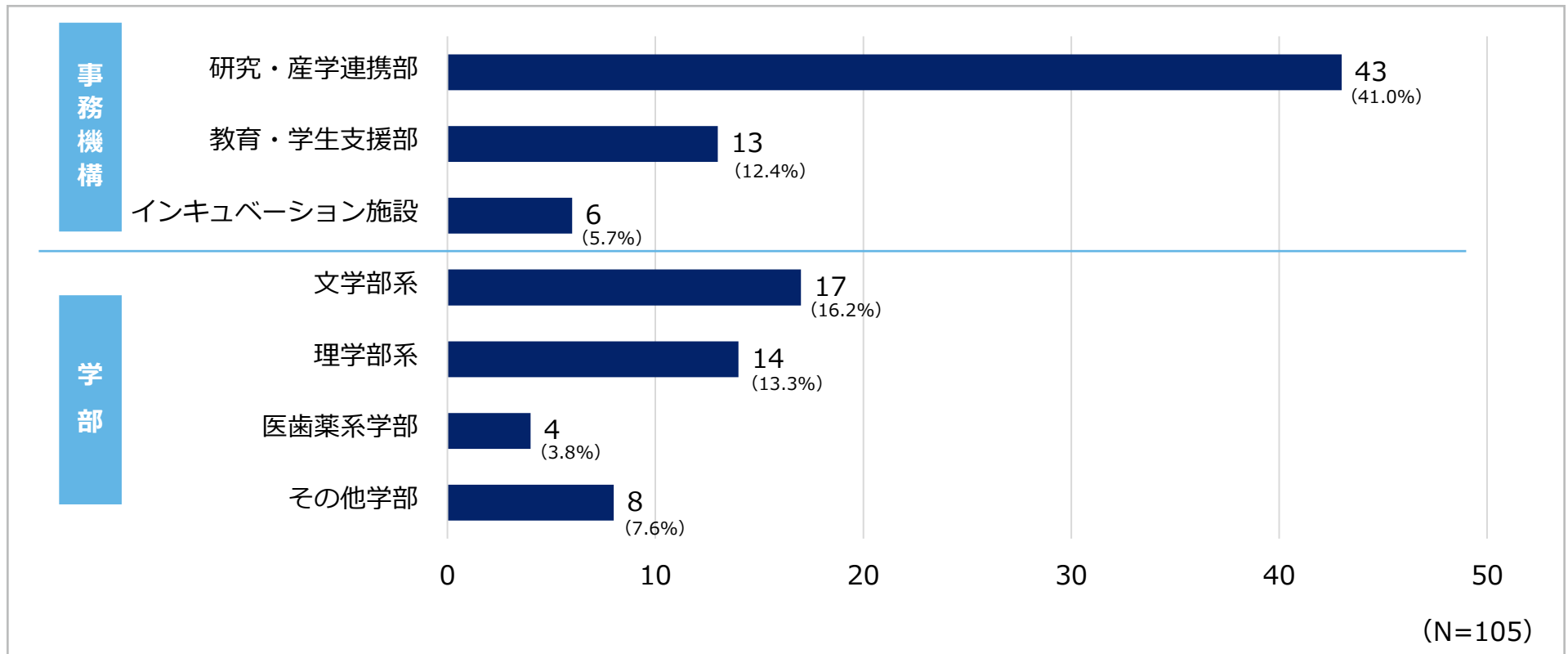
プログラム傍聴申込時のアンケート

✓ 事務機構および大学学部の教職員が申し、そのうち研究・産学連携部が最も多い

アンケート結果 (2/4)

設問

Q3. 所属学部・学科・専攻 (所属学部・学科・専攻の分類ごとの分布)



Nは回答者数

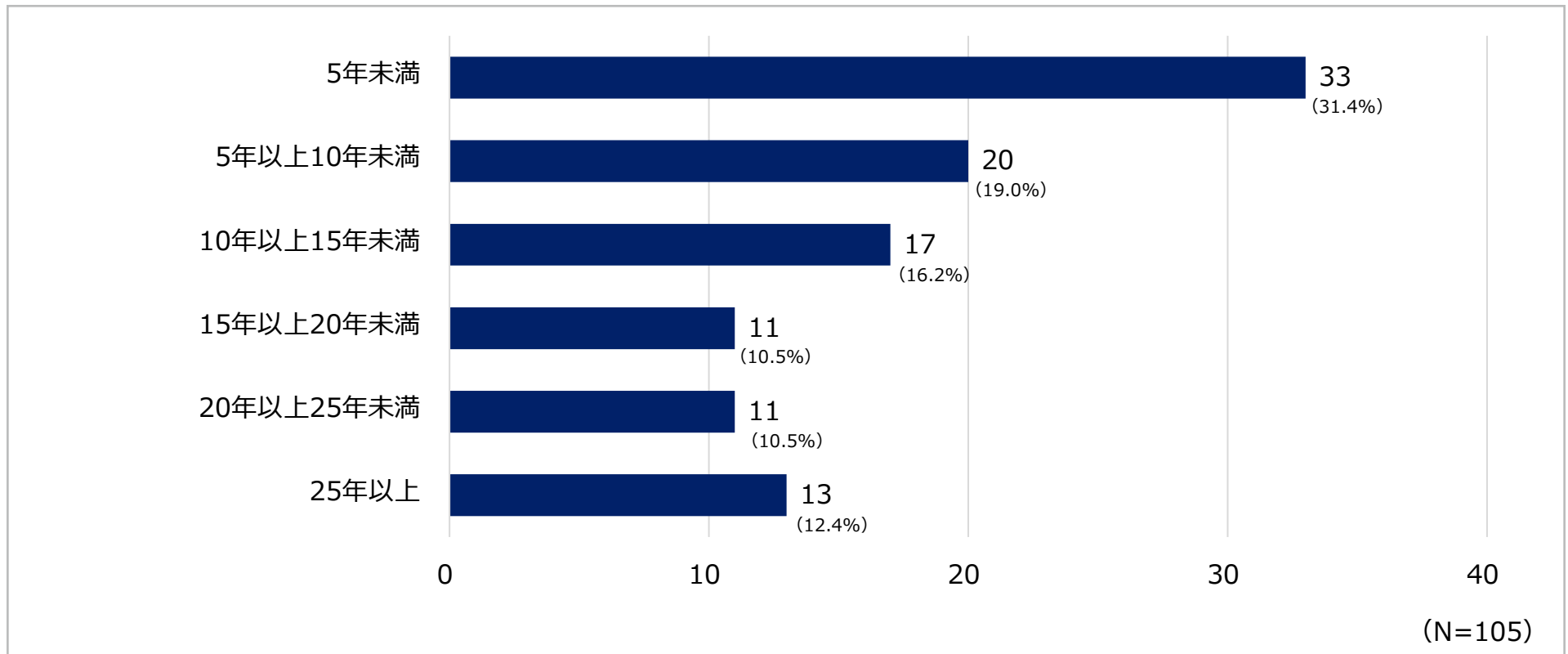
プログラム傍聴申込時のアンケート

✓ 申込みをした傍聴教職員は教職員歴が5年未満の方が最も多かった

アンケート結果 (3/4)

設問

Q5. 教職員歴（年数）



Nは回答者数

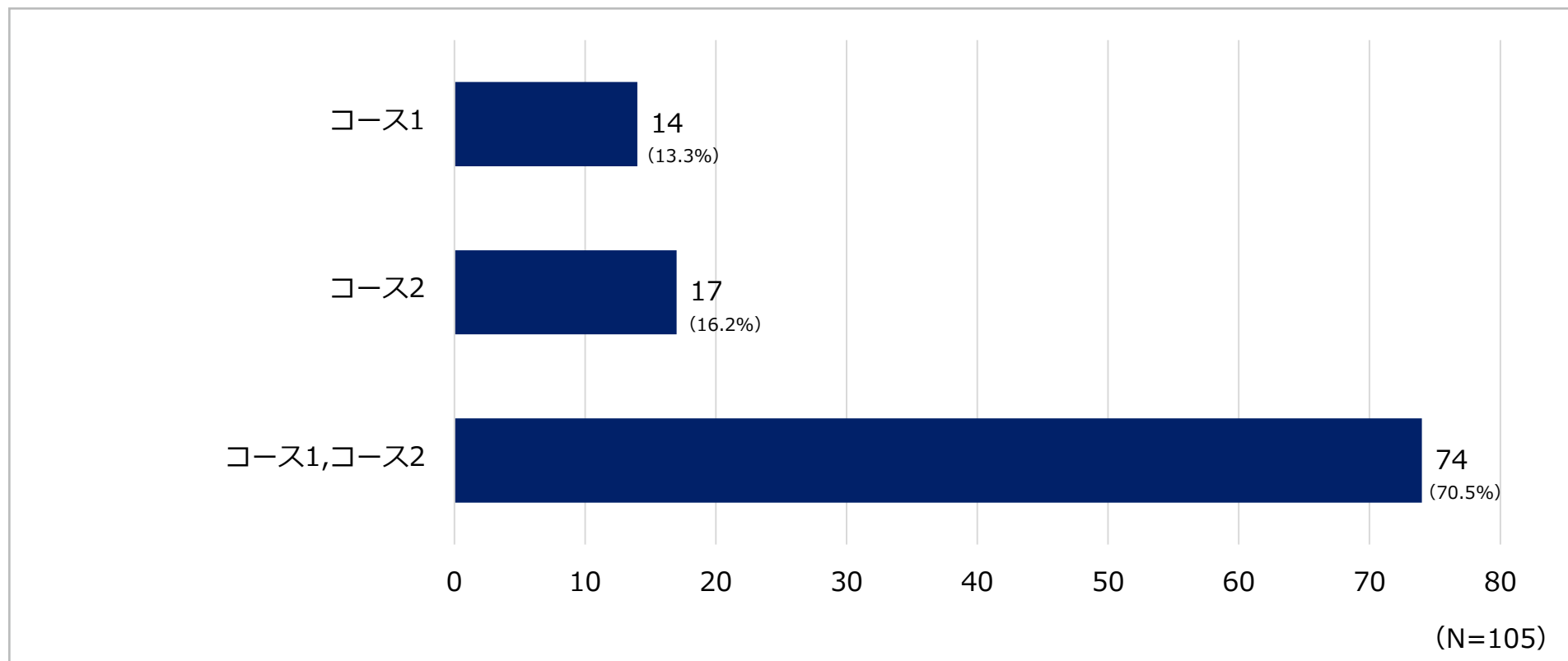
プログラム傍聴申込時のアンケート

✓ 両方のコースを希望された教職員は7割程度である

アンケート結果 (4/4)

設問

Q7. 傍聴希望のコースをご教示ください (複数回答)



Nは回答者数

プログラム傍聴終了後のアンケート

プログラム傍聴終了後のアンケート

- ✓ 全国プログラムを傍聴した教職員を対象に、プログラム傍聴終了後にアンケートを実施した
- ✓ アンケート結果から全国プログラムの課題を導出し、今後の方向性について検討を行うことを目的としている

プログラム傍聴終了後のアンケート目的・概要

目的

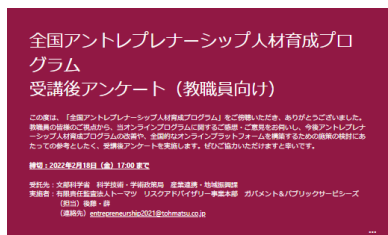
- 全国プログラムを傍聴した教職員を対象に、プログラム終了後にアンケートを行い、全国プログラムの課題を導出する
- アントレプレナーシップ教育の裾野拡大に資する学生の関心醸成・行動変容の促進や、プログラムの内容・運営方法、プログラムのノウハウ活用等の課題やニーズについてアンケート調査を行う

アンケート対象

- プログラムを傍聴した教職員全員

アンケート概要

- 下記のような方針に基づき、右図のようなアンケートを設計した
- 学生の意識・行動に関する指標を定め、プログラムを受講した学生の体験（ユーザーエクスペリエンス）を教職員の視点から評価いただき、各指標の分析を実施する
- 加えて、全国プログラムを自大学で活用できるか、参考になるノウハウの有無について等も測定できるように指標を用意し、分析を実施する



* 必須

1.お名前*

2.フリガナ*

プログラム傍聴終了後のアンケート

✓ アンケート回答は、下記11大学の教職員からいただいた

アンケート結果 (1/31)

設問

Q3. 所属大学

- 鹿児島大学
- 東洋大学
- 名城大学
- 創価大学
- 関西大学
- 東京大学
- お茶の水女子大学
- 湘北短期大学
- 広島女学院大学
- 滋賀医科大学
- 愛媛大学

(N=11)

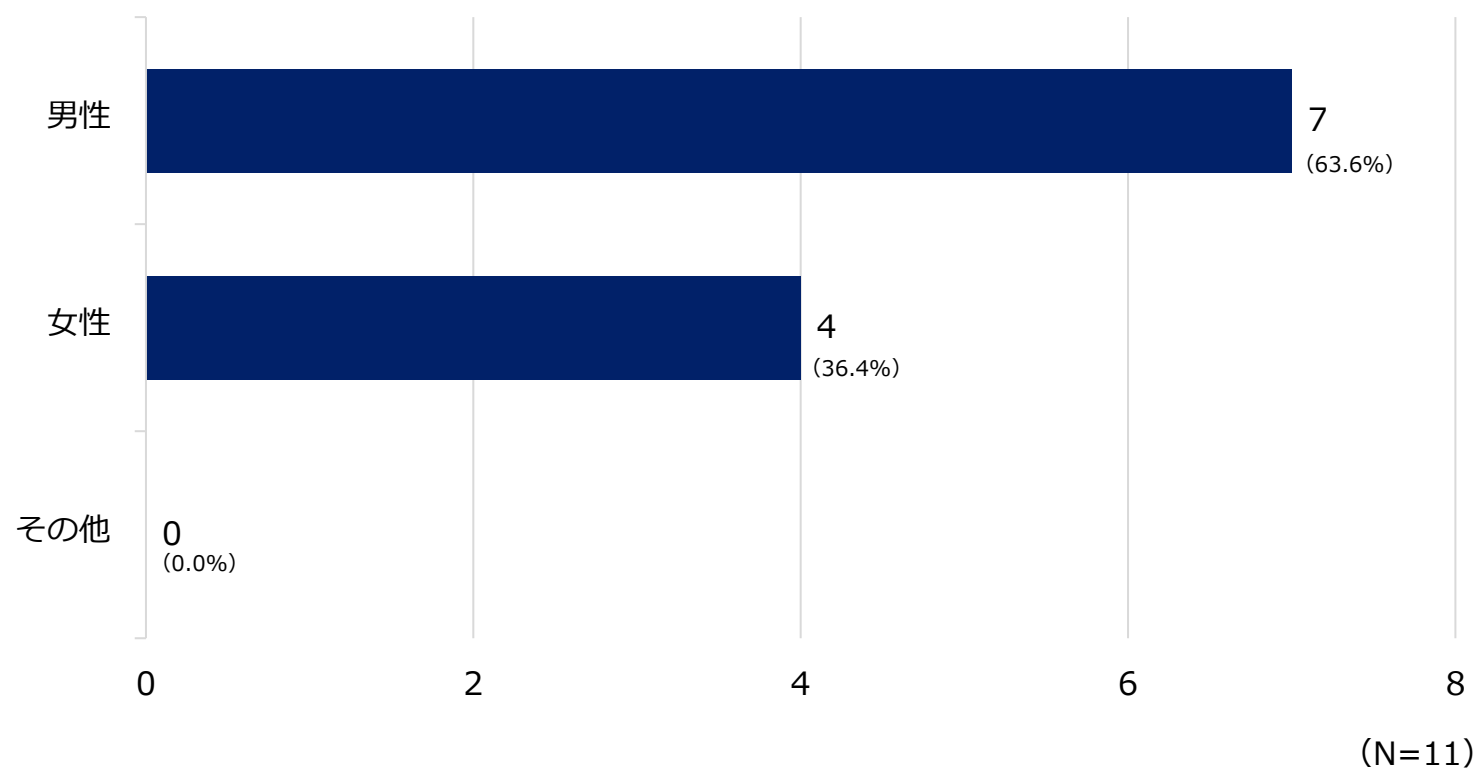
プログラム傍聴終了後のアンケート

✓ アンケート回答教職員は、男性の方が多い

アンケート結果 (2/31)

設問

Q4. 性別



Nは回答者数

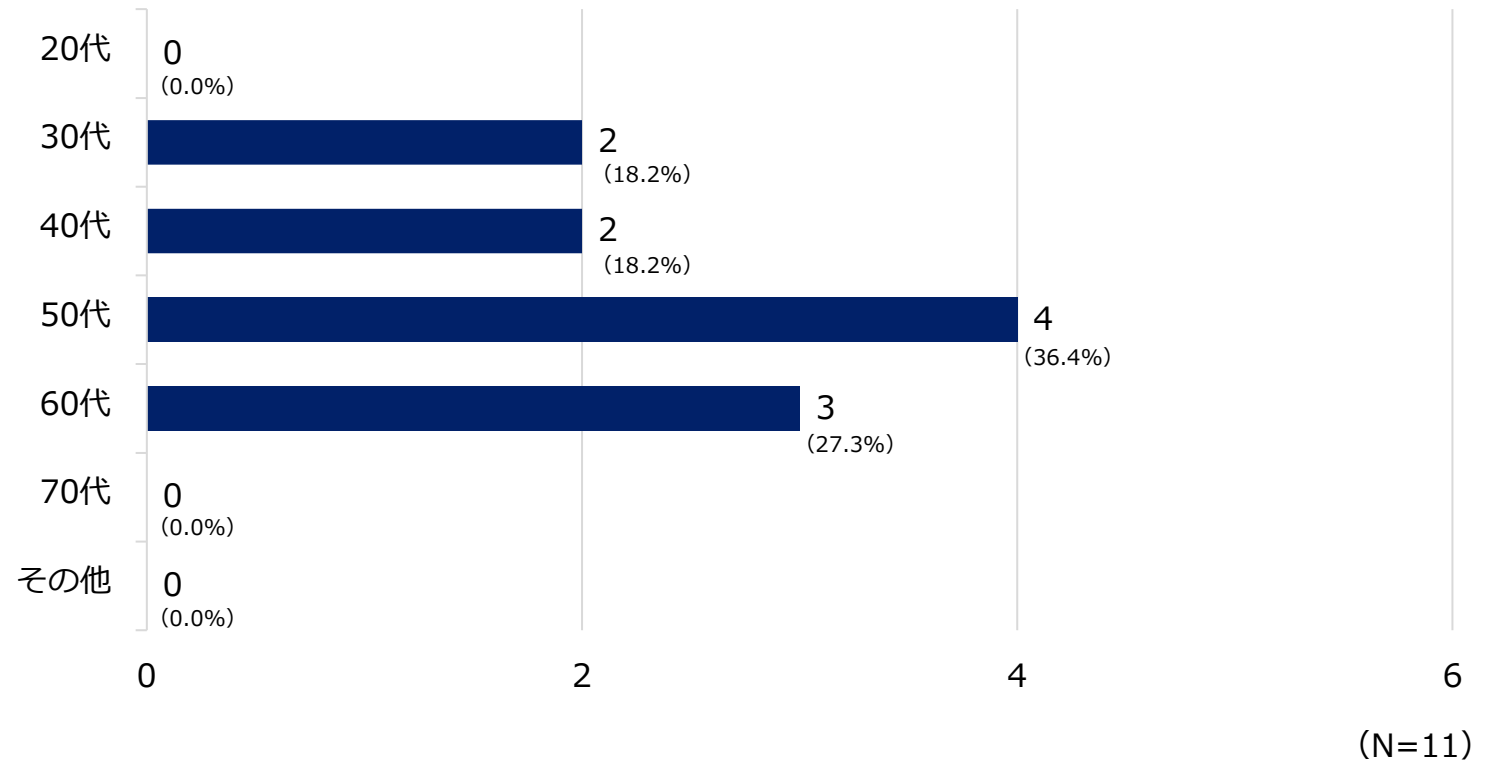
プログラム傍聴終了後のアンケート

✓ アンケート回答教職員は、幅広い年齢層である

アンケート結果 (3/31)

設問

Q5. 年齢層



Nは回答者数

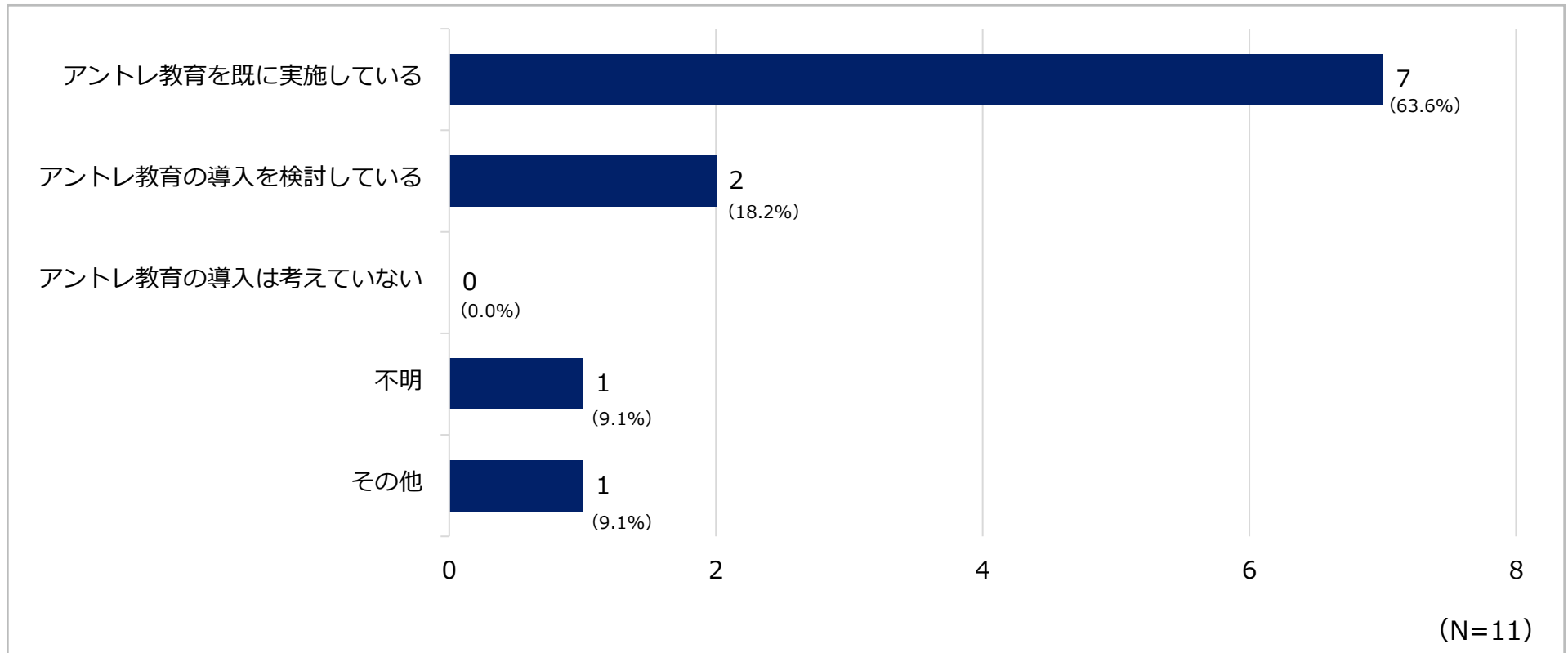
プログラム傍聴終了後のアンケート

✓ アンケート回答教職員の所属大学において、アントレ教育をすでに実施している大学は6割である

アンケート結果 (4/31)

設問

Q6. 所属大学の学内におけるアントレ教育導入の有無をご教示ください



Nは回答者数

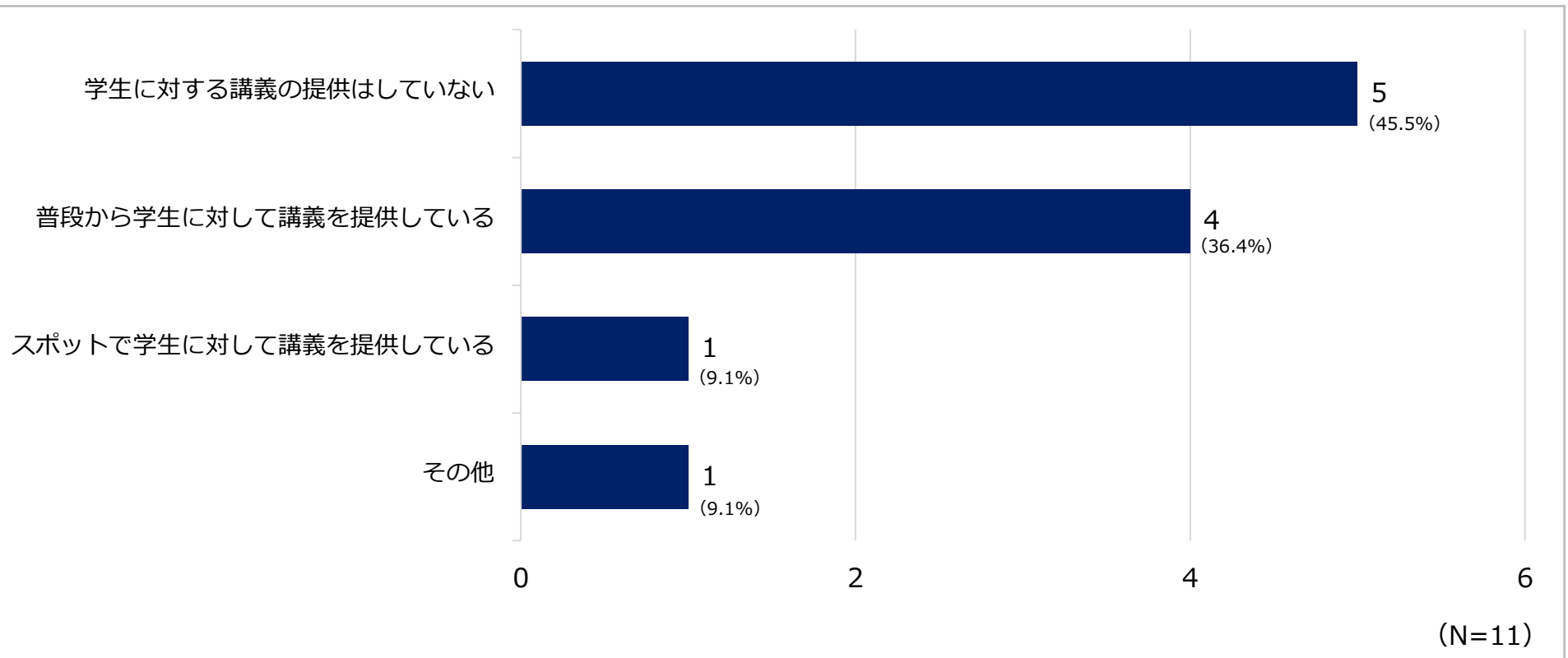
プログラム傍聴終了後のアンケート

✓ アンケート回答教職員において、学生に対するアントレ教育を提供の有無に差異はない

アンケート結果 (5/31)

設問

Q8. ご自身で学生に対し、アントレ教育に関する講義を提供していますか



Nは回答者数

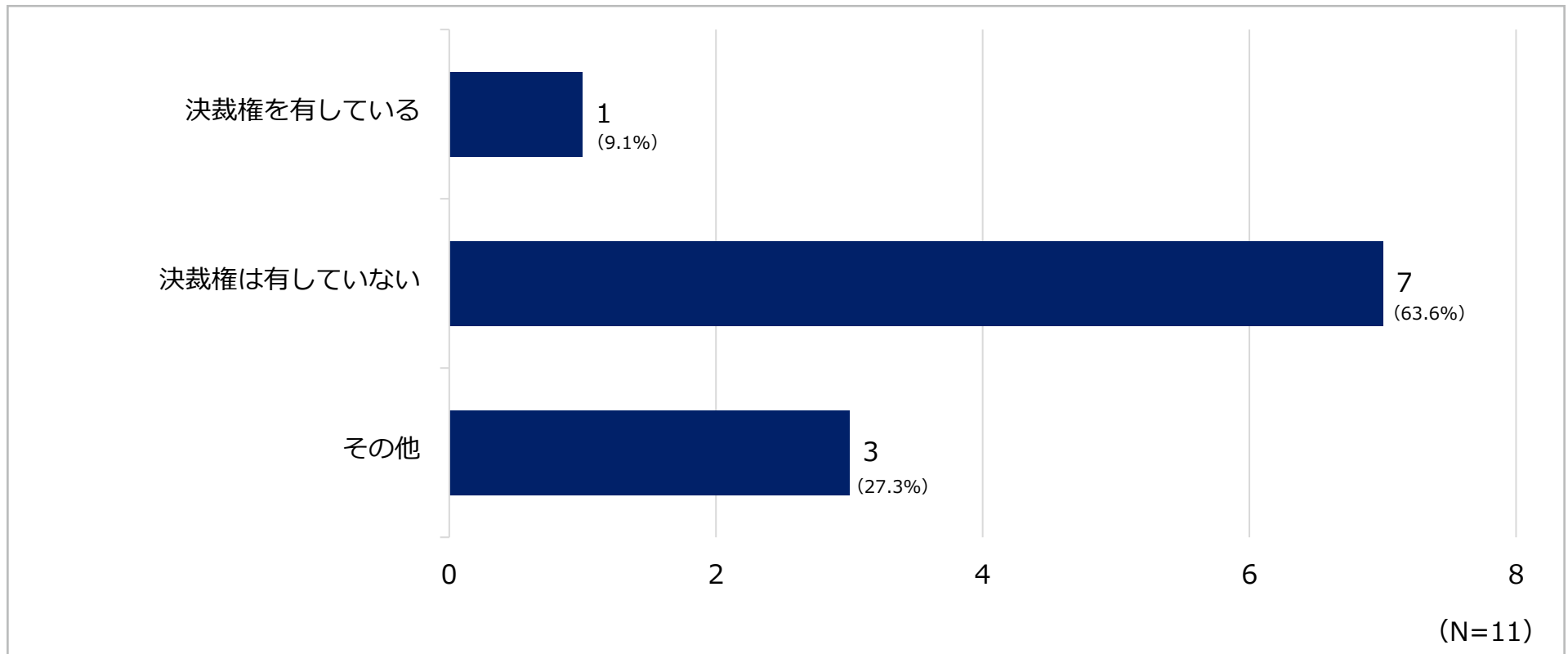
プログラム傍聴終了後のアンケート

✓ アンケート回答教職員は、アントレ教育について決裁権を有していない方が多い

アンケート結果 (6/31)

設問

Q9. 学内におけるアントレ教育の導入、拡充または縮小についての決裁権の有無をご教示ください



Nは回答者数

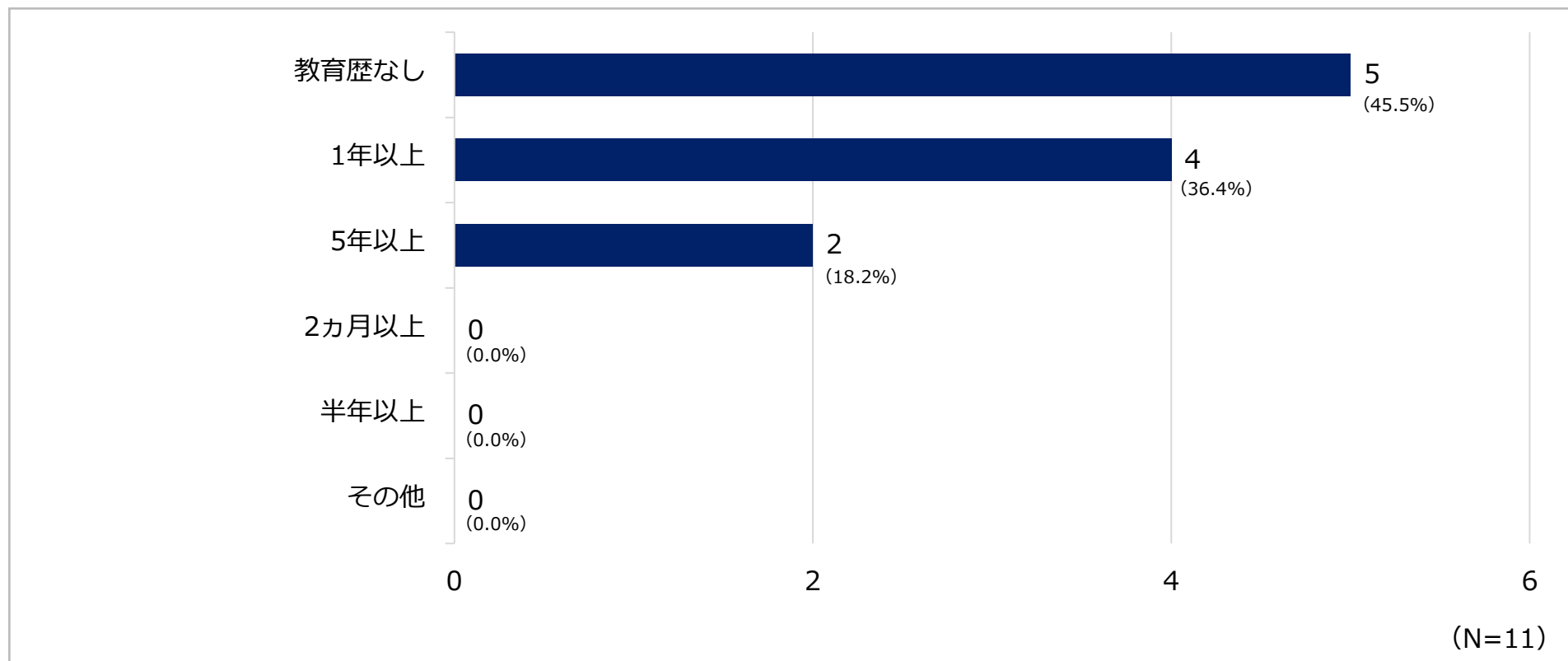
プログラム傍聴終了後のアンケート

✓ アンケート回答教職員のアントレ教育従事期間について、教育歴のない教職員が過半数である

アンケート結果 (7/31)

設問

Q10. 今までのアントレ教育の従事期間についてご教示ください



Nは回答者数

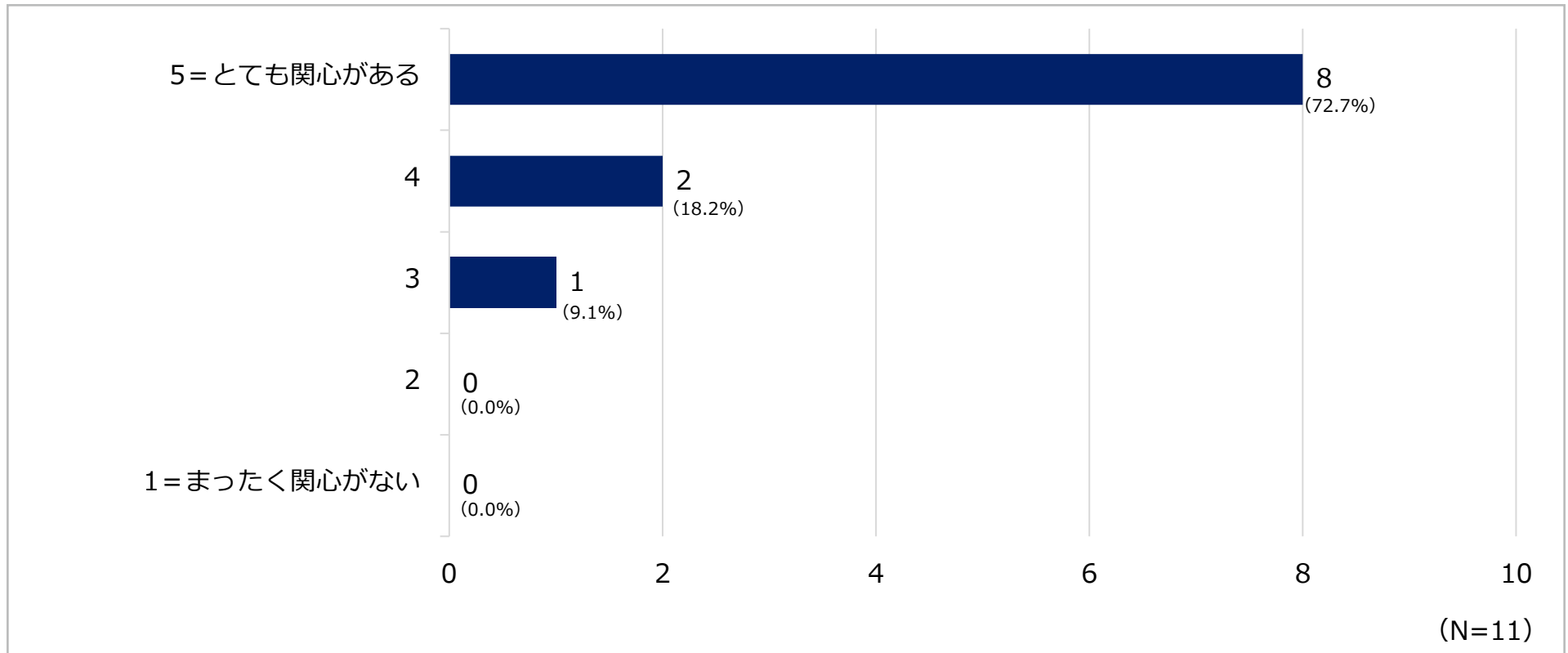
プログラム傍聴終了後のアンケート

✓ アンケート回答教職員のアントレ教育に関する関心について、とても関心がある（5）の回答が7割である

アンケート結果（8/31）

設問

Q11. アントレ教育についてどの程度の興味関心を持っていますか



Nは回答者数

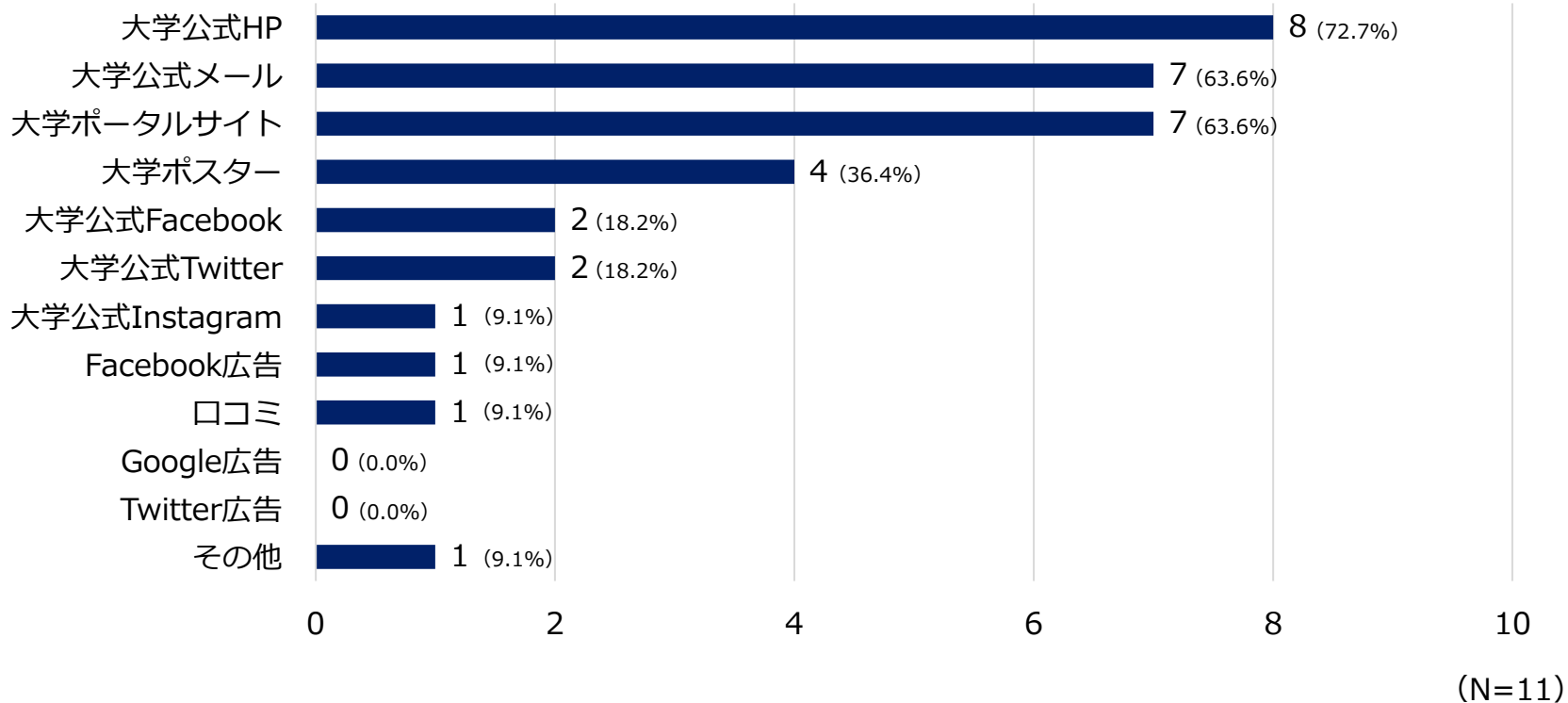
プログラム傍聴終了後のアンケート

✓ アンケート回答教職員が普段よく利用される媒体として、大学公式HP、大学公式メール、大学ポータルサイトが挙げられた

アンケート結果 (9/31)

設問

Q12. 業務上、普段からよく利用する媒体についてご教示ください (複数回答)



Nは回答者数

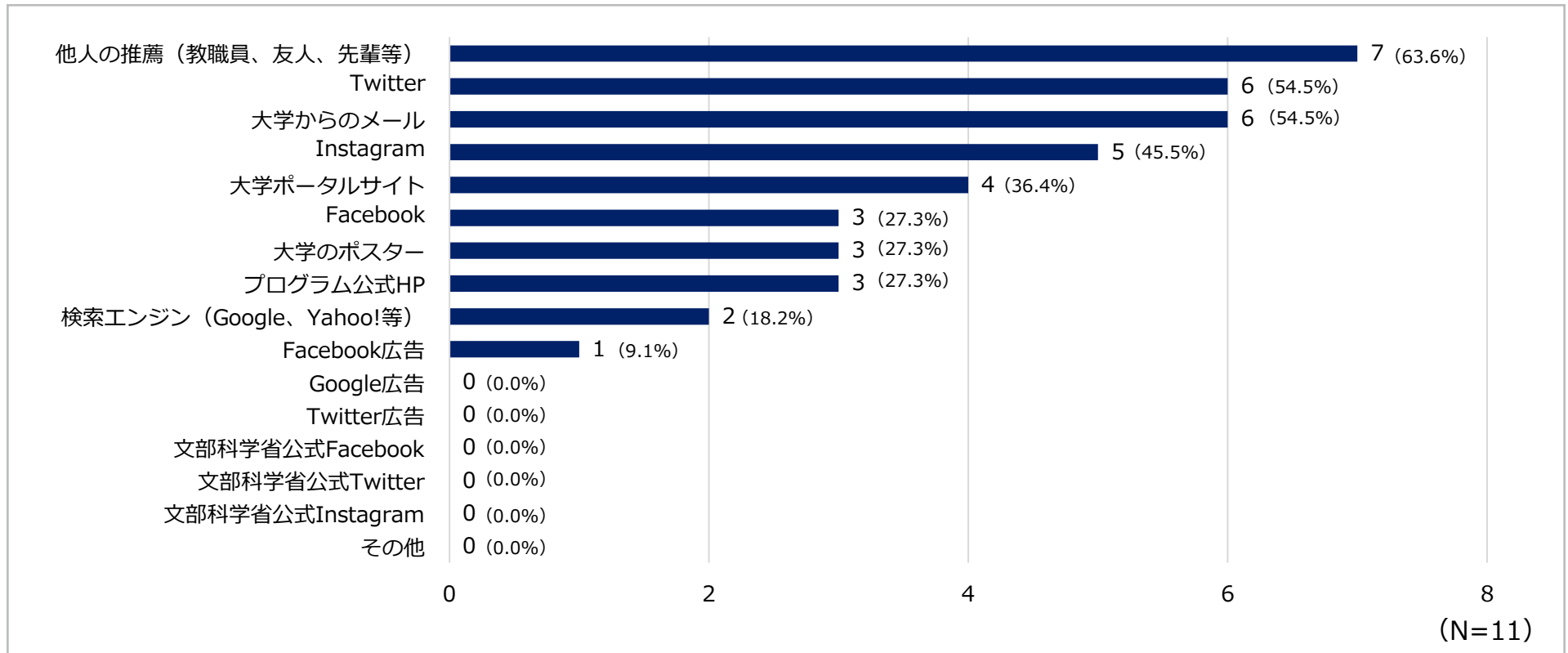
プログラム傍聴終了後のアンケート

✓ 学生の興味関心を集めるための媒体として、他人の推薦、SNS、大学からのメール等の影響力が大きいと回答を得た

アンケート結果 (10/31)

設問

Q13. 当プログラムへ学生の興味関心を集めるうえで、影響力のあると思われる媒体についてご教示ください（複数回答）



Nは回答者数

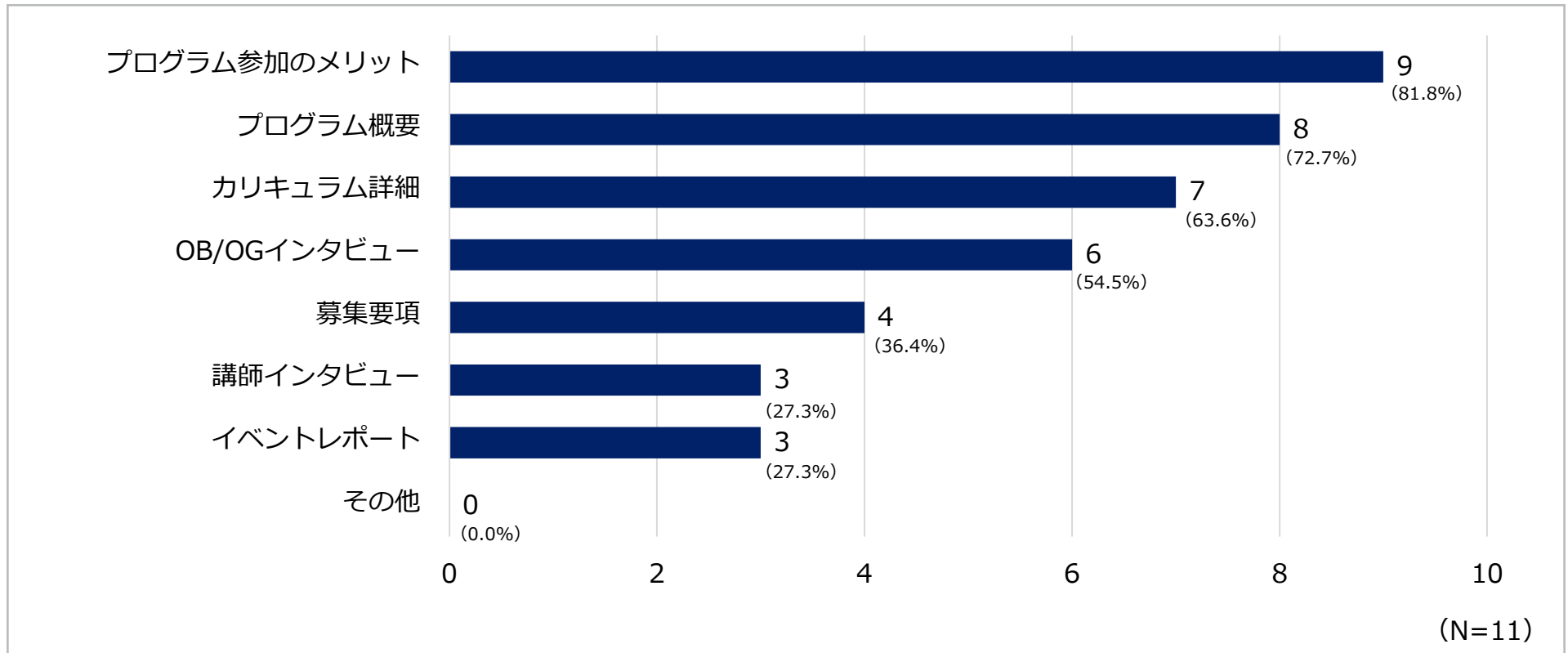
プログラム傍聴終了後のアンケート

✓ プログラムに関する情報発信について、プログラム参加のメリット、プログラム概要の発信が最も重要であると回答を得た

アンケート結果 (11/31)

設問

Q14. 当プログラムの魅力を伝えるうえで、どのような情報内容を重点的に発信する必要があると思いますか（複数回答）



Nは回答者数

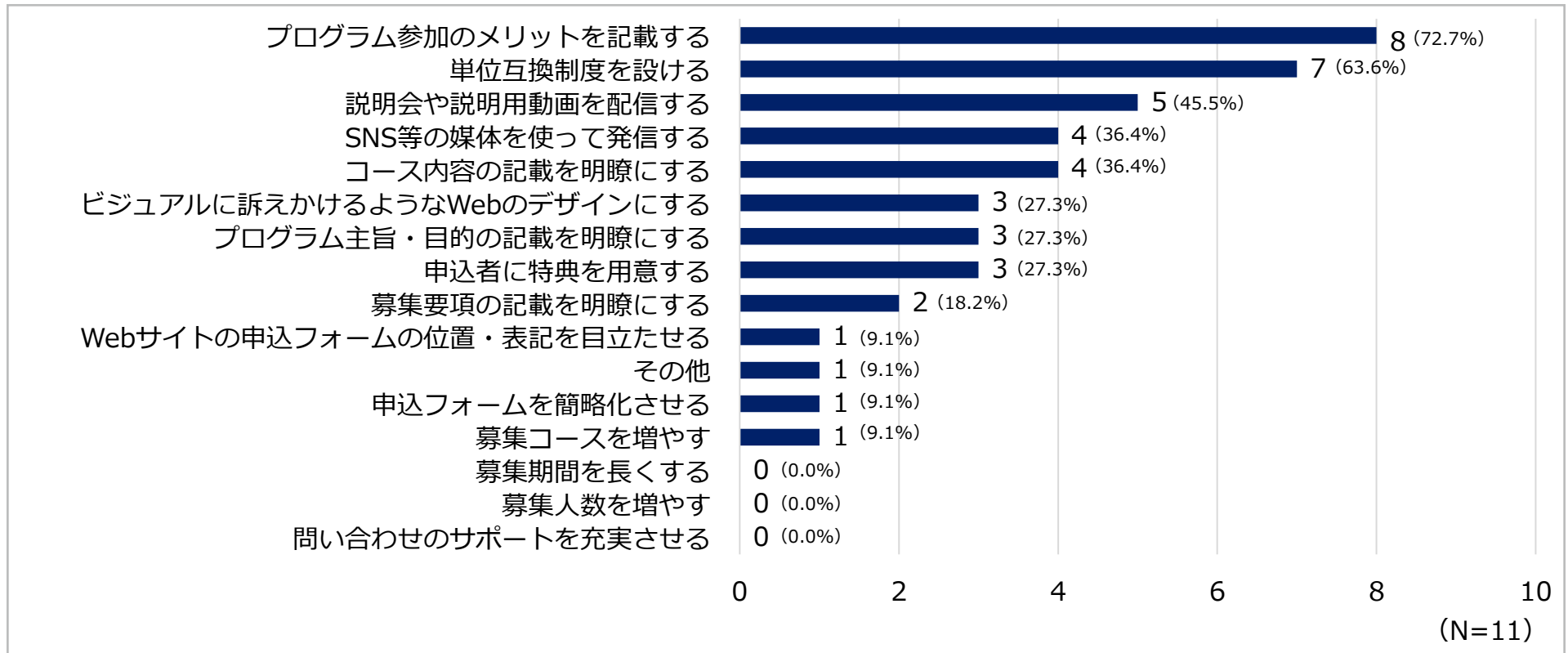
プログラム傍聴終了後のアンケート

✓ 学生の申込を促進するために、プログラム参加メリットの記載、単位互換制度等の改善が必要だと回答を得た

アンケート結果 (12/31)

設問

Q15. 当プログラムへの学生の申込を促進させる上で、どのような改善をする必要があると思いますか（複数回答）



Nは回答者数

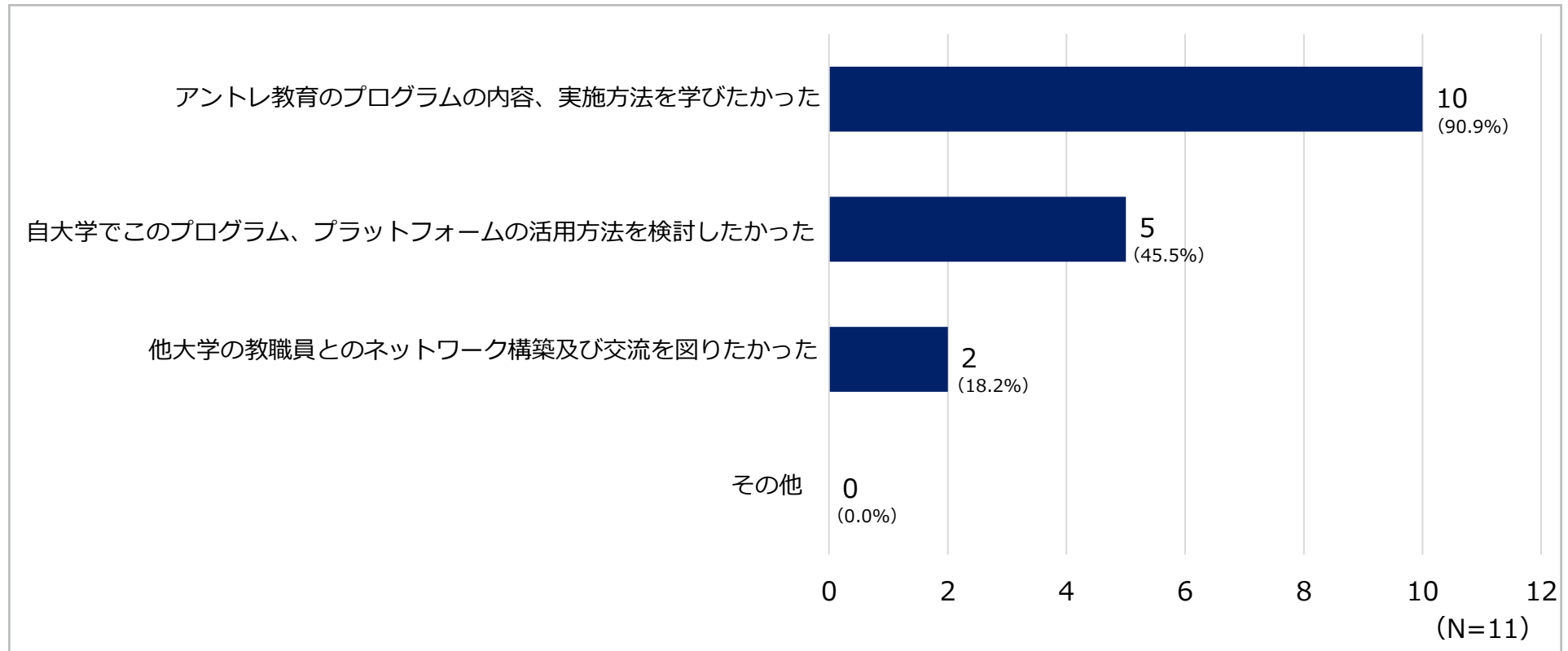
プログラム傍聴終了後のアンケート

- ✓ アンケート回答教職員によるプログラムの参加動機について、アントレ教育プログラムの実施方法の学習について最も多く回答を得た

アンケート結果 (13/31)

設問

Q16. 当プログラムに参加した理由、動機は何ですか（複数回答）



Nは回答者数

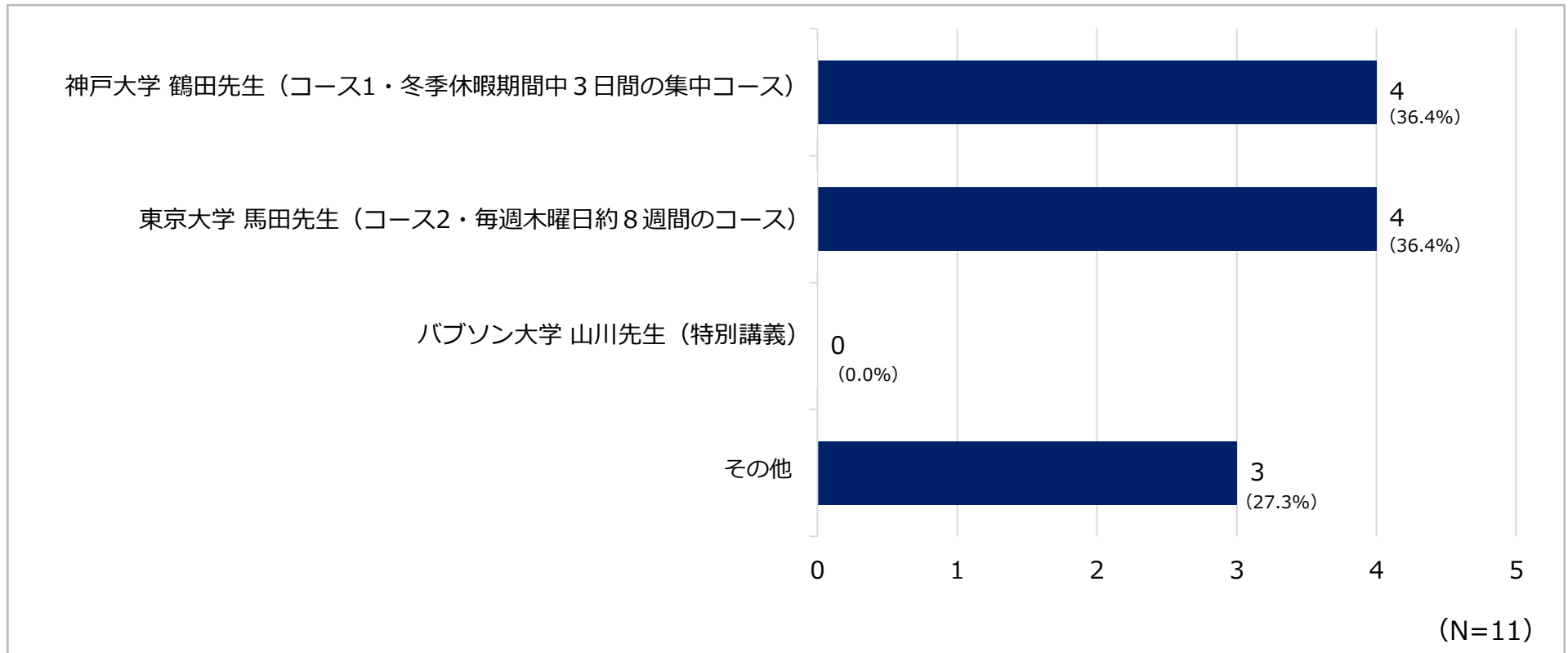
プログラム傍聴終了後のアンケート

✓ アンケート回答教職員の傍聴講義として、コース間で人数の差異は見られなかった

アンケート結果 (14/31)

設問

Q17. 本プログラムで傍聴した講義についてご教示ください



Nは回答者数

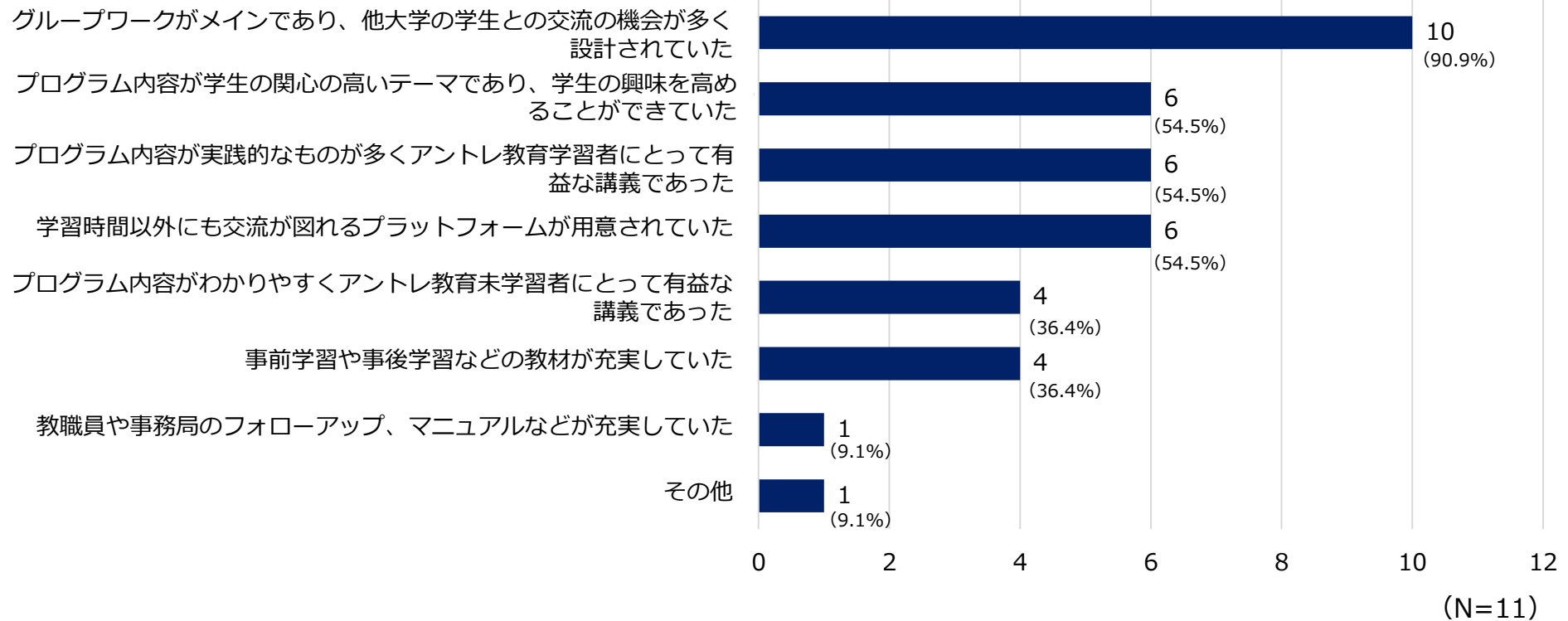
プログラム傍聴終了後のアンケート

✓ 学生がプログラムを受講する上で、グループワークを通じた学生間の交流が最も有益であるという意見が多かった

アンケート結果 (15/31)

設問

Q18. 当プログラムを学生が受講する上で、どのような点が有益だと思いましたか（複数回答）



Nは回答者数

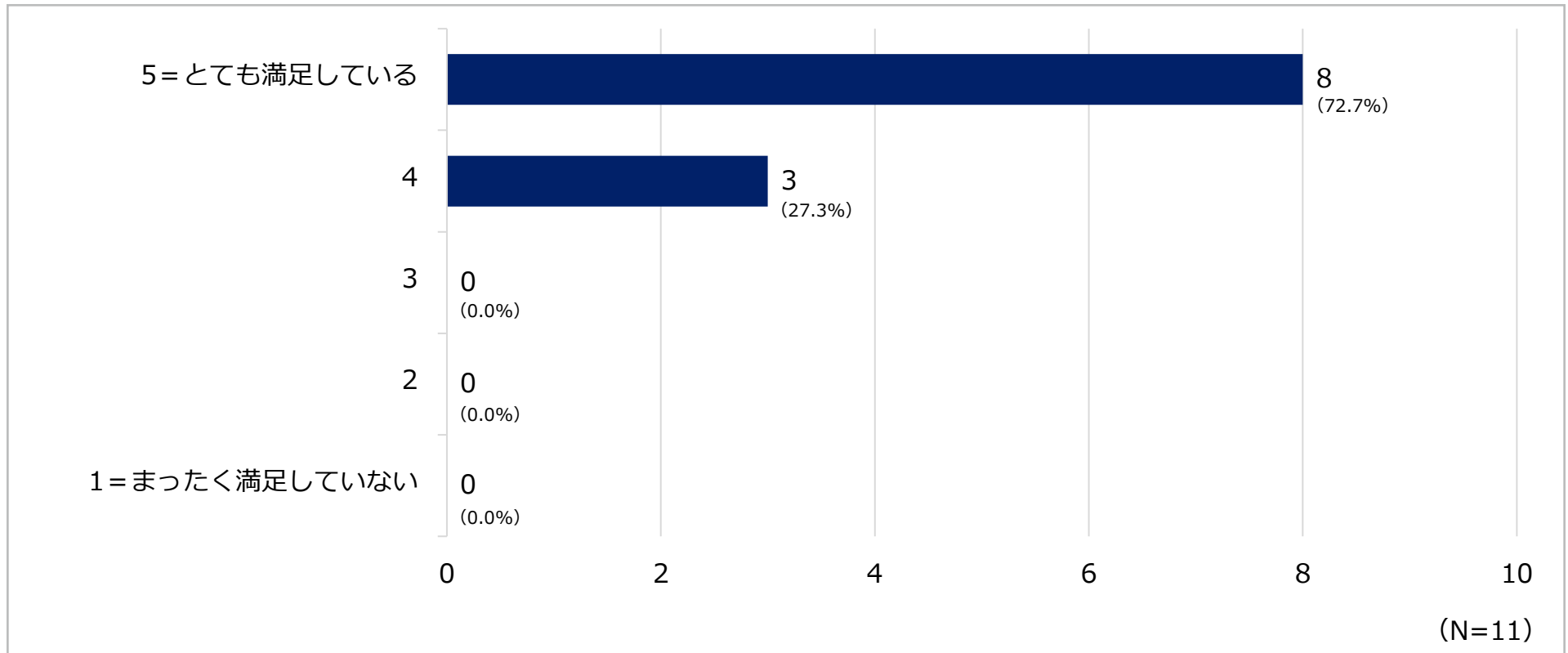
プログラム傍聴終了後のアンケート

✓ アンケート回答教職員の本プログラムの満足度について、とても満足している（5）と回答した教職員は7割である

アンケート結果（16/31）

設問

Q19. 本プログラムに満足していますか



Nは回答者数

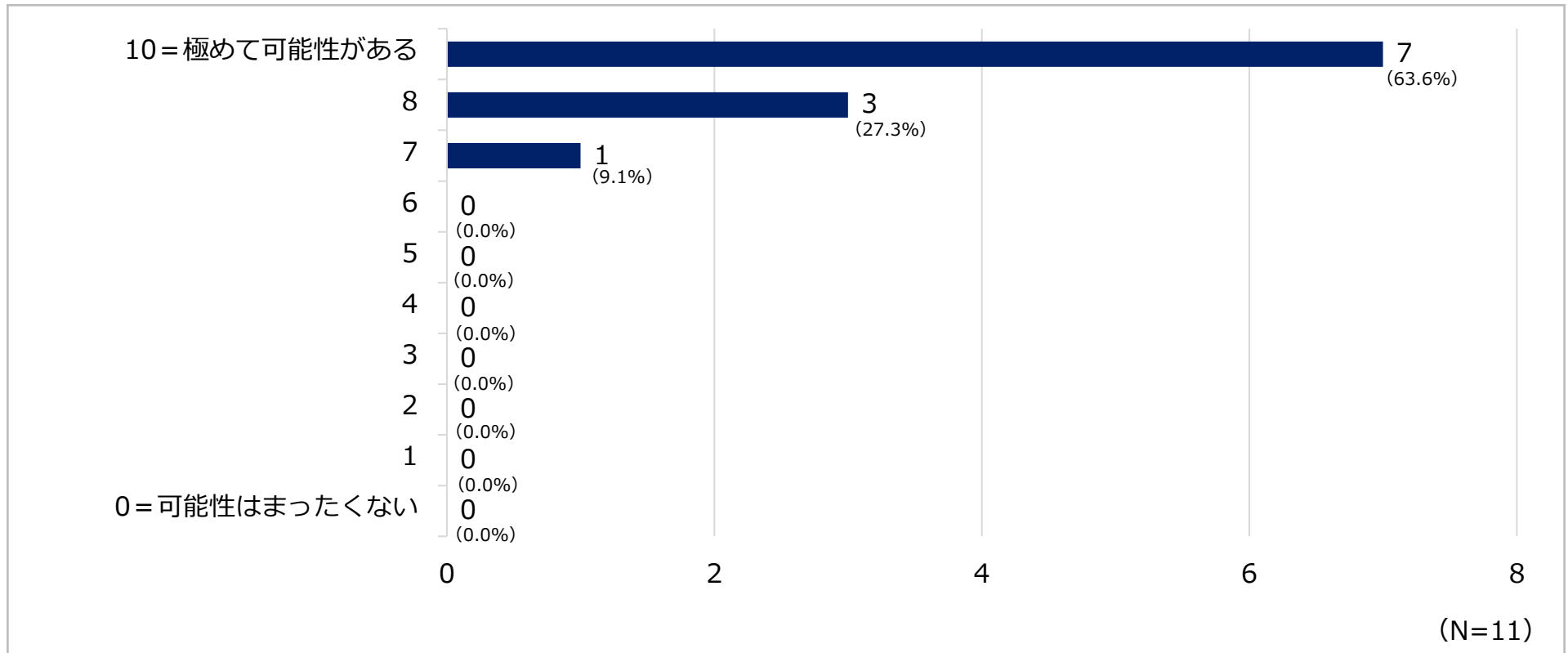
プログラム傍聴終了後のアンケート

✓ アンケート回答教職員の本プログラムの推奨度について、極めて可能性がある（10）と回答した教職員が6割である

アンケート結果（17/31）

設問

Q21. 本プログラムを同僚/学生に勧める可能性はありますか



Nは回答者数

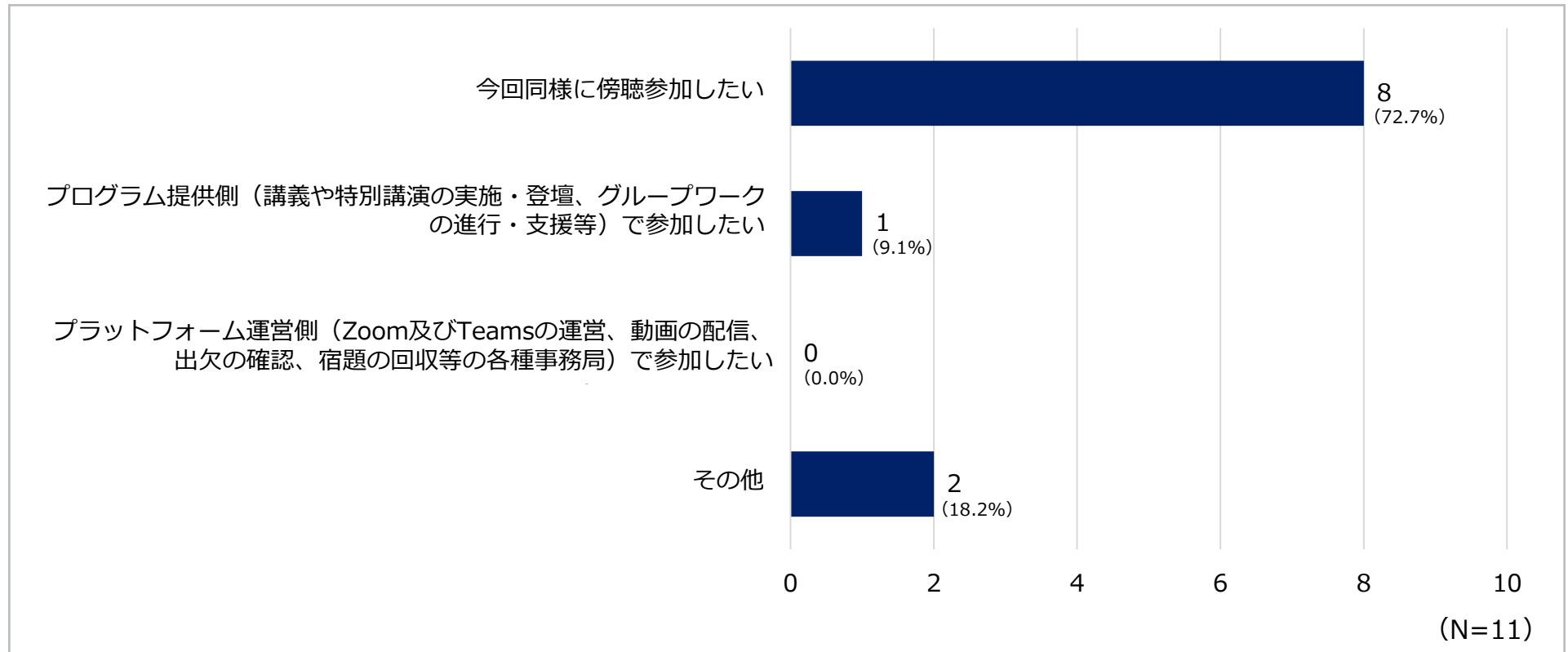
プログラム傍聴終了後のアンケート

✓ アンケート回答教職員が希望する今後の参加形態として、傍聴参加の形について最も多くの回答を得た

アンケート結果 (18/31)

設問

Q23. 今後もこのようなプログラムが開催される場合、どのような形で参加したいですか



Nは回答者数

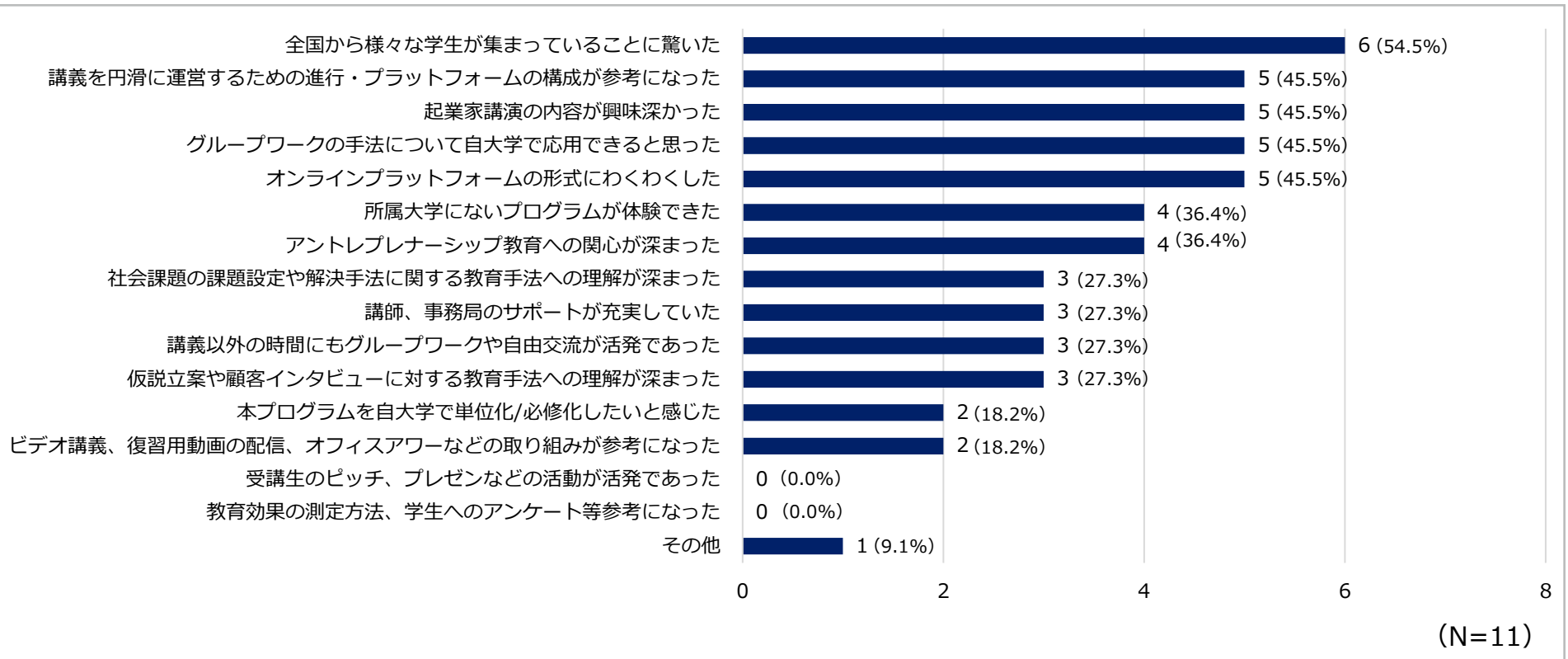
プログラム傍聴終了後のアンケート

- ✓ アンケート回答教職員の本プログラムを参加した感動体験として、全国から学生の集まり、起業家講演の内容、自大学への応用、オンラインプラットフォームの構成と運営等についての回答が多かった

アンケート結果 (19/31)

設問

Q24. 本プログラムを通して、感動するような体験はありましたか (複数回答)



Nは回答者数

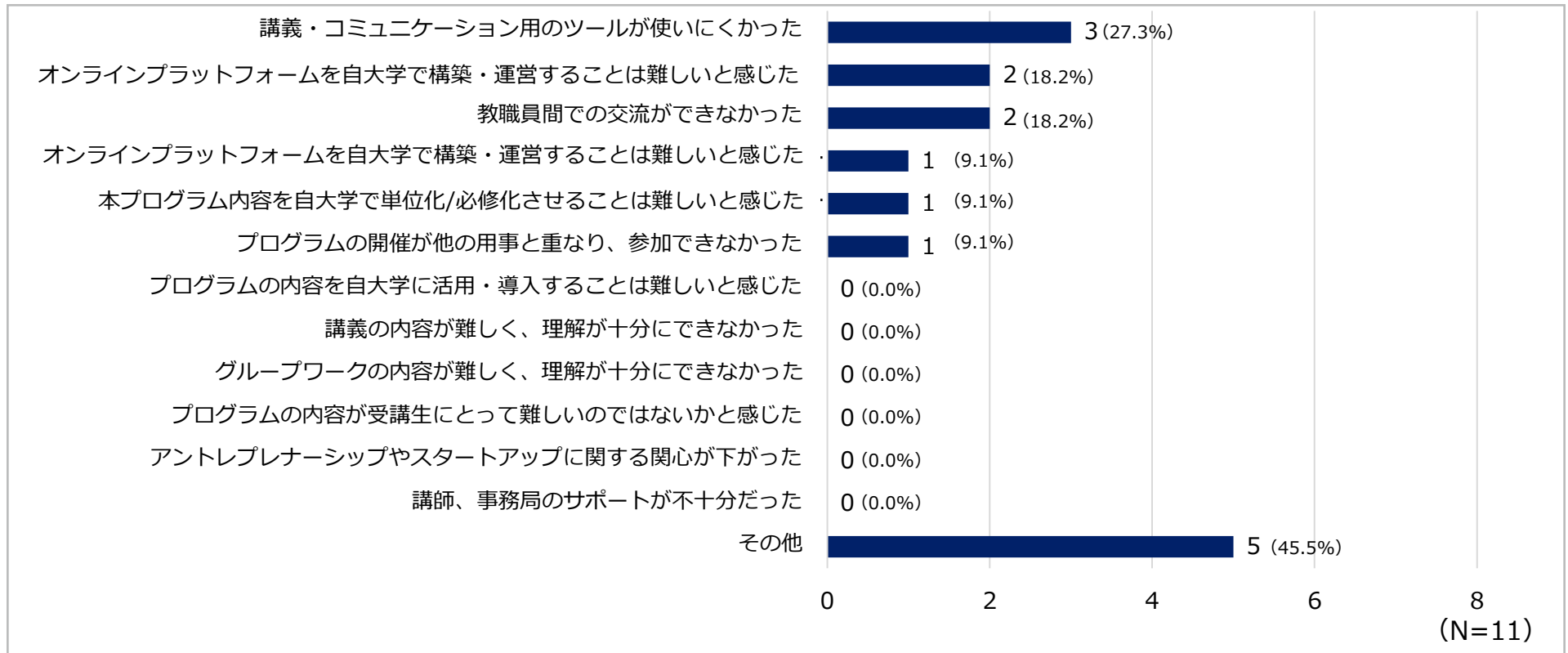
プログラム傍聴終了後のアンケート

- ✓ アンケート回答教職員の本プログラムを参加した失望体験として、ツールの使いにくさ、オンラインプラットフォームの自大学で構築・運営することの難しさ、教職員間交流の不十分等について多くの回答を得た

アンケート結果 (20/31)

設問

Q25. 本プログラムを通して、失望するような体験はありましたか (複数回答)



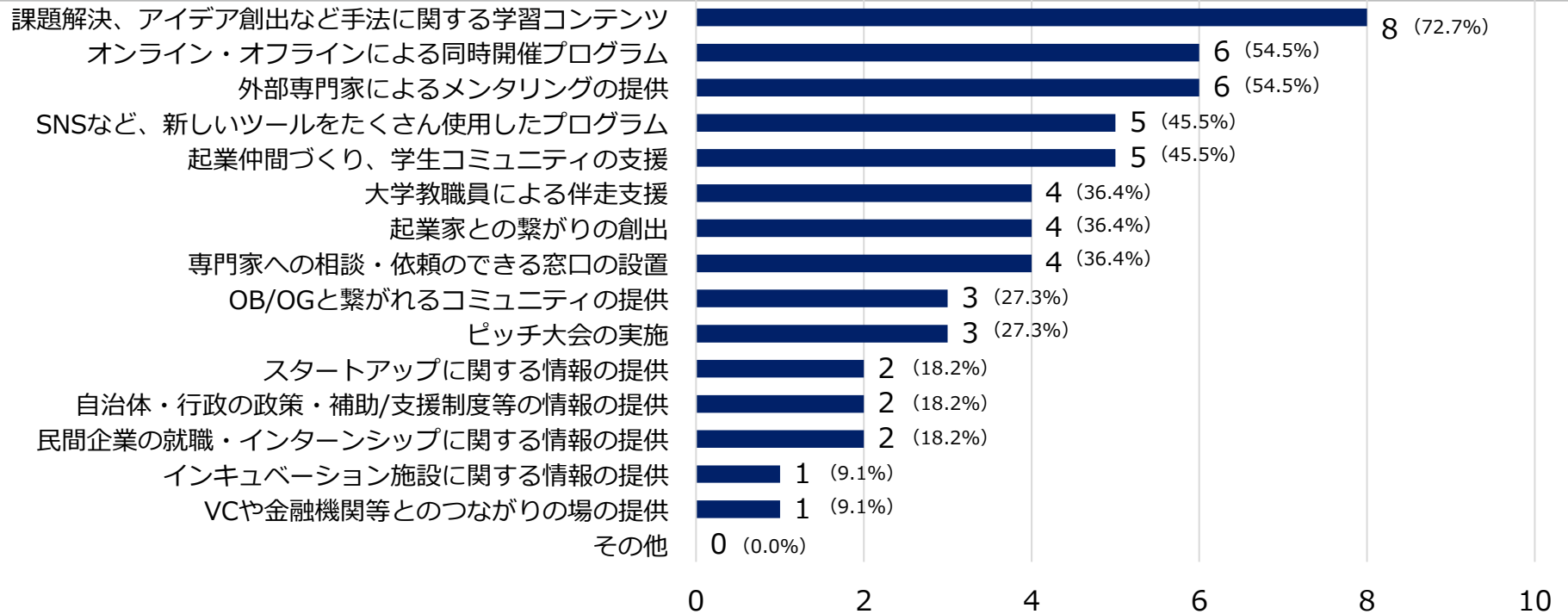
プログラム傍聴終了後のアンケート

- ✓ アントレ教育を実施する上で、課題解決、アイデア創出など手法に関する学習コンテンツが望ましいとの回答が多く、オンライン・オフラインの同時開催や専門家によるメンタリングの提供等の回答も挙がった

アンケート結果 (21/31)

設問

Q26. アントレプレナーシップ教育を実施する上で、どのような内容・形式が望ましいと思いますか（複数回答）



(N=11)

Nは回答者数

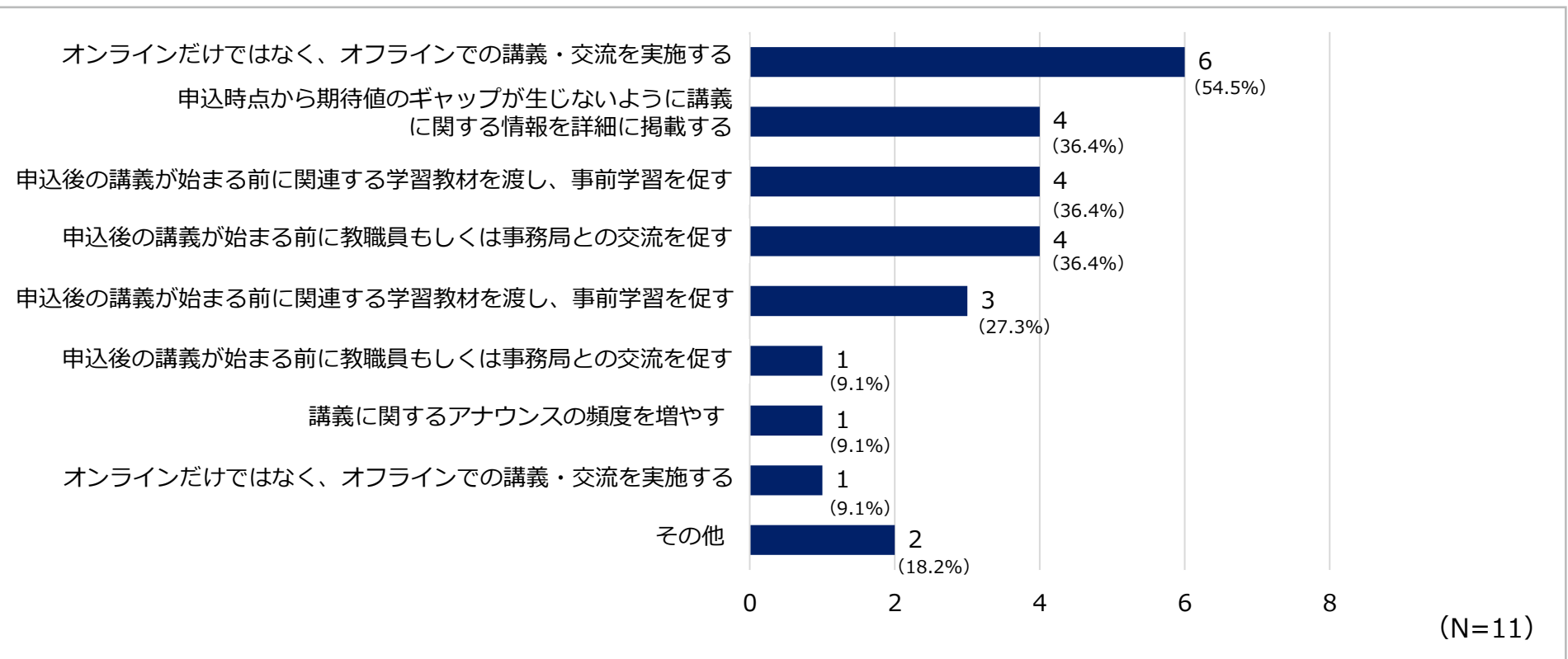
プログラム傍聴終了後のアンケート

- ✓ オンラインプログラムの継続率を保持させるためには、オンラインだけではなく、オフラインでの講義・交流を実施することや、事期待値のギャップが生じないように申し込み時点から詳細な情報の提供等の回答が挙げられた

アンケート結果 (22/31)

設問

Q27. オンラインプログラムの継続受講率は一般的に低く、本プログラムにおいても継続受講者は全体の30~40%ほどでした。このような離脱を防ぎ、継続して受講してもらうためにはどのような取り組みが必要だと考えますか（複数回答）



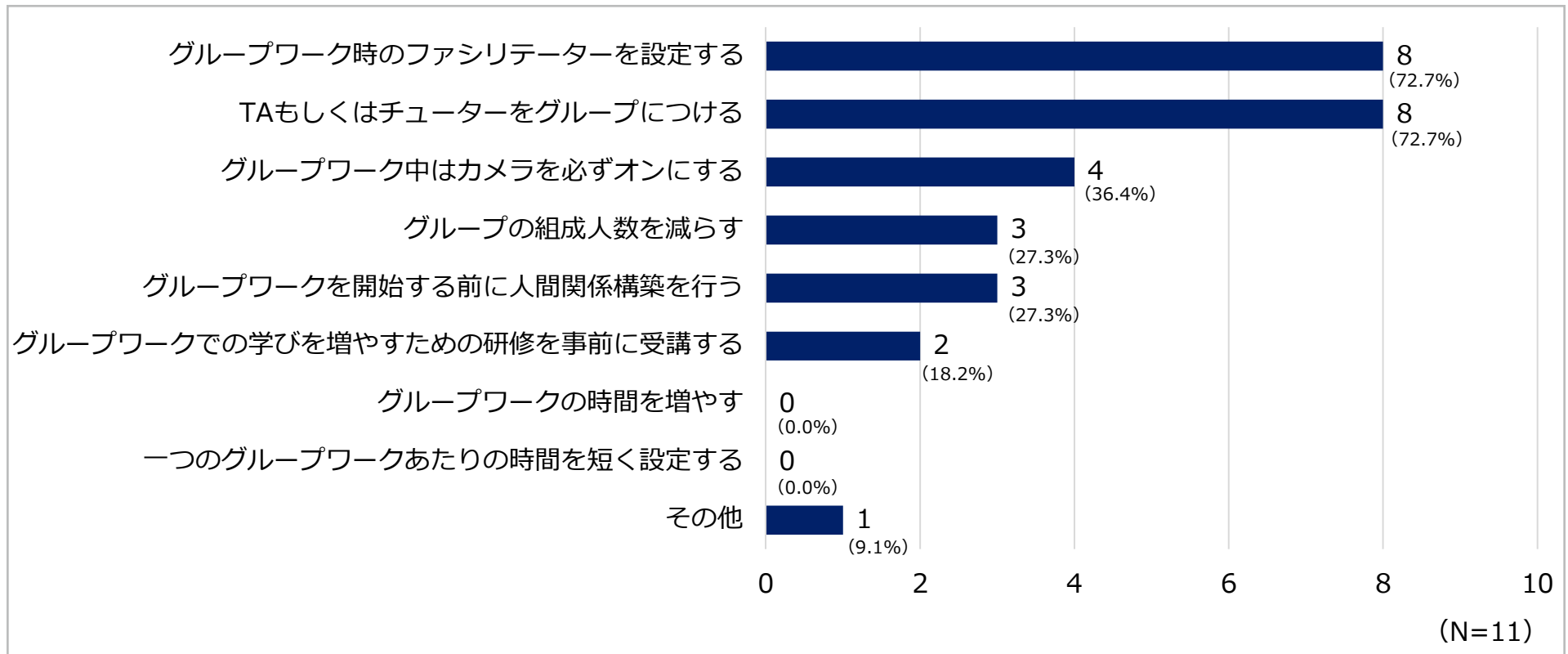
プログラム傍聴終了後のアンケート

- ✓ グループワークを活性化させるための取組として、ファシリテーターの設定やTAやチューターによるサポート等の回答が挙げられた

アンケート結果 (23/31)

設問

Q28. 本プログラムはグループワークをメインとした形式でしたが、グループによってグループワークの活発度は異なっておりました。オンラインプログラムにおいて、グループワークを活性化させるためにはどのような取り組みが必要だと考えますか（複数回答）



Nは回答者数

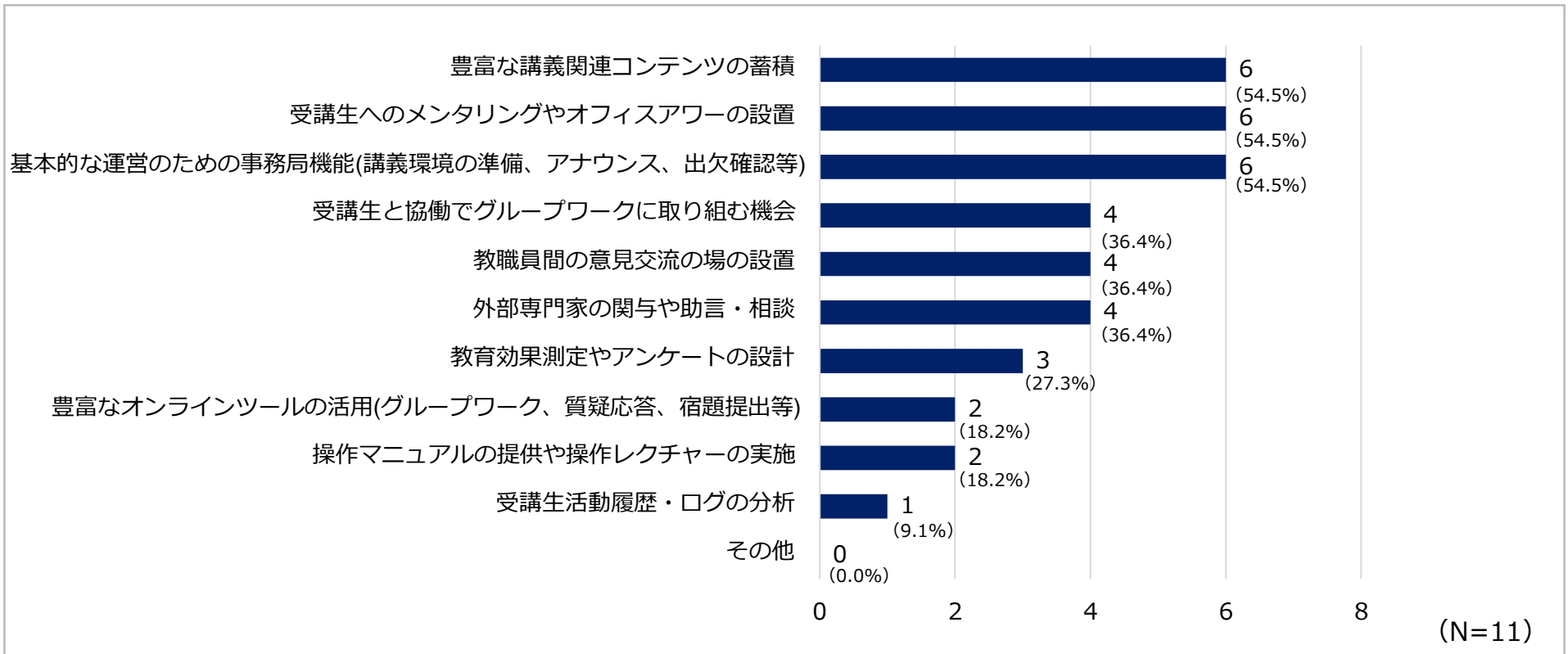
プログラム傍聴終了後のアンケート

- ✓ 教職員がプラットフォームに参画する際に、講義関連コンテンツの蓄積、受講生へのメンタリングやオフィスアワーの設置、事務局機能の整備に関するサポート等の回答が挙げられた

アンケート結果 (24/31)

設問

Q29. ご自身がオンラインプラットフォームに参画する際に、どのような機能・サポート等が必要だと思いますか (複数回答)



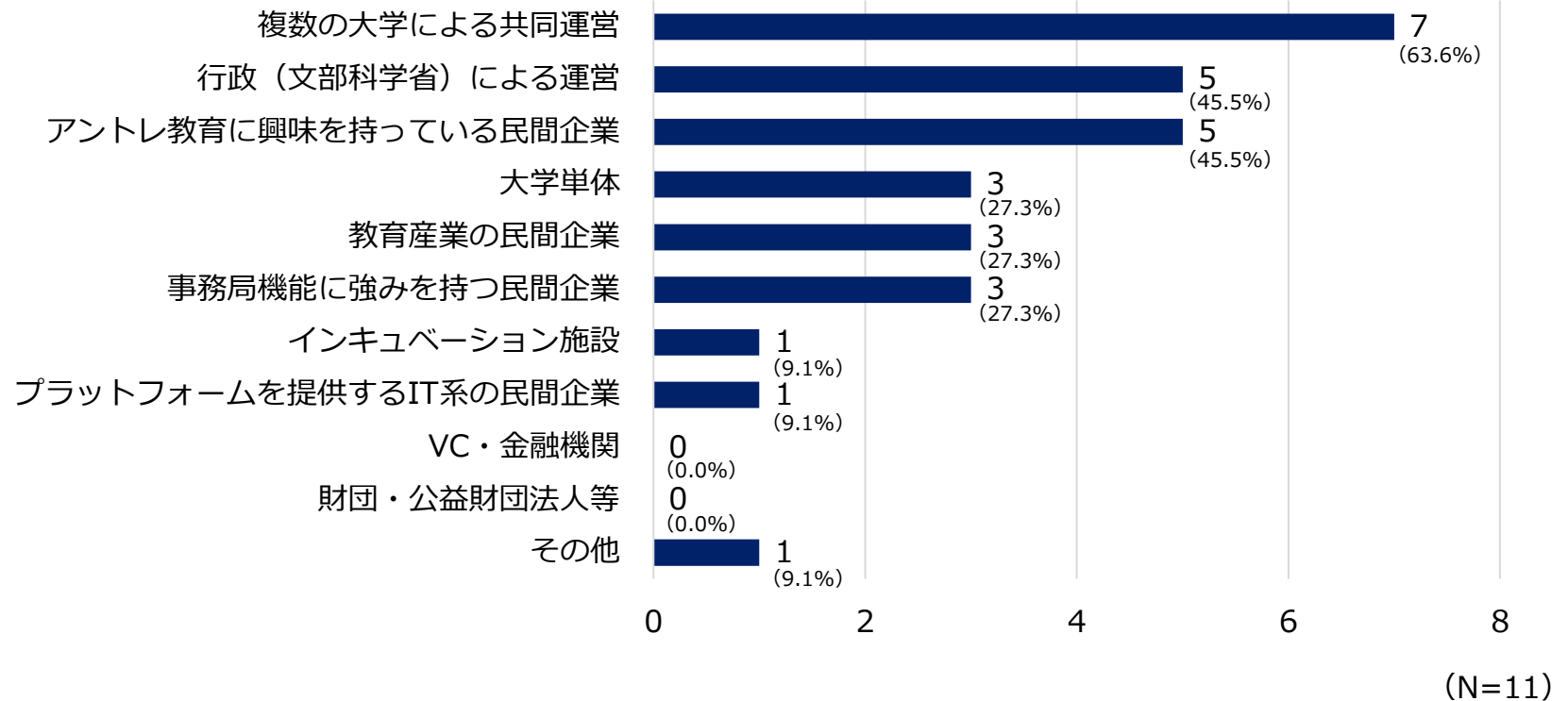
プログラム傍聴終了後のアンケート

- ✓ アントレ教育プラットフォームを運営するための主体として、複数大学による共同運営、行政、民間企業がふさわしいとの回答が多かった

アンケート結果 (25/31)

設問

Q30. アントレ教育プラットフォームを持続的・自立的に運営していくために、誰が運営をしていくのがふさわしいと考えますか（複数回答）



Nは回答者数

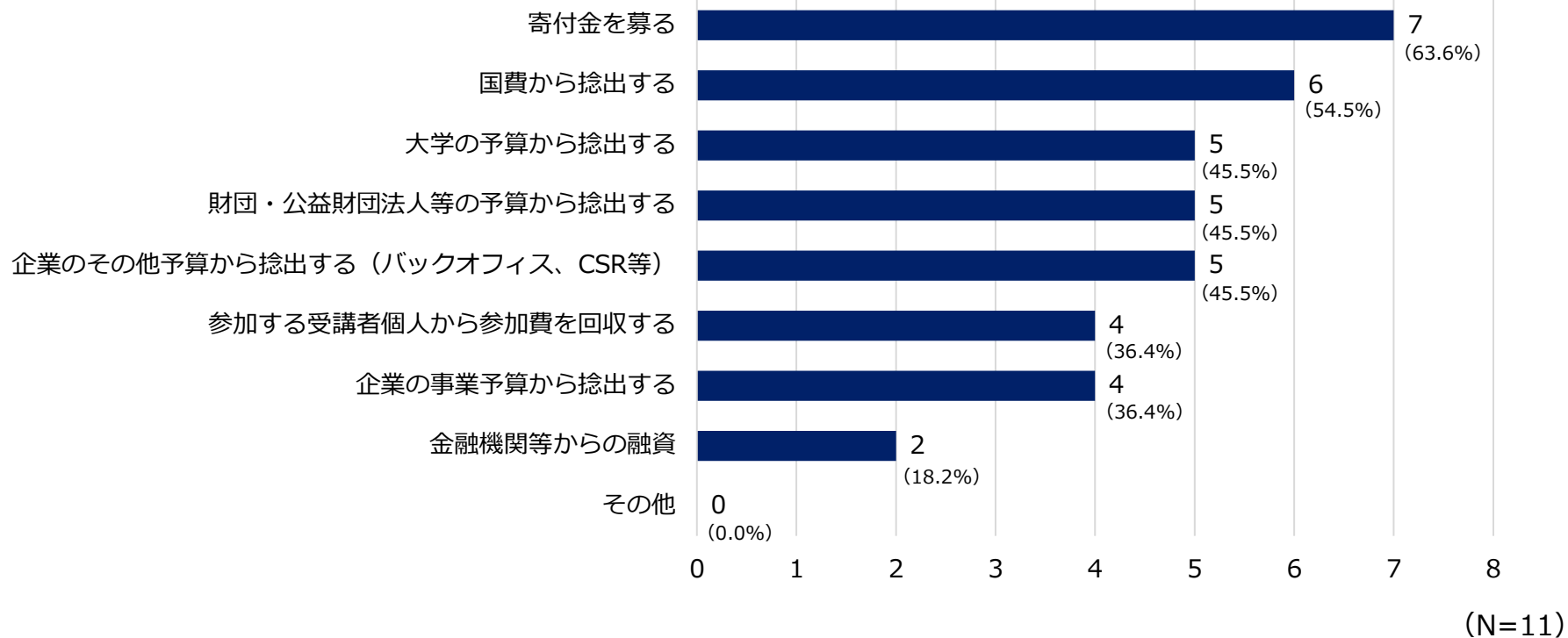
プログラム傍聴終了後のアンケート

- ✓ アントレ教育プラットフォームを運営するための資金源について、寄付金、国費、大学予算、財団法人予算、企業予算に関する回答が多かった

アンケート結果 (26/31)

設問

Q31. アントレ教育プラットフォームを持続的・自立的に運営していくために、どのような形で金銭的なリソースを確保していくのがふさわしいと考えますか（複数回答）



Nは回答者数

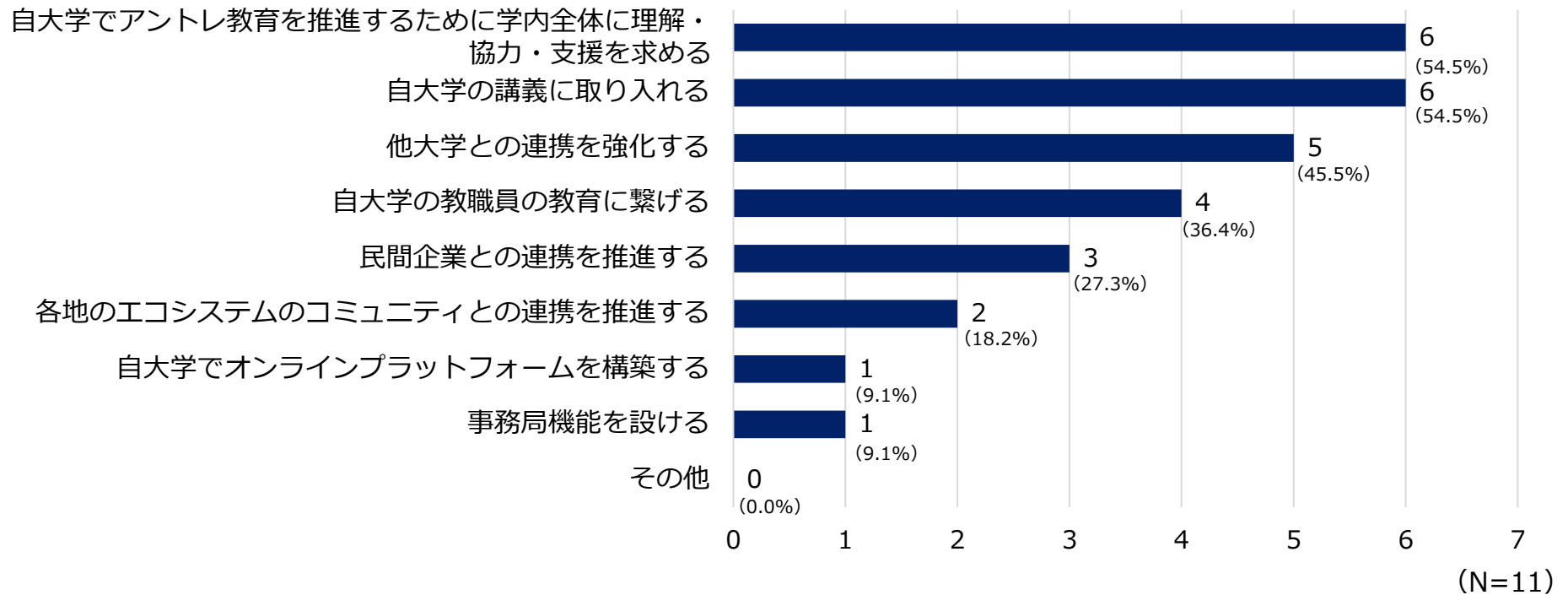
プログラム傍聴終了後のアンケート

- ✓ プログラムで得たノウハウの自大学への還元について、学内全体に理解・協力・支援を求めること、自大学の講義に取り入れること、他大学との連携強化、自大学の教職員の教育等について回答が挙げられた

アンケート結果 (27/31)

設問

Q32. プログラムで得たノウハウを自大学に還元する方法として、どのような方法があると考えますか（複数回答）



Nは回答者数

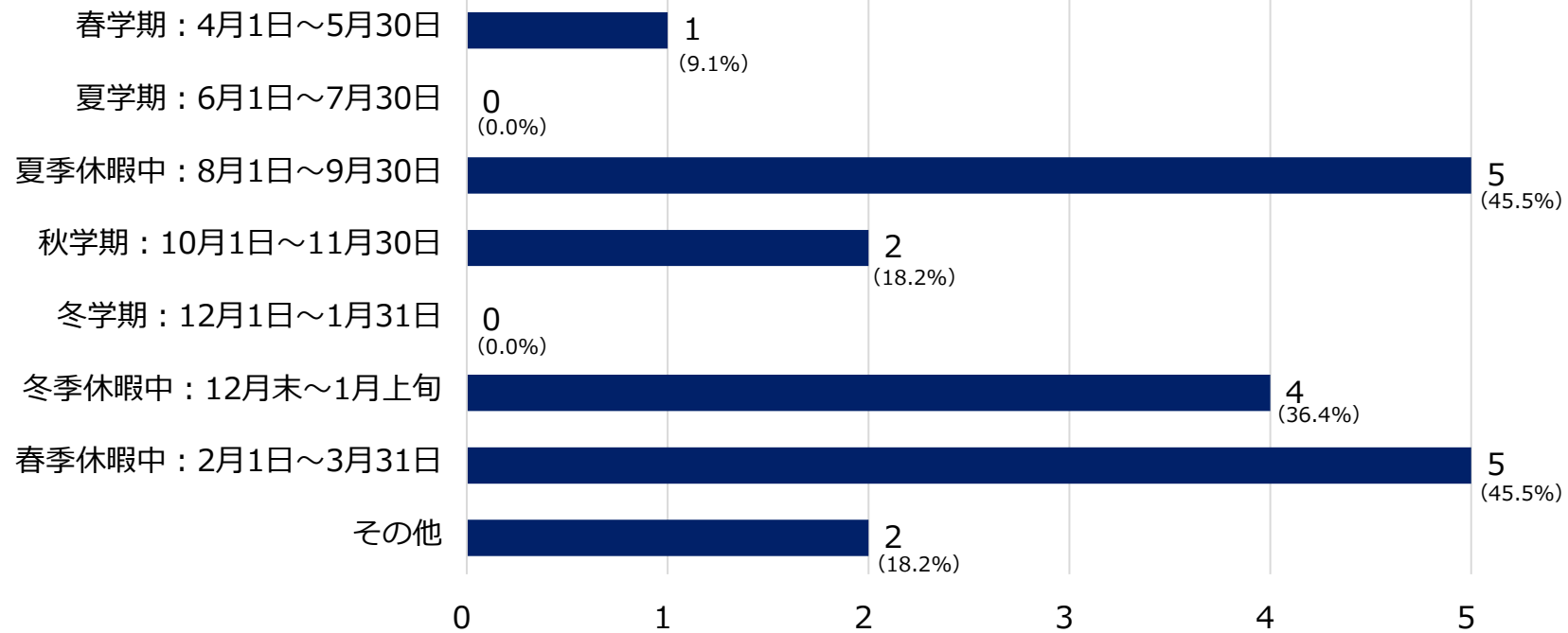
プログラム傍聴終了後のアンケート

✓ プログラムの望ましい時期について、春季・夏季・冬季休暇中が望ましいとの回答を得た

アンケート結果 (28/31)

設問

Q33. プログラム実施時期について、望ましい時期をご教示ください (複数回答)



(N=11)

Nは回答者数

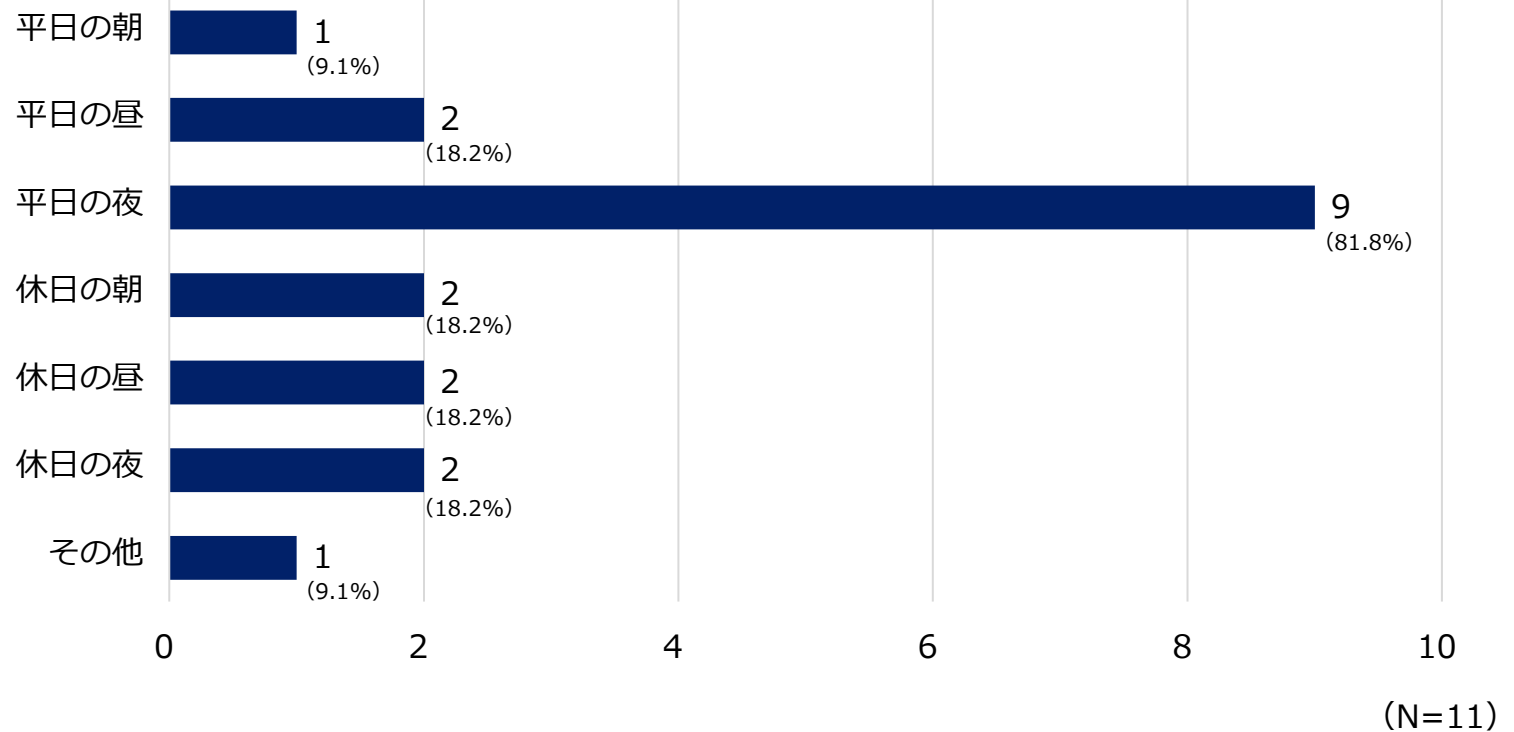
プログラム傍聴終了後のアンケート

✓ プログラムの望ましい実施時間帯について、平日の夜での実施が最も多くの回答を得た

アンケート結果 (29/31)

設問

Q34. プログラム実施時間について、望ましい時間をご教示ください (複数回答)



Nは回答者数

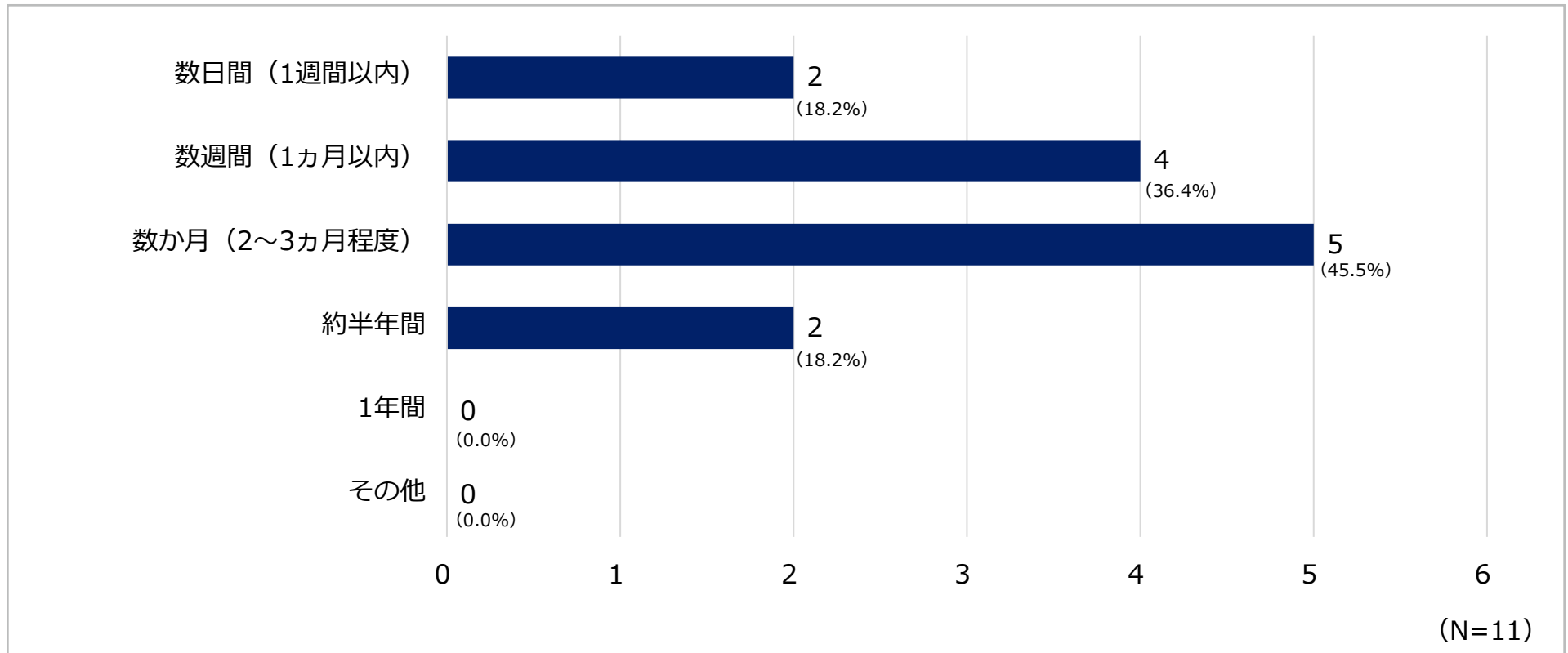
プログラム傍聴終了後のアンケート

✓ プログラムの望ましい実施期間について、数か月（2～3カ月程度）、数週間（1カ月以内）との回答が多くみられる

アンケート結果（30/31）

設問

Q35. プログラム実施期間について、望ましい期間をご教示ください（複数回答）



Nは回答者数

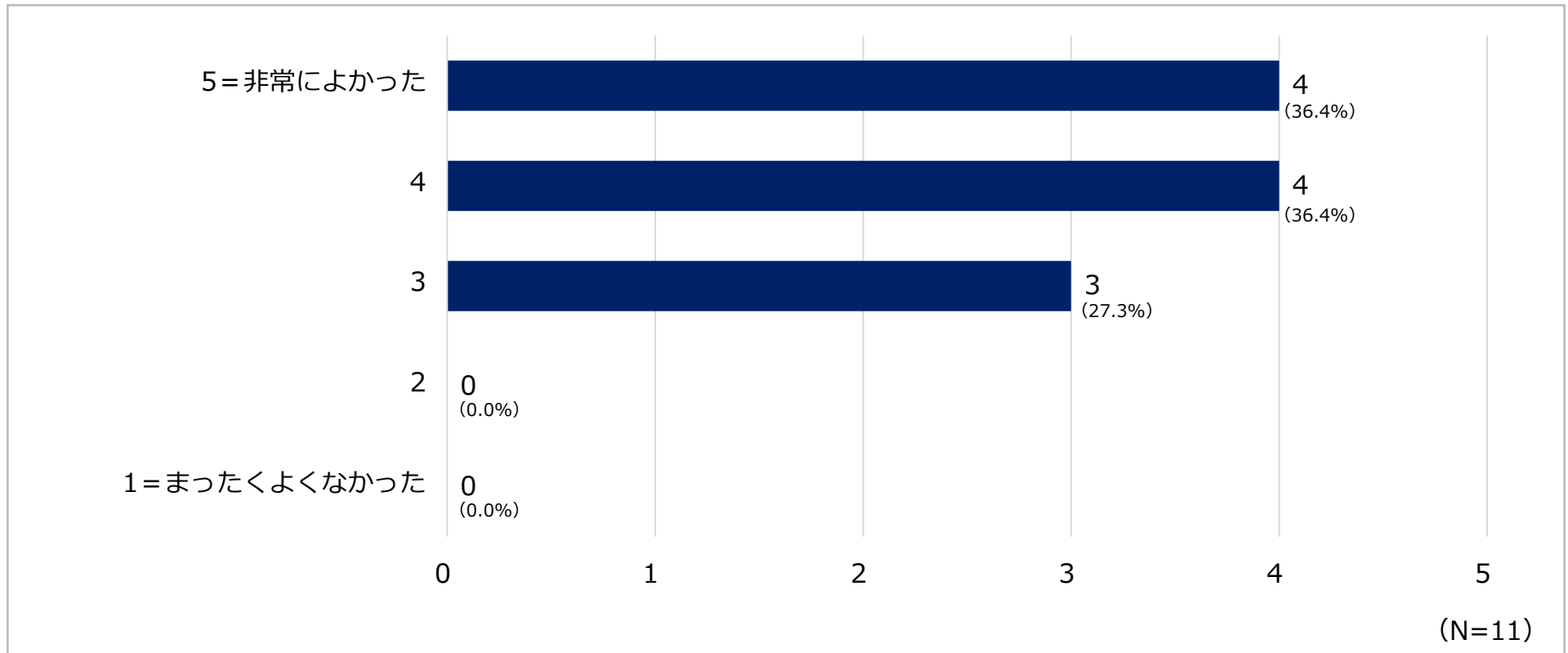
プログラム傍聴終了後のアンケート

✓ 事務局サポートが非常に良かった・良かったとの回答が多く、良くなかったとの回答が見られなかった

アンケート結果 (31/31)

設問

Q36. 当プログラムの事務局サポートはいかがでしたか



Nは回答者数



文部科学省